

総合検査案内

2018-2019

生化学検査

薬物検査

腫瘍関連検査

内分泌学検査

免疫血清学検査

ウイルス学検査

細胞性免疫/染色体検査

血液学検査

一般臨床検査

微生物学検査

病理学検査

総合検査案内

CONTENTS

■ 検査項目索引	索引-1 ~ 索引-10
■ ご利用の手引き	手引き-1 ~ 手引き-5
■ 緊急報告対象項目とその基準値	手引き-6
■ 実施料について	手引き-7 ~ 手引き-8
■ 主な検査方法の概略	手引き-9 ~ 手引き-11

生化学検査	1 ~ 15	
薬物検査	16 ~ 22	
腫瘍関連検査	23 ~ 26	
内分泌学検査	27 ~ 37	
免疫血清学検査	38 ~ 52	
ウイルス学検査	53 ~ 64	
細胞性免疫 / 染色体検査	65 ~ 67	
血液学検査	68 ~ 71	
一般臨床検査	72 ~ 74	
微生物学検査	75 ~ 77	
病理学検査	78 ~ 80	

■ 参照資料(特定健診について)	81 ~ 82
■ 主要参考文献	83 ~ 94
■ 専用容器一覧	95 ~ 102
■ 登録衛生検査所一覧	105

検査項目索引

五十音順

ア	頁	保険点数
アイソザイム〈ALP〉	3	48
アイソザイム〈CK〉	3	55
アイソザイム〈LD〉	3	48
亜鉛〈Zn〉	9	144
(抗)アクアポリン4抗体	43	1000
アスペルギルス抗原 (EIA 法)	39	164
アスペルギルス抗体 (CF 法)	39	
(抗)アセチルコリンレセプター結合抗体 (抗AChR抗体)	49	847
アセトアミノフェン	19	190
アデノ (CF 法)	53	79
アデノ1型 (NT 法)	56	79
アデノ2型 (NT 法)	56	79
アデノ3型 (NT 法)	56	79
アデノ4型 (NT 法)	56	79
アデノ5型 (NT 法)	56	79
アデノ6型 (NT 法)	56	79
アデノ7型 (NT 法)	56	79
アデノ8型 (NT 法)	56	79
アデノ11型 (NT 法)	56	79
アデノ19型 (NT 法)	56	79
アデノ37型 (NT 法)	56	79
アデノシンデアミナーゼ〈ADA〉	2	32
アトピー鑑別試験	43	194
アプリンジン	18	(470)
アポ蛋白A-I	6	頁参照
アポ蛋白A-II	6	頁参照
アポ蛋白B	6	頁参照
アポ蛋白C-II	6	頁参照
アポ蛋白C-III	6	頁参照
アポ蛋白E	6	頁参照
アミオダロン	18	(470)
アミカシン	19	(470)
アミトリプチリン・ノルトリプチリン	17	
アミノ酸分画	4	1212
アミノ酸11分画	4	1212
(血清)アミラーゼ〈S-AMY〉	2	11
(尿)アミラーゼ〈U-AMY〉	2	11
(P型)アミラーゼ	3	48
アミロイドA〈SAA〉	41	47
アルカリホスファターゼ〈ALP〉	1	11
アルドステロン	31	128
アルドラーゼ〈ALD〉	2	11
アルブミン〈Alb〉	1	11
尿ALB・CRE補正 (尿中アルブミン)	41	105
アルブラゾラム	17	
アルベカシン	19	(470)
アルミニウム〈Al〉	9	118
アレルギー関連検査	43	
アンジオテンシンI転換酵素〈ACE〉	31	148
アンチトロンビンⅢ活性〈ATⅢ〉	68	70
アンチトロンビンⅢ抗原〈ATⅢ〉	68	70
アンチプラスミン(活性)〈α2プラスミンインヒビター〉	69	131
アンドロステロン	31	
アンドロステンジオン	31	
アンモニア〈NH3〉	4	50

イ	頁	保険点数
一般細菌塗抹	75	61
(抗)胃壁細胞抗体	49	
イマチニブ	20	(470)

イミプラミン・デシプラミン	17	
インスリン〈IRI〉	33	109
インスリン抗体	33	110
(可溶性)インターロイキン-2レセプター〈sIL-2R〉	24	438
インフルエンザ (HI 法)	55	79+79
インフルエンザA型 (CF 法)	53	79
インフルエンザB型 (CF 法)	53	79

ウ	頁	保険点数
(尿中)ウロボルフィリン	10	108

エ	頁	保険点数
エコー3型 (HI 法)	55	79
エコー7型 (HI 法)	55	79
エコー11型 (HI 法)	55	79
エコー12型 (HI 法)	55	79
エコー1型 (NT 法)	58	79
エコー3型 (NT 法)	58	79
エコー4型 (NT 法)	58	79
エコー5型 (NT 法)	58	79
エコー6型 (NT 法)	58	79
エコー7型 (NT 法)	58	79
エコー9型 (NT 法)	58	79
エコー11型 (NT 法)	58	79
エコー12型 (NT 法)	58	79
エコー13型 (NT 法)	58	79
エコー14型 (NT 法)	58	79
エコー16型 (NT 法)	58	79
エコー17型 (NT 法)	58	79
エコー18型 (NT 法)	58	79
エコー19型 (NT 法)	58	79
エコー21型 (NT 法)	58	79
エコー22型 (NT 法)	58	79
エコー24型 (NT 法)	58	79
エコー25型 (NT 法)	58	79
エコー30型 (NT 法)	58	79
エストラジオール〈E2〉	32	182
エストリール〈E3〉	32	
(総)エストロジェン・非妊婦	32	
エストロジェンレセプター〈ER〉	78	720
エタノール	10	113
エトサクシミド	16	(470)
エベロリムス	20	(470)
エラスターゼ1	23	129
エリスロポエチン〈EPO〉	34	209
塩基性フェトプロテイン〈BFP〉	23	150
塩酸ピルジカイニド	18	(470)
エンテロ70型 (NT 法)	58	
エンテロ71型 (NT 法)	58	
(透析液)エンドトキシン	39	
エンドトキシン定量 (ES 法)	39	250

オ	頁	保険点数
黄体形成ホルモン〈LH〉	27	114
オステオカルシン〈BGP〉	28	165
オリゴクローナルバンド (等電点電気泳動法)	43	538
オーム病抗体	39	79

カ	頁	保険点数
ガストリン	34	107

ガストリン放出ペプチド前駆体 (Pro GRP)	24	175
活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	69	29
カテコールアミン3分画	29	175
(遊離)カテコールアミン3分画	29	175
カドミウム (Cd)	9	
ガバペンチン	16	(470)
可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	24	438
(抗)ガラクトース欠損IgG抗体 (CA・RF)	47	117
カリウム (K)	8	11
カルシウム (Ca)	8	11
(抗)カルジオリピン抗体 IgG	49	239
(抗)カルジオリピン β_2 グリコプロテインI複合体抗体 (抗CLB2GPI抗体)	49	223
カルシトニン (CT)	28	141
カルニチン分画	8	95+95
カルバマゼピン	16	(470)
(MRSA)簡易培養検査	75	60
肝細胞増殖因子 (HGF)	34	227
カンジダ抗原	39	138
(細菌薬剤)感受性検査	75	頁参照
間接クームス試験	50	47
間接クームス試験 定量	50	47
間接ビリルビン (I-BIL)	1	
(頸管腔分泌液中) 癌胎児性フィブロネクチン	33	204
寒冷凝集反応	38	11

キ	頁	保険点数
キニジン	18	(470)
凝固第Ⅱ因子活性 (F2)	70	229
凝固第Ⅴ因子活性 (F5)	70	229
凝固第Ⅶ因子活性 (F7)	70	229
凝固第Ⅷ因子活性 (F8)	70	229
凝固第Ⅸ因子活性 (F9)	70	229
凝固第Ⅹ因子活性 (F10)	70	229
凝固第Ⅺ因子活性 (F11)	70	229
凝固第Ⅻ因子活性 (F12)	70	229
凝固第Ⅼ因子定量 (F13)	70	229
凝固第Ⅷ因子インヒビター (F8INH)	70	152
凝固第Ⅸ因子インヒビター (F9INH)	70	152

ク	頁	保険点数
グアナゼ	2	35
クラミジア・トラコーマチス同定DNA (SDA法)	40	204
クラミジア・トラコーマチス同定DNA (TaqManPCR法)	40	204
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgA・IgG	40	70・75
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgM	40	160
クリオグロブリン	42	42
グリオアルブミン (GA)	4	55
グリコール酸 (CG)	5	80
グルコース	4	11
(穿刺液) グルコース	73	11
(髄液) グルコース	73	11
(尿) 尿グルコース	72	9
クレアチニン (CRE)	3	11
クレアチニン (蓄尿)	3	11
クレアチニンクリアランス	10	
クロール (CL)	7	11
(髄液) クロール	73	11
クロチアゼパム	17	
クロナゼパム	16	(470)
クロバザム	16	(470)
グロブリン (Glb)	1	
クロム (Cr)	9	

クロロプロマジン	17	
(間接)クームス試験	50	47
(間接)クームス試験 定量	50	47
(直接)クームス試験	50	34

ケ	頁	保険点数
頸管腔分泌液中 癌胎児性フィブロネクチン	33	204
血液ガス分析	11	
結核菌群同定 (TaqManPCR法)	76	410
(抗)血小板抗体	49	262
血小板数	68	21
血小板第4因子 (PF-4)	69	178
血小板関連IgG (PA-IgG)	49	204
血漿レニン活性 (PRA)	30	100
血清アミラーゼ (S-AMY)	2	11
血清補体価 (CH50)	41	38
結石鑑別	10	120
血糖 (グルコース)	4	11
ケトン体分画	5	59
嫌気性培養	75	115
ゲンタマイシン	19	(470)

コ	頁	保険点数
抗ARS抗体	48	190
抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	47	210
抗CLB2GPI抗体 (抗カルジオリピン β_2 グリコプロテインI複合体抗体)	49	223
抗CLリピン抗体 IgG	49	239
抗DNA抗体 (RIA法)	47	172
抗ds DNA抗体 IgG	47	172
抗ds DNA抗体 IgM	47	
抗GAD抗体	33	134
抗IA-2抗体	33	213
抗Jo-1抗体	48	144
抗LKM-1抗体	48	221
抗MuSK抗体	49	1000
抗RNP抗体	47	144
抗Scl-70抗体 (免疫拡散法)	48	162
抗Scl-70抗体 (CLEIA法)	48	162
抗Sm抗体 (免疫拡散法)	47	155
抗Sm抗体 (CLEIA法)	47	155
抗SS-A抗体 (免疫拡散法)	48	163
抗SS-A抗体 (CLEIA法)	48	163
抗SS-B抗体 (免疫拡散法)	48	161
抗SS-B抗体 (CLEIA法)	48	161
抗ss DNA抗体 IgG	47	172
抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	28	146
抗アクアポリン4抗体	43	1000
抗アセチルコリンレセプター結合抗体 (抗AChR抗体)	49	847
抗胃壁細胞抗体	49	
抗核抗体 (ANA)	47	105
抗ガラクトース欠損IgG抗体 (CA・RF)	47	117
高感度 心筋トロポニン I	42	117
抗血小板抗体	49	262
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体)	28	146
抗好中球細胞質抗体 (C-ANCA)	49	275
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体 (P-ANCA)	49	273
抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	28	144
抗酸菌同定 DDH	76	410
抗酸菌塗抹	76	82
抗酸菌分離培養検査	76	204
抗酸菌薬剤感受性検査	76	380
抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	49	277

検査項目索引

抗セントロメア抗体	48	184
抗平滑筋抗体	48	
抗ミトコンドリアM2抗体	48	200
抗ミトコンドリア抗体	48	191
高精度分染法〈染色体検査〉	66	頁参照
好中球殺菌能	65	
好中球貪食能	65	
抗利尿ホルモン〈AVP〉	27	235
(尿素)呼気試験〈UBT〉	40	70
コクサッキー A 群 9 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 1 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 2 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 3 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 4 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 5 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 6 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー A 群 2 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 3 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 4 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 5 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 6 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 7 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 9 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 10 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 16 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 1 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 2 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 3 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 4 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 5 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 6 型 (NT 法)	57	79
骨型 ALP 〈BAP〉	29	161
コハク酸シベンゾリン	18	(470)
コプロボルフィリン定量	10	210
(尿中)コプロボルフィリン	10	139
コリンエステラーゼ〈ChE〉	2	11
コルチコステロン	31	
コルチゾール	31	130
(遊離)コルチゾール	31	130
コルチゾン	31	
(HDL)コレステロール	5	17
(LDL)コレステロール	5	18
(総)コレステロール〈T-Cho〉	5	17

サ	頁	保険点数
細菌培養同定検査	75	頁参照
細菌薬剤感受性検査	75	頁参照
サイクリック AMP 〈C-AMP〉	34	175
サイトケラチン 19 フラグメント 〈シフラ〉	24	167
サイトメガロ (CF 法)	53	79
サイトメガロ IgG 〈CMV IgG〉	60	218
サイトメガロ IgM 〈CMV IgM〉	60	218
サイトメガロウイルス抗原 (アンチジェネミア法)	61	387
細胞診	78	頁参照
サイロイドテスト	27	37
サイロキシン結合グロブリン 〈TBG〉	28	130
サイログロブリン	27	137
(抗)サイログロブリン抗体 〈Tg-Ab〉	28	144
サリチル酸	19	(470)
(総)三塩化物 〈TTC〉	11	
(肺)サーファクタントプロテイン D 〈SP-D〉	42	136

シ	頁	保険点数
ジアゼパム	16	(470)
(抗)糸球体基底膜抗体 〈抗 G B M 抗体〉	49	277
シクロスポリン	20	(470)
ジゴキシン	19	(470)
シスタチン C	3	121
ジゾピラミド	18	(470)
シフラ 〈サイトケラチン 19 フラグメント〉	24	167
(全脂質)脂肪酸分画	5	429
シアリル Lex-i 抗原 〈SLX〉	23	152
(高感度)心筋トロポニン I	42	117
心室筋ミオシン軽鎖 I	42	184
(ヒト)心臓由来脂肪酸結合蛋白 〈H-FABP〉	42	143
浸透圧 (血清)	10	15
浸透圧 (尿)	10	16
(ヒト)心房性 Na 利尿ペプチド 〈HANP〉	34	227

ス	頁	保険点数
髄液検査	73	62
髄液 総蛋白	73	11
髄液 グルコース	73	11
髄液 クロール	73	11
水銀 〈Hg〉	9	
水痘・帯状ヘルペス IgG 〈V Z V IgG〉 (EIA 法)	60	218
水痘・帯状ヘルペス IgM 〈V Z V IgM〉 (EIA 法)	60	218
水痘・帯状ヘルペス (CF 法)	53	79
隣ホスホリパーゼ A2 〈隣 PLA2〉	2	204
スチリペントール	17	(470)
ステロイド 10 分画	32	

セ	頁	保険点数
精液検査	72	70
脆弱 X 染色体	66	頁参照
成長ホルモン 〈GH〉	27	114
赤痢菌・サルモネラ菌	76	
赤血球数	68	21
セルロプラスミン 〈Cp〉	41	90
セロトニン	30	
穿刺液一般検査	73	
穿刺液 蛋白	73	11
穿刺液 グルコース	73	11
(穿刺液)ADA	2	32
(抗)セントロメア抗体	48	184
全脂質脂肪酸分画	5	429
前立腺酸性フォスファターゼ 〈PAP〉	24	124
前立腺特異抗原 〈PSA〉	24	130

ソ	頁	保険点数
総エストロジェン・非妊婦	32	
総コレステロール 〈T-Cho〉	5	17
総三塩化物 〈TTC〉	11	
総胆汁酸 〈TBA〉	5	47
総蛋白 〈TP〉	1	11
総ビリルビン 〈T-BIL〉	1	11
組織ポリペプチド抗原 〈TPA〉	23	110
総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比 〈BTR〉	4	288
ソタロール	18	(470)
ゾニサミド	16	(470)
ソマトメジン C 〈IGF-I〉	27	224

タ	頁	保険点数
第Ⅱ因子活性〈F2〉	70	229
第Ⅴ因子活性〈F5〉	70	229
第Ⅶ因子活性〈F7〉	70	229
第Ⅷ因子活性〈F8〉	70	229
第Ⅸ因子活性〈F9〉	70	229
第Ⅹ因子活性〈F10〉	70	229
第Ⅺ因子活性〈F11〉	70	229
第Ⅻ因子活性〈F12〉	70	229
第Ⅻ因子定量〈F13〉	70	229
第Ⅷ因子インヒビター〈F8INH〉	70	152
第Ⅸ因子インヒビター〈F9INH〉	70	152
大腸菌抗原同定検査	75	180
タクロリムス	20	(470)
単純ヘルペス〈HSV〉(CF法)	53	79
単純ヘルペス1型〈HSV1型〉(NT法)	56	79
単純ヘルペス2型〈HSV2型〉(NT法)	56	79
単純ヘルペスIgG〈HSV IgG〉(EIA法)	60	218
単純ヘルペスIgM〈HSV IgM〉(EIA法)	60	218
単純ヘルペスウイルス特異抗原(FAT法)	61	180
(総)胆汁酸〈TBA〉	5	47
(総)蛋白〈TP〉	1	11
(穿刺液)蛋白	73	11
(髄液)総蛋白	73	11
(尿)蛋白	72	7
蛋白分画	1	18

チ	頁	保険点数
中性脂肪〈TG〉	5	11
虫体鑑別	72	23
虫卵(集卵法)	72	15
虫卵(塗抹法)	72	20
直接クームス試験	50	34
直接ビリルビン〈D-BIL〉	1	11
(尿)沈渣顕微鏡検査	72	27

ツ	頁	保険点数
ツツガ虫カトー(Kato)IgG	39	213
ツツガ虫カトー(Kato)IgM	39	213
ツツガ虫カーブ(Karp)IgG	39	213
ツツガ虫カーブ(Karp)IgM	39	213
ツツガ虫ギリアム(Gilliam)IgG	39	213
ツツガ虫ギリアム(Gilliam)IgM	39	213

テ	頁	保険点数
ティコブラニン	19	(470)
デオキシピリジノリン〈DPD〉[骨粗鬆症]	29	191
デオキシピリジノリン[腫瘍関連]	25	191
テオフィリン	19	(470)
テストステロン	32	128
鉄〈Fe〉	8	11

ト	頁	保険点数
銅〈Cu〉	8	23
透析液エンドトキシン	39	
特異的IgE	43	各110
トキソプラズマIgG(CLEIA法)	38	93
トキソプラズマIgM(CLEIA法)	38	95

トピラマート	16	(470)
トブラマイシン	19	(470)
(一般細菌)塗抹	75	61
(抗酸菌)塗抹	76	82
トランスフェリン〈Tf〉	42	60
(尿中)トランスフェリン	42	107
トリクロル酢酸〈TCA〉	11	
トリブシン	2	189
トリメタジオン	16	(470)
(高感度心筋)トロポニンI	42	117
トロンビン・アンチトロンビン複合体〈TAT〉	69	186
トロンボテスト〈複合因子T〉	69	18
ドーパミン・総	31	

ナ	頁	保険点数
ナトリウム〈Na〉	7	11
鉛〈Pb〉	9	

ニ	頁	保険点数
ニッケル〈Ni〉	9	
ニトラゼパム	16	(470)
日本脳炎(CF法)	53	79
日本脳炎(HI法)	55	79
乳酸	4	47
ニューモシスチス・カリニー DNA同定	42	
尿アミラーゼ〈U-AMY〉	2	11
(尿)尿グルコース	72	9
(尿)P型アミラーゼ	3	48
尿酸〈UA〉	3	11
尿素呼気試験〈UBT〉	40	70
尿素窒素〈BUN〉	4	11
尿蛋白	72	7
尿中Ⅳ型コラーゲン	42	194
尿中CRE	3	11
尿中NAG〈N-アセチルグルコサミニダーゼ〉	2	41
尿中U A	3	11
尿中一般物質定性半定量検査	72	
尿中ウロポルフィリン	10	108
尿中コプロポルフィリン	10	139
尿中銅	8	23
尿中トランスフェリン	42	107
尿中ポルフォビリノーゲン	10	191
尿ALB・CRE補正(尿中アルブミン)	41	105
尿中免疫電気泳動〈BJP同定〉	50	203
尿中硫酸抱合型胆汁酸〈USBA〉	11	57
尿沈渣顕微鏡検査	72	27

ノ	頁	保険点数
脳性Na利尿ペプチド〈BNP〉	34	136
ノロウイルス(SRSV)-RNA同定	61	

ハ	頁	保険点数
肺サーファクタントプロテインD〈SP-D〉	42	136
(細菌)培養同定検査	75	頁参照
白血球数	68	21
馬尿酸〈HA〉	11	
バニルマンデル酸〈VMA〉	30	90
ハプトグロビン(Hp)型判定	41	140
パラインフルエンザ1型(HI法)	55	79
パラインフルエンザ2型(HI法)	55	79

検査項目索引

パラインフルエンザ3型 (HI 法)	55	79
バルプロ酸ナトリウム	16	(470)
パルボウイルス B19IgG (EIA 法)	60	
パルボウイルス B19IgM (EIA 法)	60	218
ハロペリドール	17	(470)
パンコマイシン	19	(470)

ヒ	頁	保険点数
ヒアルロン酸	4	184
鼻汁好酸球	68	15
ビタミンA	7	
ビタミンB1〈サイアミン〉	7	253
ビタミンB2〈リボフラビン〉	7	256
ビタミンB12〈シアノコバラミン〉	7	148
ビタミンC〈アスコルビン酸〉	7	314
1 α ,25-(OH) $_2$ ビタミンD	7	388
25-OHビタミンD(Total)	7	400
ビタミンE〈トコフェロール〉	7	
非特異的IgE	43	100
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白〈H-FABP〉	42	143
ヒト心房性Na利尿ペプチド〈HANP〉	34	227
ヒト精巢上体蛋白4〈HE4〉	24	200
ヒト絨毛性ゴナドトロピン〈HCG〉	33	142
百日咳菌抗体 (EIA 法)	38	272
病理組織検査	78	頁参照
ビルビン酸	4	47
ビルメノール	18	(470)

フ	頁	保険点数
(頸管腔分泌液中 癌胎児性)フィブロネクチン	33	204
フィブリノゲン	69	23
風疹 (HI 法)	55	79
風疹 (LA 法)	55	79
風疹IgG (EIA 法)	60	218
風疹IgM (EIA 法)	60	218
フェニトイン	16	(470)
フェノバルビタール	16	(470)
フェリチン	41	111
フォン・ウィルブランド因子活性〈リストセチンコファクター〉	70	136
フォン・ウィルブランド因子定量〈第Ⅷ因子様抗原〉	70	155
不規則性抗体	50	159
副甲状腺ホルモン関連蛋白 intact	28	194
副甲状腺ホルモンインタクト〈PTHインタクト〉	28	175
副甲状腺ホルモン whole〈ホールPTH〉	28	175
副腎皮質刺激ホルモン〈ACTH〉	27	200
不飽和鉄結合能〈UIBC〉	8	11
プラスミノゲン活性	68	100
プリミドン	16	(470)
フルニトラゼパム	17	
ブレアルブミン	40	107
フレカイニド	18	(470)
プレグナジオール〈P2〉	32	213
プレグナントリオール〈P3〉	32	240
プロカインアミド	18	(470)
プロコラーゲンⅢペプチド〈P-Ⅲ-P〉	42	140
プロジェステロン	32	155
プロジェステロンレセプター〈PgR〉	78	690
プロチゾラム	17	
プロテインC(定量)	68	246
プロトロンビン時間〈PT 時間〉	69	18
プロパフェノン	18	(470)

ブロムペリドール	17	(470)
プロラクチン〈PRL〉	27	98
(総)分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比〈BTR〉	4	288

ヘ	頁	保険点数
(抗)平滑筋抗体	48	
ペプシノゲン	2	
ベプリジル	18	(470)
ヘマトクリット	68	21
ヘモグロビン	68	21
ヘモグロビンA1c (NGSP)	4	49
ヘリコバクター・ピロリ抗体〈H.ピロリ抗体〉	40	80
(単純)ヘルペス (CF 法)	53	79
(単純)ヘルペスウイルス特異抗原 (FAT 法)	61	180
ペンス・ジョーンズ蛋白同定〈尿中免疫電気泳動〉	50	203
便中Hb定性	72	37
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	40	146
扁平上皮癌関連抗原〈SCC 抗原〉	24	110

ホ	頁	保険点数
(臍)ホスホリパーゼA2〈臍PLA2〉	2	204
ホモバニリン酸〈HVA〉	30	69
ポリコナゾール	19	(470)
(尿中)パルフォビリノーゲン	10	191
ホールPTH〈副甲状腺ホルモン whole〉	28	175

マ	頁	保険点数
(尿中)マイクロアルブミン	41	105
マイクロゾームテスト	27	37
マイコ核酸同定 LAMP	38	300
マイコプラズマ抗体 (CF 法)	38	32
マイコプラズマ抗体 (PA 法)	38	32
マイコプラズマ抗体IgM (EIA 法)	38	32
マグネシウム〈Mg〉	8	11
麻疹 (HI 法)	55	79
麻疹 (NT 法)	56	79
麻疹IgG (EIA 法)	60	218
麻疹IgM (EIA 法)	60	218
末梢血液一般検査	68	21
末梢血液像(5分類)	68	15
末梢血液像(6分類)	68	25
マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	3	116
マラリア原虫	68	40
マンガン〈Mn〉	9	27
マンデル酸	11	

ミ	頁	保険点数
ミエリンベースック蛋白〈MBP〉	49	593
ミオグロビン	42	143
(心室筋)ミオシン軽鎖 I	42	184
ミダゾラム	17	
ミトコンドリア-GOT〈m-AST〉	3	49
(抗)ミトコンドリアM2抗体	48	200

(抗)ミトコンドリア抗体 48 191

ム	頁	保険点数
無機リン	8	17
ムンプス (CF 法)	53	79
ムンプス (HI 法)	55	79
ムンプス (NT 法)	56	79
ムンプス IgG (EIA 法)	60	218
ムンプス IgM (EIA 法)	60	218

メ	頁	保険点数
メキシレチン	18	(470)
メタネフリン2分画	30	227
メチル馬尿酸 (MHA)	11	
メトトレキサート	20	(470)
免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性)	50	170
免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定)	50	230
(尿中)免疫電気泳動 (ペンス・ジョーンズ蛋白同定)	50	203
免疫複合体 (イムノコンプレックス)	49	161

モ	頁	保険点数
網赤血球数	68	12

ヤ	頁	保険点数
薬剤感受性検査 (一般細菌)	75	頁参照
薬剤感受性検査 (抗酸菌)	76	380

ユ	頁	保険点数
遊離HCG-β	25	140
遊離カテコールアミン3分画	29	175
遊離コルチゾール	31	130
遊離サイロキシシン (FT4)	27	130
遊離トリヨードサイロニン (FT3)	27	130

ヨ	頁	保険点数
葉酸	7	158

ラ	頁	保険点数
ラモトリギン	16	(470)
卵胞刺激ホルモン (FSH)	27	114

リ	頁	保険点数
リウマトイド因子 (RF 定量)	47	30
リゾチーム	2	
リチウム	17	(470)
リドカイン	18	(470)
リパーゼ	5	24
リガ蛋白(a)(Lp(a))	6	107
リガ蛋白分画	5	49
リガ蛋白分画精密測定	5	80
硫酸亜鉛試験 (ZTT)	1	
(尿中)硫酸抱合型胆汁酸 (USBA)	11	57
淋菌同定DNA (TaqManPCR法)	40	204
淋菌同定DNA (SDA 法)	40	204
リン脂質 (PL)	5	15
リンパ球幼若化試験 (リンパ球分離培養法) (PHA)	65	345

リンパ球幼若化試験 (リンパ球分離培養法) (ConA) 65 345

ル	頁	保険点数
ループスアンチコアグラント (希釈ラッセル蛇毒試験法)	70	281
ルフィナミド	17	(470)

レ	頁	保険点数
レチノール結合蛋白 (RBP)	7	136
レベチラセタム	16	(470)
レムナント様リガ蛋白コレステロール (RLP-C)	6	189
(血漿)レニン活性 (PRA)	30	100
レニン濃度 (PRC)	30	111

検査項目索引

アルファベット順

A	頁	保険点数
ABO血液型	50	24
ACE〈アンジオテンシンⅠ転換酵素〉	31	148
(抗)AChR抗体〈抗アセチルコリンレセプター結合抗体〉	49	847
ACTH	27	200
ADA〈アデノシンデアミナーゼ〉	2	32
(穿刺液)ADA	2	32
AFP〈αフェトプロテイン〉	23	107
AFPレクチン分画	23	190
A/G比	1	
Al〈アルミニウム〉	9	118
Alb〈アルブミン〉	1	11
アルドラーゼ〈ALD〉	2	11
(骨型)ALP	29	161
ALP〈アルカリホスファターゼ〉	1	11
ALPアイソザイム	3	48
ALT〈GPT〉	1	17
APTT〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉	69	29
(抗)ARS抗体	48	190
ASK価	38	29
ASO価	38	15
AST〈GOT〉	1	17
ATⅢ活性〈アンチトロンビンⅢ活性〉	68	70
ATⅢ抗原〈アンチトロンビンⅢ抗原〉	68	70
AVP〔ADH〕	27	235

B	頁	保険点数
BAP〈骨型ALP〉	29	161
BCA225	23	165
BFP	23	150
BGP〈オステオカルシン〉	28	165
BJP〈ベンス・ジョーンズ蛋白同定〉	50	203
BNP〈脳性Na利尿ペプチド〉	34	136
BTR〈総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比〉	4	288
BUN〈尿素窒素〉	4	11
B細胞表面免疫グロブリンSm-IgA	65	161
B細胞表面免疫グロブリンSm-IgD	65	161
B細胞表面免疫グロブリンSm-IgG	65	161
B細胞表面免疫グロブリンSm-IgM	65	161
B細胞表面免疫グロブリンSm-IgTotal	65	161
B細胞表面免疫グロブリンSm-Igκ鎖	65	161
B細胞表面免疫グロブリンSm-Igλ鎖	65	161

C	頁	保険点数
Cバンド分染法〈染色体検査〉	66	頁参照
CRP〈C反応性蛋白〉	41	16
C-AMP〈サイクリックAMP〉	34	175
C-ANCA〔PR3-ANCA〕〈抗好中球細胞質抗体〉	49	275
CA-RF〈抗ガラクトース欠損IgG抗体〉	47	117
C3	41	70
C4	41	70
Ca〈カルシウム〉	8	11
CA125	23	148
CA15-3	23	121
CA19-9	23	130
CA602	24	190
CA72-4	24	146
(抗)CCP抗体〈抗シトルリン化ペプチド抗体〉	47	210
Cd〈カドミウム〉	9	
CEA	23	105
グリコール酸〈CG〉	5	80

コリンエステラーゼ〈ChE〉	2	11
CH50〈血清補体価〉	41	38
CK〈CPK〉	2	11
CK-MB(%)	3	55
CK-MB定量	3	90
CKアイソザイム	3	55
クロール〈CL〉	7	
(抗)CLB2GPI抗体〈抗カルジオリピンβ2グリコプロテインI複合体抗体〉	49	223
(抗)CLリピン抗体IgG	49	239
CMV〈サイトメガロ〉(CF法)	53	79
CMV IgG〈サイトメガロIgG〉	60	218
CMV IgM〈サイトメガロIgM〉	60	218
CMV抗原〈サイトメガロ抗原〉(アンチジェネミア法)	61	387
CPR〈C-ペプチド〉	33	114
Cr〈クロム〉	9	
CRE〈クレアチニン〉	3	11
Cu〈銅〉	8	23
C1q〈免疫複合体〉	49	161

D	頁	保険点数
D-BIL〈直接ビリルビン〉	1	11
Dダイマー	69	137
DHEA-S〈デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体〉	32	176
(抗)DNA抗体(RIA法)	47	172
DOC〈11-デオキシコルチコステロン〉	31	
Dpyr〈デオキシピリジノリン〉	25	191
(抗)dsDNA抗体IgG	47	172
(抗)dsDNA抗体IgM	47	
DUPAN-2	23	121

E	頁	保険点数
E2〈エストラジオール〉	32	182
E3〈エストリール〉	32	
EBV EA-DR IgA (FAT法)	59	79
EBV EA-DR IgG (FAT法)	59	218
EBV EBNA (FAT法)	59	79
EBV VCA IgA (FAT法)	59	79
EBV VCA IgG (FAT法)	59	218
EBV VCA IgM (FAT法)	59	218
EPO〈エリスロポエチン〉	34	209

F	頁	保険点数
(尿)FDP	69	72
(血中)FDP定量	69	80
Fe〈鉄〉	8	11
FSH〈卵巣刺激ホルモン〉	27	114
FT3〈遊離トリヨードサイロニン〉	27	130
FT4〈遊離サイロキシン〉	27	130
FTA-ABS 定性	38	142

G	頁	保険点数
GA〈グリコアルブミン〉	4	55
(抗)GAD抗体	33	134
(抗)G B M抗体〈抗糸球体基底膜抗体〉	49	277
GH〈成長ホルモン〉	27	114
Glb〈グロブリン〉	1	
GOT〈AST〉	1	17
GPT〈ALT〉	1	17
Gバンド分染法〈染色体検査〉	66	頁参照

H	頁	保険点数
HA〈馬尿酸〉	11	
HANP〈ヒト心房性Na利尿ペプチド〉	34	227
HA抗体〈IgG-HA抗体〉	62	146
HbA1c (NGSP)	4	49
HBc抗体	62	141
HBe抗原	62	107
HBe抗体	62	107
HBs抗原 定性	62	29
HBs抗原	62	88
HBs抗体 半定量	62	32
HBs抗体	62	88
HBV-DNA 定量	62	279
HBV プレコア/コアプロモーター変異検出	62	450
(便中)Hb定性	72	37
HCG〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉	33	142
(遊離)HCG-βサブユニット	25	140
(尿)HCG 定性〈妊娠反応〉	33	55
HCV-RNA 定量	63	437
HCV 群別(グルーピング)	63	233
HCV コア抗原	63	111
HCV 抗体-II	63	111
HCV 抗体-III	63	111
HDL コレステロール	5	17
HE4〈ヒト精巣上体蛋白4〉	24	200
HER2/neu (FISH法)	78	2700
HER2/neu (IHC法)	78	690
HER2 蛋白定量	25	
H-FABP〈ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白〉	42	143
Hg〈水銀〉	9	
HGF〈肝細胞増殖因子〉	34	227
HIV-1 抗体《確認試験》	61	280
HIV-2 抗体《確認試験》	61	380
HIV 抗原・抗体《スクリーニング》	61	118
HLA 遺伝子型判定〈A Locus〉	66	
HLA 遺伝子型判定〈B Locus〉	66	
HLA 遺伝子型判定〈C Locus〉	66	
HLA 型判定〈A,B Locus〉	66	
HLA 型判定〈DR Locus〉	66	
Hp〈ハプトグロビン〉型判定	41	140
HPV-DNA 同定《中〜高リスク型》	61	360
HPV-DNA 同定《低リスク型》	61	
HPV 核酸検出(HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定)	61	360
HSV〈単純ヘルペス〉(CF法)	53	79
HSV1 型〈単純ヘルペス1型〉(NT法)	56	79
HSV2 型〈単純ヘルペス2型〉(NT法)	56	79
HSV IgG〈単純ヘルペス IgG〉(EIA法)	60	218
HSV IgM〈単純ヘルペス IgM〉(EIA法)	60	218
HSV特異抗原〈(単純)ヘルペスウイルス特異抗原〉(FAT法)	61	180
HTLV-I 抗体価	61	173
HVA〈ホモバニリン酸〉	30	69
H.ピロリ抗体〈ヘリコバクター・ピロリ抗体〉	40	80

I	頁	保険点数
I-BIL〈間接ビリルビン〉	1	
(抗)IA-2抗体	33	213
ICG 消失率	10	150
ICG 停滞率	10	100
IEP〈免疫電気泳動〉	50	170
IFE 特異抗血清〈免疫固定法によるM蛋白同定〉	50	230
IgA	43	38

IgE〈非特異的IgE〉	43	100
IGF-I〈ソマトメジンC〉	27	224
IgG	43	38
IgG インデックス	43	426
IgG-FcR+T細胞百分率	65	204
IgG-HA抗体(HA抗体)	62	146
IgG-RF	47	203
IgM	43	38
IgM-HA抗体	62	146
IgM-HBc抗体	62	146
(s)IL-2R〈可溶性インターロイキン-2レセプター〉	24	438
IRI〈インスリン〉	33	109

J	頁	保険点数
(抗)Jo-1抗体	48	144

K	頁	保険点数
K〈カリウム〉	8	11
KL-6	4	117
(17-)KGS〈17-ケトジェニックスステロイド〉	31	200
(17-)KGS分画〈17-ケトジェニックスステロイド分画〉	32	220
(17-)KS3分画〈17-ケトステロイド分画〉	32	213
(17-)KS7分画〈17-ケトステロイド分画〉	32	213

L	頁	保険点数
LA〈ループスアンチコアグラント〉	70	281
LAK 活性(非誘導)	65	
LAK 活性(誘導)	65	
LAP	1	11
LD〈LDH〉	1	11
LDL コレステロール	5	18
LDH アイソザイム	3	48
LH〈黄体形成ホルモン〉	27	114
(抗)LKM-1抗体	48	221
Lp(a)〈リポ蛋白(a)〉	6	107
L-ドーパ	20	

M	頁	保険点数
MA〈マンデル酸〉	11	
MAC 同定-DNA (TaqManPCR法)	76	421
Mac2 結合蛋白〈Mac2 結合蛋白糖鎖修飾異性体〉	41	194
m-AST〈ミトコンドリア-GOT〉	3	49
MBP〈ミエリンベースック蛋白〉	49	593
Mg〈マグネシウム〉	8	11
MHA〈メチル馬尿酸〉	11	
MMP-3〈マトリックスメタロプロテイナーゼ-3〉	3	116
Mn〈マンガン〉	9	27
MPO-ANCA [P-ANCA]〈抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体〉	49	273
MRSA 簡易培養検査	75	60
(抗)MuSK抗体	49	1000

N	頁	保険点数
ナトリウム〈Na〉	7	11
(尿中)NAG〈N-アセチルグルコサミニダーゼ〉	2	41
NCC-ST-439	23	121
NH3〈アンモニア〉	4	50
Ni〈ニッケル〉	9	
NSE〈神経特異エノラーゼ〉	24	146

検査項目索引

NT-proBNP〈脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント〉	34	140
NTx〈I型コラーゲン架橋N-テロペプチド〉〔骨粗鬆症〕	29	156
(尿)NTx〔骨粗鬆症〕	29	156
(尿)NTx〔腫瘍関連〕	25	156
N-メチルホルムアミド	11	

P	頁	保険点数
P〈無機リン〉	8	17
P-ANCA〔MPO-ANCA〕〈抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体〉	49	273
PAP〈前立腺酸性フォスファターゼ〉	24	124
Pb〈鉛〉	9	
PA-IgG〈血小板関連IgG〉	49	204
PF-4〈血小板第4因子〉	69	178
PICテスト〈α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体〉	69	162
PIVKA II〈凝固〉	69	143
PIVKA II〈腫瘍〉	23	143
PL〈リン脂質〉	5	15
PRA〈(血漿)レニン活性〉	30	100
PRC〈レニン濃度〉	30	111
PRL〈プロラクチン〉	27	98
Pro GRP〈ガストリン放出ペプチド前駆体〉	24	175
PR3-ANCA〔C-ANCA〕〈抗好中球細胞質抗体〉	49	275
PSA〈前立腺特異抗原〉	24	130
PSA-ACT	24	130
PTHrPインタクト	28	194
PTHインタクト	28	175
(ホール)PTH	28	175
PT時間〈プロトロンビン時間〉	69	18
P型アミラーゼ	3	48
P2〈プレグナンジオール〉	32	213
P3〈プレグナントリオール〉	32	240
P-III-P〈プロコラーゲンIIIペプチド〉	42	140

Q	頁	保険点数
QFT-TB〈第3世代〉	76	630
Qバンド分染法〈染色体検査〉	66	頁参照

R	頁	保険点数
RAST-16吸入系	43	1430
RAST-16食餌系	43	1430
RBP〈レチノール結合蛋白〉	7	136
RF定量〈リウマトイド因子〉	47	30
Rh(D)血液型	50	24
Rh-Hr式血液型	50	156
RLP-C〈レムナント様リポ蛋白コレステロール〉	6	189
(抗)RNP抗体 (CLEIA法)	47	144
(抗)RNP抗体 (免疫拡散法)	47	144
RPR〈梅毒血清反応〉定性	38	15
RPR〈梅毒血清反応〉定量	38	34
RS (CF法)	53	79
RS (NT法)	56	79
Rバンド分染法〈染色体検査〉	66	頁参照

S	頁	保険点数
SAA〈アミロイドA〉	41	47
S-AMY〈(血清)アミラーゼ〉	2	11
SCC抗原〈扁平上皮癌関連抗原〉	24	110
(抗)ScI-70抗体 (免疫拡散法)	48	162
(抗)ScI-70抗体 (CLEIA法)	48	162
sIL-2R〈可溶性インターロイキン-2レセプター〉	24	438

SLX〈シアリルLex-i抗原〉	23	152
Sm-IgA〈B細胞表面免疫グロブリンA〉	65	161
Sm-IgD〈B細胞表面免疫グロブリンD〉	65	161
Sm-IgG〈B細胞表面免疫グロブリンG〉	65	161
Sm-IgM〈B細胞表面免疫グロブリンM〉	65	161
Sm-IgTotal〈B細胞表面免疫グロブリンTotal〉	65	161
Sm-Igκ鎖〈B細胞表面免疫グロブリンκ鎖〉	65	161
Sm-Igλ鎖〈B細胞表面免疫グロブリンλ鎖〉	65	161
(抗)Sm抗体 (免疫拡散法)	47	155
(抗)Sm抗体 (CLEIA法)	47	155
SPan-1抗原	23	146
SP-D〈肺サーファクタント蛋白D〉	42	136
(抗)SS-A抗体 (免疫拡散法)	48	163
(抗)SS-A抗体 (CLEIA法)	48	163
(抗)SS-B抗体 (免疫拡散法)	48	161
(抗)SS-B抗体 (CLEIA法)	48	161
STN〈シアリルTn抗原〉	24	146

T	頁	保険点数
T3〈トリヨードサイロニン〉	27	105
T4〈総サイロキシン〉	27	111
TARC	42	189
TAT〈トロンビン・アンチトロンビン複合体〉	69	186
T-BIL〈総ビリルビン〉	1	11
T-Cho〈総コレステロール〉	5	17
TBA〈総胆汁酸〉	5	47
TBG〈サイロキシン結合グロブリン〉	28	130
TCA〈トリクロル酢酸〉	11	
Tf〈トランスフェリン〉	42	60
TG〈中性脂肪〉	5	11
Tg-Ab〈抗サイログロブリン抗体〉	28	144
TIBC〔計算値〕	8	
TOTAL PINP〈I型プロコラーゲン-N-プロペプチド〉	29	170
TP	1	11
TPA〈組織ポリペプチド抗原〉	23	110
TPHA〈梅毒トレポネーマ抗体〉定量	38	53
TPHA〈梅毒トレポネーマ抗体〉定性	38	32
(抗)TPO抗体〈抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体〉	28	146
TRACP-5b〈酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ〉	29	156
TSAb〈TSH刺激性レセプター抗体〉	28	340
TSH〈甲状腺刺激ホルモン〉	27	107
TSHレセプター抗体	28	232
TTC〈総三塩化物〉	11	
T細胞・B細胞百分率	65	204

U	頁	保険点数
UA〈尿酸〉	3	11
U-AMY〈(尿)アミラーゼ〉	2	11
UIBC〈不飽和鉄結合能〉	8	11
USBA〈尿中硫酸抱合型胆汁酸〉	11	57

V	頁	保険点数
View アレルギー 39	43	1430
VMA〈バニルマンデル酸〉	30	90
VZV〈水痘・帯状ヘルペス〉(CF法)	53	79
VZV IgG〈水痘・帯状ヘルペスIgG〉(EIA法)	60	218
VZV IgM〈水痘・帯状ヘルペスIgM〉(EIA法)	60	218

W		頁	保険点数
whole PTH〈副甲状腺ホルモン whole〉		28	175

Z		頁	保険点数
Zn〈亜鉛〉		9	144
ZTT〈硫酸亜鉛試験〉		1	

ギリシャ文字順

	頁	保険点数
α1 アンチトリプシン (α1AT)	41	80
αフェトプロテイン (AFP)	23	107
α1 マイクログロブリン (α1M)	41	140
α2 マイクログロブリン	41	138
α2 プラスミンインヒター (活性)〈アンチプラスミン (活性)〉	69	131
α2 プラスミンインヒター・プラスミン複合体 (PICテスト)	69	162
β2 マイクログロブリン (β2-m)	41	107
β-D- グルカン (1→3)-β-D- グルカン	39	213
β- カロチン	7	
β- トロンボグロブリン (β-TG)	69	177
βリポ蛋白 (β-LP)	5	
γ-GT	2	11
γ-Sm (γ- セミノプロテイン)	24	194
δ- アミノレブリン酸 (δ-ALA)	10	112

数字順

	頁	保険点数
(1→3)-β-D- グルカン (β-D- グルカン)	39	213
1α,25-(OH)2 ビタミンD	7	388
1,5AG (1,5- アンヒドログルシトール)	4	80
11- デオキシコルチコステロン (DOC)	31	
17-KGS (17- ケトジェニックスステロイド)	31	200
17-KGS分画 (17- ケトジェニックスステロイド分画)	32	220
17-KS3分画 (17- ケトステロイド分画)	32	213
17-KS7分画 (17- ケトステロイド分画)	32	213
2,5ヘキサンジオン (2,5-HD)	11	
24時間クレアチニンクリアランス	10	
25-OH ビタミンD (Total)	7	400
5-HIAA (5- ハイドロキシインドール酢酸)	30	95
5α-DHT (5α- ジハイドロテストステロン)	32	

ローマ数字順

	頁	保険点数
I型CTP (I型コラーゲン-C- テロペプチド)	25	頁参照
I型プロコラーゲン-N- プロペプチド (TOTAL P1NP)	29	170
I型プロコラーゲン架橋N- テロペプチド (NTx)	25	156
IV型コラーゲン	42	143
(尿中)IV型コラーゲン	42	194
(第)II 因子活性 (F2)	70	229
(第)V 因子活性 (F5)	70	229
(第)VII 因子活性 (F7)	70	229
(第)VIII 因子活性 (F8)	70	229
(第)IX 因子活性 (F9)	70	229
(第)X 因子活性 (F10)	70	229
(第)XI 因子活性 (F11)	70	229
(第)XII 因子活性 (F12)	70	229
(第)XIII 因子定量 (F13)	70	229
(第)VIII 因子インヒター (F8INH)	70	152
(第)VIII 因子様抗原 (フォン・ウィルブランド因子定量)	70	155
(第)IX 因子インヒター (F9INH)	70	152

検査依頼書



検査報告書



検査のご利用に当たっては、当社所定の検査依頼書(検体ラベル)および検体容器をご使用ください。
必要な検査依頼書および検体容器は、最寄りの検査所よりお届けします。(体外診断用医薬品は除く)
容器の種類は、検査項目毎に表示してありますので、巻末の「専用容器一覧」(95～102頁)をご参照ください。

- 依頼書は複写式となっております。
一部を検査依頼元「控」として、併せて検体受領書に代えさせていただきますので、ご了承ください。

取引のお申込み

ご利用に際しましては、最寄りの検査所へご連絡ください。営業担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。営業所の所在地、連絡先は裏表紙に記載しておりますのでご参照ください。

検査のご依頼

検査のご依頼に際しましては、依頼項目に応じた所定の検査依頼書、検体容器および検体ラベルをご使用ください。なお、伝送によるご依頼、ご報告については別途ご相談ください。

検査依頼書

- 検査依頼書にはバーコードラベルが付属しています。バーコードラベルは、付属する依頼書毎の専用ラベルとなっており、そのバーコード番号を検査の受付に使用致しますので、他の依頼書のラベルを違う依頼書の検体には使用しないでください。また、必要数を使用後に余ったラベルは、剥がさずにそのまま依頼書と一緒にご提出ください。
- 検体ラベルには、施設名、患者名、性別、年齢、材料をご記入の上、採取容器に対して縦方向にお貼りください。

依頼書の記入要領につきましては、[ご利用の手引き-5頁]をご参照ください。

検体の採取条件

- 本案内書をご参照の上、所定の容器に必要量を採取してください。容器の種類については検査項目毎に記号で表示していますので、巻末の「専用容器一覧」(95～102頁)をご参照ください。
- 本案内書には、およその採取量・提出量を記載してあります。ご提出量は原則として再検査に应じられるよう設定してあります。検体量不足にならないようご注意ください。
- 培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出下さい。

被検者への指示事項について

検査測定値は、食事・運動・採血時間・服薬・その他の影響を受けるため、採血の際は下記の事項にご注意ください。

- 採血は早朝空腹時が原則です。水・お茶等の糖分・カロリーの入っていないもの以外は摂取しないでください。また、前日の飲酒は控えてください。
- 採血直前は過度の運動を避け安静にしてください。
- 必要に応じて医師と相談の上、服薬の調整をしてください。

検体の採取について

採血方法

採血には、真空採血管をご使用ください。やむを得ずシリンジを使用される場合は、血液を採血管に移す際に細菌混入の汚染が起きないように、ご注意ください。

採血時の消毒

腕の静脈から採血される場合は、駆血して静脈の走行を確認後、針の穿刺部を中心にして外側に向かってアルコール綿で拭い、消毒してください。

採血管の確認

真空採血管をホルダーに挿入する前に、採血管に張付けた検体ラベルに記入された被検者氏名を確認して、採血管の取り違えがない事を確認してください。

採取量

血清または血漿については、提出量に対し、約3倍量の血液を採取してください。(溶血防止のため23Gより細い注射針は使用しないでください。また、駆血時間が長引くと凝固反応が活性化するため、出来るだけ駆血後2分以内に採血してください。)

採取後の混和

抗凝固剤入りの真空採血管で血液を採取される場合は、吸引後に採血管をホルダーから外したら直ちに5回以上緩やかに転倒混和し、凝固反応が起きないようにご注意ください。なお、過度の激しい混和は溶血が生じる場合がありますので、ご注意ください。

血清・血漿分離

血清については、採血後、室温にて凝固を確認した後、遠心分離(3000rpm 10～15分間)し、上清を所定の提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。

血漿については、所定の抗凝固剤入り採取容器に採血後、遠心分離(3000rpm 10～15分間)し、上清を所定の提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。

上記以外の材料(尿・精液・微生物用・他)につきましては、各分野毎の参照資料をご確認ください。

検査測定値に重大な影響を与える主な要因

食事(空腹時)、過度の運動、年齢(成長期等)、性差、薬物の副作用等は測定値に影響を及ぼしますのでご注意ください。

検体の保存

- 検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守してください。(本案内書「保存」欄をご参照ください。)

凍結 必ず凍結(-12℃以下)保存してください。凍結温度指定のあるものは、その旨記載致します。なお、凍結指定の項目については原則として単独検体での出検をお願い致します。

冷蔵 4～10℃で保存して下さい。冷蔵温度指定のあるものは、その旨記載致します。また、数日以上にわたって保存される場合は、凍結していただくようお願い致します。なお、凍結不可の材料については、その旨記載致します。

常温 常温保存して下さい。(15～25℃前後)

遮光 直射日光または蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。

- 検査項目によっては、検査成績が保存状態の影響を明らかに受けるものもありますので、お取り扱いにご注意ください。
- 検査項目毎に適正な検査結果をお届けすることができる検体採取後の「検体の安定性」を明記しておりますので、ご参照ください。

検体の受領・輸送

検査のご依頼に際しましては、当社営業員が受領に伺いますので、検査依頼書と検体とを照合の上、ご提出ください。

検体の受領

- 貴院への集配は、予め申し合わせの上、お伺い致します。

検体受領日時

検体受領場所

検体の輸送

- お預かりした検体および検査依頼書は、厳密な管理の下に当社検査所に搬入致します。平均搬送時間は、

検査所まで	時間
まで	時間

となっております。

- 一部の検査につきましては、当社責任管理の下に、他施設に再委託致します。
再委託先は、本案内書「主要参考文献」と「検査報告書」に以下の記号を表示してあります。なお、当社より外部委託先への平均輸送時間は、各施設名の後に表示の通りとなっております。

- ※01 ファルコバイオシステムズ（6時間）
- ※02 エスアールエル（6時間）
- ※03 LSIメディエンス（6時間）
～経由～
- ※11 あすか製薬メディカル（12時間）
- ※16 エスアールエル（8時間）
- ※17 北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所（8時間）
- ※18 ビー・エム・エル（11時間）
- ※21 常盤特殊分析センター（9時間）
- ※24 日立化成（9時間）
- ※37 積水メディカル SMCL 阿見ラボラトリー（8時間）
- ※04 四国細胞病理センター（0.5時間）
- ※06 保健科学研究所（6時間）
- ※07 西日本病理研究所（3時間）
- ※08 ビー・エム・エル（6時間）
- ※09 日本遺伝子研究所（17時間）

再検査

- 当社再検査基準に基づき、再検査を致します。
- 最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられないことがあります。

検体の受入不可基準について

搬入された検体の状態によっては、測定をお断りする事があります。

- 検体採取から当社受入れまでの許容時間が指定されている検査項目で、その時間を超過して搬入された検体。
- 指定された搬送温度を逸脱して搬送された検体。
- 指定された採取量に対して著しく不足していたり、あるいは多く採取されている検体。
- 指定された専用容器に採取されていなかったり、採取されていても十分な混和がされていない検体。
- 著しい凝固、溶血、乳び等の性状不適合が見られる検体。

所要日数

- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、成績を先生のお手元にお届けするまでの日数です。
- 依頼検査項目の組合せにより、所要日数の長い項目に準ずることがあります。
- 再検査の場合や祝祭日の前後は、さらに若干の日数を要することがあります。

検査結果のご報告

- 検査結果は、当社指定の報告書にてお届け致します。
- 緊急を要する検査結果は、まずFAXでご報告致します。
- 本案内書で緊急報告対象に指定した項目において異常データを示した場合は、測定後速やかにFAX等にてご報告致します。報告基準につきましては、手引き-6頁の「緊急報告対象項目とその基準値」をご参照ください。
- 定量検査では、当社独自の基準により測定範囲に上限を設け、検査結果が上限値を超える場合、「〇〇以上」とご報告させていただきます。

検体の保管

- 検査を追加される場合は、最寄りの検査所までお問い合わせください。
- 検査済み検体はお客様との特段の取り決めがない限り、血清検体は2週間、末梢血液検体など一部の検体は1週間保管いたします。
なお、腐敗、変性の著しい材料につきましては検査実施後に処分させていただく場合がございますので、予めご了承ください。保管期間後の検体は、適正な方法にて廃棄致します。
なお、プール化および匿名化が可能なものにつきましては、個人情報保護法およびガイドラインを遵守した上で検査精度維持、向上等の目的で使用する場合があります。
また、検体保管期間中に検査を委託した医療機関より残検体の返還を求められた場合は速やかに返還致しますが、委託した医療機関以外または医師個人から学術研究等の目的により検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供に応じることはできません。

料金のご請求とお支払い方法

- 請求書は1ヶ月分をまとめてお届け致します。お支払方法は契約にしたがってお願い致します。
- お支払いは、なるべく銀行口座振替または振込にてお願い致します。なお、銀行振込の場合は、振込金受取書をお持ちして、領収書に代えさせていただきます。

検査についてのお問い合わせ

- 検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、最寄りの検査所または営業担当者までお問い合わせください。

免責について

ご依頼いただきました検査は、弊社が定める実施基準に基づく作業手順にて実施いたしますが、お預かりした検体の状態、または技術的限界等により、期待された検査結果をご報告できない場合がございます。このような場合の検査結果につきましては、免責させていただきます。

業務時間

業務日

月曜日～土曜日

休業日

香川検査所： 日曜日、祝日、その他(年末年始等)

検査所：

業務時間

香川検査所： 8:00～19:30

検査所：

個人情報保護方針

個人情報保護方針につきましては、弊社のホームページをご参照ください。

<http://www.s-cyuken.co.jp/>

検査項目名称

本検査案内書に記載の検査項目名称は、検査報告書・緊急報告用FAXあるいは電子報告データの検査項目名称と異なる場合があります。(字数制限等の理由により、略号を用いる場合があります)

主な基準値の単位

L	liter	(=1,000mL)	μU	micro Unit	(0.001mU)	FE	Fibrinogen Equivalent
dL	deciliter	(=100mL)	IU	International Unit		BCE	Bone Collagen Equivalent
mL	milliliter		AU	Arbitrary Unit		mOsm	milli Osmole
mm³	cubicmillimeter		BU	Bethesda Unit		sec	second
μ³	cubicmicron		RLU	Relative Light Unit		min	minute
g	gram		R.U.	RPR Units		h	hour
mg	milligram	(=0.001g)	T.U.	Titer Units		%	percent
μg	microgram	(=0.001mg)	mmol	millimole	(=0.001mol)	‰	permill
ng	nanogram	(=0.001μg)	μmol	micromole	(=0.001mmol)	SI	Stimulation Index
pg	picogram	(=0.001ng)	nmol	nanomole	(=0.001μmol)	cpm	count per minute
U	Unit		pmol	picomole	(=0.001nmol)	RBC	Red Blood Cell
UA	Allergen Unit		fmol	femtomole	(=0.001pmol)	LogIU	
mU	milli Unit	(0.001U)	mEq	milli Equivalent			

検査材料に関する主な用語

検査材料 概要

血液 検査のために採取していただく肘静脈血を表します。

～加血液 採血後速やかに添加剤を混和した血液を表します。添加剤の種類により、「EDTA加血液」、「ヘパリン加血液」、「クエン酸加血液」、「NaF加血液」など并表示致します。(所定の添加剤入り当社指定容器に血液を採取して下さい。)

～血漿 採血後速やかに添加剤を混和し、遠心分離によって得られた血漿を表します。添加剤の種類により、「EDTA血漿」、「ヘパリン血漿」、「クエン酸血漿」など并表示致します。なお、単に「血漿」とあるものについては「備考欄」に添加剤の種類を別記しております。

血清 採血後、血餅の収縮を待つて遠心分離して得られた上清を表します。特に添加剤を用いる必要のある場合は、その旨「備考欄」に記載しております。

尿 原則として自然排尿された尿を表します。なお、「蓄尿」を要する場合、「備考欄」に使用する防腐剤の種類を別記しております。採尿方法については、以下を参考として下さい。

1)普通尿の場合

新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。

2)中間尿の場合

清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。

3)無菌尿の場合

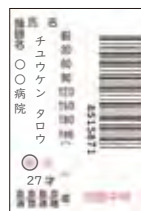
男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。

検査依頼書の記入要領

- 検査依頼書の2枚目は、検査依頼元「控」および検体受領書となっております。
- 受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようにご注意ください。
- 検査依頼書は複写式となっておりますので、ボールペンで強くお書きください。

- ① 患者名、診療科名、病棟名、提出医名、フリーコメントは、カタカナ・アルファベット・アラビア数字を左詰めでご記入ください。
- ② 検体採取月日、採取時刻をご記入ください。
- ③ 性別に☑印をご記入ください。併せて年齢もご記入ください。
- ④ 必要に応じてカルテ№をご記入ください。
- ⑤ 必要に応じて入院・外来、透析前・透析後、随時尿・蓄尿に☑印をご記入ください。尿量が必要な場合は、尿量もご記入ください。
- ⑥ 緊急検査につきましては、緊急に☑印をご記入ください。
- ⑦ ご依頼検査項目は、項目のチェック欄に☑印をご記入ください。
- ⑧ チェックした☑印を取り消す場合は、☒印をご記入ください。
- ⑨ 記載されていない項目をご依頼の場合は、追加検査欄に項目名をご記入ください。
- ⑩ 検査の優先順位等、特にご指示のある場合は備考欄にご記入ください。
- ⑪ 提出検体の種類毎の検体数及び合計数をご記入ください。

● 検体ラベルについて



依頼書下部には「検体ラベル」が付属しています。負荷試験等で付属ラベルが不足する場合は、別途お持ちする「汎用検体ラベル」に必要事項を記入してご提出ください。

本文の記載内容について

- 本文では、検体採取量・提出量、検査方法、基準値、実施料・判断料区分、検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記しております。下記の例をご参照の上、正確な検体の採取にご協力ください。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
0115	総蛋白 (TP)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ビウレット法	6.6 ~ 8.1	11 5	1 2	
		血清 0.5	01	冷蔵 (4週)			11 5	1 2	
0116	A/G比	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	1.32 ~ 2.23	—	1 5	計算値 (A/G) = (Alb) / (Glb)
		血清 0.5	01	冷蔵 (4週)			—	1 5	
0117	アルブミン (Alb)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	BOP改良法	4.1 ~ 5.1	11 5	1 2	
		血清 0.5	01	冷蔵 (4週)			11 5	1 2	

検体の提出条件

検体が血清である例：当社「汎用容器(分離剤入り)01」に血液2 mL採取し、遠心操作後、ご提出ください。
(採取、提出とも同一容器(01)で、別容器への移し替えは不要です)

添加剤入り容器等、検査に必要な容器の番号を容器欄に記載しております。
専用容器については、巻末の「専用容器一覧」頁をご参照ください。

「基準値」欄の記号

M: 男性(Male) F: 女性(Female)

緊急報告対象項目

●下記の検査項目で、緊急報告値が検出された場合は、測定後速やかにFAX等にてご報告いたします。

	検査項目名	緊急報告基準値			区分	参考基準値	備 考
生化学	総蛋白	3.5 以下	10.0 以上	g/dL	極	6.6 ～ 8.1	
	総ビリルビン		12.0 以上	mg/dL	極	0.2 ～ 1.0	新生児以外
	AST (GOT)		500 以上	U/L	極	5 ～ 40	
	ALT (GPT)		500 以上	U/L	極	5 ～ 42	
	LD (LDH)		1000 以上	U/L	パ	110 ～ 220	
	CK (CPK)		1000 以上	U/L	パ	M57 ～ 284 F45 ～ 176	
	アンモニア		400 以上	μg/dL	極	30 ～ 86	除蛋白不良は除く
	尿素窒素		80.0 以上	mg/dL	極	8.0 ～ 20.0	透析患者は除外
	クレアチニン		8.00 以上	mg/dL	パ	M0.50 ～ 1.00 F0.40 ～ 0.80	透析患者は除外
	ナトリウム	120 以下	160 以上	mEq/L	パ	136 ～ 148	
	クロール		120 以上	mEq/L	パ	98 ～ 108	
	カリウム	2.5 以下	7.0 以上	mEq/L	パ	3.6 ～ 5.0	透析患者は除外
	カルシウム	6.0 以下	12.0 以上	mg/dL	パ	8.6 ～ 10.4	
	グルコース (空腹時)	50 以下	500 以上	mg/dL	パ	70 ～ 110	低値は専用容器使用のみ報告
	アミラーゼ (血清)		1000 以上	U/L	極	37 ～ 125	
血清	CRP		30.00 以上	mg/dL	極	0.30以下	
	ABO血液型	表裏試験不一致			パ		
	クームス (直接)	(+)			パ	(-)	新生児に限る
血液学	白血球数	15 以下	200 以上	×10 ³ /μL	パ	40 ～ 80	
	ヘモグロビン	5.0 以下	20.0 以上	g/dL	パ	M12.4 ～ 17.6 F11.0 ～ 15.2	
	血小板数	3.0 以下	100.0 以上	×10 ⁴ /μL	パ	14.0 ～ 34.0	
	血液像	blastoid cell (+) 異常細胞多数出現 赤芽球多数出現 (30/200WBC) 以上					初診者のみ報告
	プロトロンビン時間		30.0 以上	秒	極	9.7 ～ 12.3	
	プロトロンビン - INR		4.0 以上		パ		
	細菌	血液培養	菌検出			パ	細菌を認めず
髄液 (培養)		菌検出			パ	細菌を認めず	
培養同定		一類二類三類感染症原因菌の検出			パ	細菌を認めず	

	検査項目名	緊急報告基準値		区分	有効治療濃度	備 考
薬物検査	フェノバルビタール		60.0 以上	μg/mL	パ	15.0 ~ 40.0
	フェニトイン		30.0 以上	μg/mL	パ	10.0 ~ 20.0
	カルバマゼピン		12.0 以上	μg/mL	パ	4.0 ~ 10.0
	バルプロ酸ナトリウム		150 以上	μg/mL	パ	50 ~ 100
	テオフィリン		25.0 以上	μg/mL	パ	10.0 ~ 20.0
	ジゴキシン		2.5 以上	ng/mL	パ	0.9 ~ 2.0

「極」は極端値、「パ」はパニック値を表します。

参考：日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編集、臨床検査のガイドライン JSLM2015.
表中の区分は、日本臨床検査自動化学会誌 2005、極端値・パニック値対応マニュアルに準拠。

実施料について

保険点数は平成30年4月現在の検体検査実施料に準じております

● 下記に掲げた検査を、1回に採取した材料を用いて複数行った場合、項目数に応じて実施料欄に示したように算定されます。

■ 出血・凝固検査

項目数	実施料
3項目又は4項目	530
5項目以上	722

Dダイマー定性 プラスミンインヒビター(アンチプラスミン) Dダイマー半定量 von Willebrand 因子(VWF)活性 Dダイマー α2-マクログロブリン PIVKA-II 凝固因子インヒビター von Willebrand 因子(VWF)抗原 プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC) プロテインS抗原 プロテインS活性	β-トロンボグロブリン(β-TG) 血小板第4因子(PF4) トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT) プロトロンビンフラグメントF1+2 トロンボモジュリン 凝固因子 (第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第Ⅼ因子) フィブリンモノマー複合体 プロテインC抗原 tPA・PAI-1複合体 プロテインC活性
---	---

■ 生化学的検査 I

項目数	実施料
5項目以上7項目以下	93
8項目又は9項目	99
10項目以上	112

総ビリルビン 直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン 総蛋白 アルブミン 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 アルカリホスファターゼ(ALP) γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT) 中性脂肪 ナトリウム及びクロール カリウム カルシウム マグネシウム クレアチン グルコース 乳酸デヒドロゲナーゼ(LD) アミラーゼ ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	クレアチンキナーゼ(CK) アルドラーゼ 遊離コレステロール 鉄(Fe) 血中ケトン体・糖・クロール検査 (試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの) 不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法) 総鉄結合能(TIBC)(比色法) リン脂質 HDL-コレステロール 無機リン及びリン酸 総コレステロール アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST) アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT) LDL-コレステロール 蛋白分画 銅(Cu) リパーゼ イオン化カルシウム マンガン(Mn)
--	---

■ 内分泌学的検査

項目数	実施料
3項目以上5項目以下	410
6項目又は7項目	623
8項目以上	900

成長ホルモン(GH) 卵巣刺激ホルモン(FSH) C-ペプチド(CPR) 黄体形成ホルモン(LH) アルドステロン テストステロン 遊離サイロキシ(FT4) 遊離トリヨードサイロニン(FT3) コルチゾール サイロキシ結合グロブリン(TBG) 抗グルタミン酸デカルボキシルーゼ抗体(抗GAD抗体) 脳性Na利尿ペプチド(BNP) サイログロブリン サイロキシ結合能(TBC) 脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP) ヒト胎盤性ラクトーゲン(HPL) ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β) カルシトニン ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量 ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量 グルカゴン プロゲステロン I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX) 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b) 骨型アルカリホスファターゼ(BAP) 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC) オステオカルシン(OC) 遊離テストステロン インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PINP) I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿) セクレチン	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量 I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX) I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP) サイクリックAMP(cAMP) 副甲状腺ホルモン(PTH) カテコールアミン分画 デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S) エストリオール(E3) エストロゲン半定量 エストロゲン定量 副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP) エストラジオール(E2) デオキシビリジノリン(DPD)(尿) 副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP) 17-ケトジェニックスステロイド(17-KGS) 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH) カテコールアミン エリスロポエチン 17-ケトステロイド分画(17-KS分画) 17α-ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP) 抗IA-2抗体 プレグナンジオール 17-ケトジェニックスステロイド分画(17-KGS分画) メタネフリン ソマトメジンC 心房性Na利尿ペプチド(ANP) メタネフリン・ノルメタネフリン分画 抗利尿ホルモン(ADH) プレグナントリオール ノルメタネフリン インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)
--	--

■ 腫瘍マーカー

項 目 数	実施料
2 項目	230
3 項目	290
4 項目以上	420

癌胎児性抗原(CEA) α-フェトプロテイン(AFP) 組織ポリペプチド抗原(TPA) 扁平上皮癌関連抗原(SCC 抗原) DUPAN-2 NCC-ST-439 CA15-3 前立腺酸ホスファターゼ抗原(PAP) エラスターゼ 1 前立腺特異抗原(PSA) CA19-9 PIVKA-Ⅱ 半定量 PIVKA-Ⅱ 定量 CA72-4 Span-1 シアリル Tn 抗原(STN) 神経特異エノラーゼ(NSE) CA125 塩基性フェトプロテイン(BFP) 核マトリックスプロテイン 22(NMP22)定量(尿) 核マトリックスプロテイン 22(NMP22)定性(尿)	シアリル Le ^x -i 抗原(SLX) 遊離型 PSA 比(PSA F/T 比) サイトケラチン 8・18(尿) 抗 p53 抗体 BCA225 サイトケラチン 19 フラグメント(シフラ) シアリル Le ^x 抗原(CSLEX) I 型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP) ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) CA54/61 癌関連ガラクトース転移酵素(GAT) CA602 α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%) γ-セミノプロテイン(γ-Sm) ヒト精巣上体蛋白 4(HE4) 可溶性メソテリン関連ペプチド 癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液) 癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液) HER2 蛋白 可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)
--	---

■ 肝炎ウイルス関連検査

項 目 数	実施料
3 項目	290
4 項目	360
5 項目以上	447

HBs 抗原 HBs 抗体 HBe 抗原 HBe 抗体 HCV 抗体定性・定量 HCV コア蛋白 HBc 抗体半定量・定量 HCV コア抗体 HA-IgM 抗体 HA 抗体	HBc-IgM 抗体 HCV 構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性 HCV 構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量 HE-IgA 抗体定性 HCV 血清群別判定 HBV コア関連抗原(HBcrAg) デルタ肝炎ウイルス抗体 HCV 特異抗体価 HBV ジェノタイプ判定
---	--

■ 自己抗体検査

項 目 数	実施料
2 項目	320
3 項目以上	490

抗サイログロブリン抗体 抗 RNP 抗体定性 抗 RNP 抗体半定量 抗 RNP 抗体定量 抗 Jo-1 抗体定性 抗 Jo-1 抗体半定量 抗 Jo-1 抗体定量 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 抗 Sm 抗体定性 抗 Sm 抗体半定量 抗 Sm 抗体定量 抗 SS-B/La 抗体定性 抗 SS-B/La 抗体半定量	抗 SS-B/La 抗体定量 C ₁ q 結合免疫複合体 抗 Scl-70 抗体定性 抗 Scl-70 抗体半定量 抗 Scl-70 抗体定量 抗 SS-A/Ro 抗体定性 抗 SS-A/Ro 抗体半定量 抗 SS-A/Ro 抗体定量 抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体 抗 ARS 抗体 抗 MDA5 抗体 抗 TIF1-γ 抗体 抗 Mi-2 抗体
---	---

● 検体検査判断料、病理判断料の区分は「実施料 判断料」欄に下記の通り併記してあります。

① 尿・糞便等検査判断料		34 点	尿便
② 血液学的検査判断料		125 点	血液
③ 生化学的検査(Ⅰ)判断料		144 点	生Ⅰ
④ 生化学的検査(Ⅱ)判断料		144 点	生Ⅱ
⑤ 免疫学的検査判断料		144 点	免疫
⑥ 微生物学的検査判断料		150 点	微生物
⑦ 病理判断料		150 点	病理
組織診断料(450 点)			
細胞診断料(200 点)			

●主な検査方法の概略

BLEIA 生物発光酵素免疫測定法

bioluminescent enzyme immunoassay

生物発光体のルシフェリンはその生物が持つルシフェラーゼとのみ反応する。このルシフェリン・ルシフェラーゼを応用した酵素免疫測定法(EIA)の一つである。抗体又は抗原を結合させた磁性粒子と検体中の抗原(抗体)を反応させ、さらにルシフェラーゼ標識抗体を加えB/F分離後、基質のルシフェリンを加えると発光する。この発光強度により検量線から濃度を測定する。

CF 補体結合試験

Complement Fixation Test

抗原-抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に補体を結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出などに用いられる最も基本的な検査方法である。CF活性を持つのはIgGとIgMのみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。ペーア血清で測定するのが望ましい。

CLEIA 化学発光・酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加えると、この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光する。その発光量をルミナーターで測定し定量する検査方法である。

CLIA 化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immunoassay

被検検体にアクリル・ニーム・エステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサンドイッチ状の複合物を形成させることにより測定する検査方法、磁気分離固相法によりB/F分離した後、専用アクリル・ニーム・エステル発光量を測定することにより定量する。

drVVT 希釈ラッセル蛇毒試験法

Diluted Russell's Viper Venom Time

ラッセル蛇毒は、外因系の第VII因子、接触因子、内因系の抗出血性因子の関与を受けずに直接血漿中の第X因子を活性化して凝固反応を開始し、リ脂質、カルシウム、活性第V因子の共存下で最終的にトロンビンを生成する。抗リ脂質抗体の一種であるループ・スポンジ・ファクト(LA)が存在すると上記反応系からリ脂質が消費され、その結果として凝固時間の延長をきたす。ここで過剰なリ脂質を添加して同様の反応を行いLAの影響を予め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中のLAの存在を間接的に証明できる。

ECLIA 電気化学発光免疫測定法

Electro Chemiluminescent Immunoassay

電解反応により生成されるトリチウムによりトリチウム・リジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一つである。

被検検体に測定を目的とする物質(A)に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した(A)にトリチウム標識抗体を反応させるとサンドイッチ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上に電気トリチウムを加えるとビーズに結合したトリチウム標識抗体量に応じてトリチウム錯体が発光する。この発光量は(A)の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

EIA 酵素免疫測定法

Enzyme Immunoassay

抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種抗体、ウイルス抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペーア・ルチナーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられる。

ELISPOT

Enzyme-Linked ImmunoSpot

サイトカインを高感度に検出する検査法の一つ。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを通常のELISA法の数十倍以上の感度で測定が可能で、100,000個中1個の細胞という低レベルでも検出可能とされる。結核菌感染既往を検査するT-SPOT.TB検査に用いられており、抗原により刺激してIFN- γ 産生細胞数を計測することにより感染診断を行う。

EMIT

Enzyme-multiplied Immunoassay Technique

EMITは、主に薬物濃度測定に用いられる検査方法である。検体中の薬物とグルコース-6-リン酸脱水素酵素(G-6-PDH)で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合のG-6-PDHが、さらにニコチナミド・アデニン・ヌクレオチド(NAD)をNADHに還元することによって生じる吸光度の変化を測定することを利用した酵素免疫法の一種である。

FAT 蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Test

抗原または抗体を測定する場合にFITCなどの蛍光色素を標識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると反応が生じた場合は特異的な蛍光が見られる。抗体(抗原)に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる間接法がある。

FEIA 蛍光・酵素免疫測定法

Fluorescence-Enzyme Immunoassay

EIA法の一つである。主にアルブミン特異的IgE抗体を測定するのに用いられている。酵素を標識として用い測定対象のアルブミン(抗原)を被検検体に入れ、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により検量線より濃度を測定する。

FISH

Fluorescence In Situ Hybridization

ISH法(In Situ Hybridization)は細胞培養や核酸抽出などを行わずに染色体、細胞、組織などを相補的プローブを用いて核酸ハイブリダイゼーションを行い、標的遺伝子の有無や異常などを判定する検査方法である。FISH法は蛍光物質(Fluorescence)を用いて非放射性プローブによりISH法を行うものである。

GC

Gas Chromatography

固定相としてキャピラリー・カラムを用い、測定試料が移動相(キャリアーガス)の流れる間に溶解性の差によって分離・同定される。固定相(液相)は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器(ECD)、水素炎イオン化検出器(FID)、熱伝導度検出器(TCD)などが用いられている。

GC-MS

Gas Chromatography-Mas Spectrometry

マス・スペクトロメリー(質量分析;MS)は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質の質量・分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルを解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。GC-MSはこのMSにガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。

HEIA

Homogeneous Enzyme Immunoassay

検体中の測定対象物質(抗原物質)は試薬中の酵素(G-6-PDH)で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。その結果、抗体と結合できなかったG-6-PDHで標識された測定対象物質はG-6-PDHの酵素活性により補酵素であるNADが還元され、NADHに変換される。しかし、この酵素活性は抗体と結合することにより活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例してNADHの量が増加する。吸光度によりこのNADHを測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

HI

Hemagglutination Inhibition Test

一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させた後、赤血球を加え、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

HPLC

High Performance Liquid Chromatography

微細な球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。

ICP-MS

Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry

誘導結合プラズマ質量分析法ともいい、様々な元素を測定する方法である。ICPは試料を気体化させ、高電圧をかけることによりプラズマ化し、さらに高周波の変動磁場により高温プラズマ化させるものである。ICP-MSはこの高温プラズマ質量分析計に導入し、そこで元素の同定・定量を行う。

IR

Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているため、測定試料に照射する赤外線は波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法である。

IRMA 免疫放射定量法

Immunoradiometric Assay

RIA法(ラジオイムノアッセイ)の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原・抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では2抗体法以外の方法をIRMAと呼ぶことがある。

KIMS

Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

検体中の測定対象物質と試薬中の測定対象物質に対する抗体を反応させる。検体中に測定対象物質が存在する場合は測定対象物質とその抗体が反応し、試薬中の抗体量が減少する。しかし、測定対象物質が存在しない場合は試薬中の抗体量は変化しない。これらの反応液に測定対象物質が結合した微粒子(Microparticles)が入った溶液を添加し反応させると、反応液中に残存する抗体量に比例して微粒子が凝集する。この凝集を吸光度として測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

LA ラテックス凝集比濁法

Latex Agglutination-Turbidimetric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、凝集に伴う反応液の濁度変化に基づいて目的物質を測定する。

LAMP

Loop-Mediated Isothermal Amplification

PCR法と同じく遺伝子増幅法の一つ、ターゲットとするDNAの6つの領域に対し4種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、カプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型DNA合成酵素、基質等を一定温度(約65℃)で反応させ増幅を行う。DNAを15分~1時間で $10^2 \sim 10^{10}$ 倍に増幅することができ、また逆転写酵素(Reverse transcriptase:RT)を添加することによりRNAを増幅することも可能である。

LC-MS/MS タンデムMS法

Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry

LC-MS/MSは高速液体クロマトグラフィー(HPLC)と質量分析計(MS)を2段階結合させた装置。試料をHPLCにより分離し、1台目のMSでイオン化させ質量毎に分離(ブレイクアップ)する。これを不活性ガスと衝突させ、1台目のMSで選択したイオンから生じた2次のイオン(フラグメント)を2段目のMSで計測する。2回の質量分離を行うため高い分離能と特異性が得られるため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確な定量を行うことができる。

LPIA ラテックス近赤外比濁法

Latex Photometric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が変化する。これに赤外線当てその透過度により定量する方法である。

MAT法 磁性化粒子凝集法

magnetic agglutination test

主にHBs抗原を検出する検査方法で、ウエル上に結合したHBs抗体とHBs抗体感作粒子は検体中のHBs抗原と抗体反応を起こし、ウエル表面への粒子の結合反応が付加され、自然沈降法又は磁気沈降法により凝集像を生じさせ、凝集の有無により陰性・陽性を判定する。

MPHA 混合受身赤血球凝集試験

Mixed Passive Hemagglutination Test

プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それらに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行なう。

NT 中和試験

Neutralization Test

ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果(CPE)が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

PA 粒子凝集試験

Particle Agglutination Test

ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が存在する場合にはゼラチン粒子が凝集する。

PCR ポリメラーゼ連鎖反応

Polymerase Chain Reaction

DNA断片を増幅する方法。ターゲットとする領域のDNAを増幅するため、加熱・変性させ一本鎖DNAにし、次に2種のプライマーを混合させ、適当な温度条件においてアニールさせると各々のプライマーは相補性のある塩基対を形成する。さらにDNAポリメラーゼ反応により鎖が伸長し、最初のDNA部分の鎖が1回だけ増幅される。このプロセスを繰り返すことによりDNA断片の数を無限大に得ることができる。PCR法ではDNAしか増幅できないのでRNA断片を増幅する場合は逆転写酵素(Reverse transcriptase:RT)によりDNAに転換して増幅するRT-PCR法が用いられる。PCR法には増幅量をリアルタイムにモニタリングし、電気泳動が不要なreal-time PCR法、またその中にTaqManプロブを用いるTaqManPCR法などがある。さらにPCRにより増幅した後、シーケンサーにより遺伝子配列を決定するPCR/シーケンス法やプロベティグを用い微量なカプシド質を検出するPCR/プロベティグ法などPCR法を併用した様々な検査法が用いられている。

PHA 受身赤血球凝集試験

Passive Hemagglutination Test

動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

PNA-LNA PCR Clamp法

Peptide Nucleic Acid-Locked Nucleic Acid Polymerase Chain Reaction Clamp method

点突然変異および欠失変異を高感度に検出する方法。EGFRの遺伝子変異の検出に用いられるが、検体中に野生型と変異型が存在している場合、PCR増幅時には野生型alleleはclamp primerにより増幅が阻害されるが変異型alleleには増幅阻害が起こらないため、変異型が優先して増幅される。それをmutantおよびtotal probeのシグナルにより変異の有無を判定する。

RFLP 制限酵素断片長多型

Restriction Fragment Length Polymorphism

遺伝子多型が存在するDNA配列を、制限酵素断片の長さや数によって解析する方法全般を指す。必要量のDNAを採取して直接解析する場合や、PCRにより増幅したDNA断片を試料とする場合がある。

RIA ラジオイムノアッセイ法

Radioimmunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオイソトープ(主に ^{125}I)で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物(bound)と未反応物(free)を分離(B/F分離)し、放射活性を測定してB/Fの比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法をIRMAと呼んでいる。

RPLA 逆受身ラテックス凝集試験

Reversed Passive Latex Agglutination Test

RPLA法と基本的な検出原理を同じくするが、抗体の固相化担体として動物赤血球に代えてラテックス粒子を用いるものである。

SRID 免疫拡散法

Single Radial Immunodiffusion

ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体を加え、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定する。

TIA 免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay

被検検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

UV 紫外外部吸光度分析法

Ultraviolet Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素がNADHやNADPHの場合は波長が340nm付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合はUV法が用いられる。

イムノクロマトグラフィー法

Immunochromatography

液体を硝酸セルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さらに膜に固相化した抗体で抗原・抗体複合体を捕捉する。こうして形成されたサンドイッチ複合体(色素標識抗体・抗原・固相化抗体)は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認することができる。

ウェスタンブロット

Western Blot method

電気泳動によって分離した蛋白質を硝酸セルロース膜に転写し、その蛋白質に対する特異的抗体を用いることにより目的の蛋白質のバンドを検出する方法である。

原子吸光法

Atomic Absorption method

金属などの様々な元素を測定する方法である。検体を化学炎(フーエル)や加熱グラファイト管(フーエル)中で元素の基底状態原子化を行い、さらにその元素固有の共鳴線を照射すると吸収が生ずる。この吸収は気体化原子の原子数に応じて起こるため、これを利用することにより、検体中の目的元素の濃度を測定する方法である。

サザンブロット法

Southern Blot Method

電気泳動法の一つで、特定のDNAの同定に用いられる手法である。制限酵素により処理されたgenome DNAをゲル内電気泳動により分離した後、硝酸セルロース膜などに転写し、ハイブでハイブした特異的プローブを用いて目的とするDNA断片を検出する方法。開発者のEdwin M. Southernの名をとって命名された。

電気泳動法

Electrophoresis

溶液中に存在する全ての蛋白質は固有の電荷を帯びており、アルカリ溶液中においてはpH側に荷電している。そこに電流を通じると、その物質固有の易動度で陽極側に移動する。電気泳動法はこの性質を利用して検査を目的とする物質の分離・同定を行うものである。

ネフェロメトリー法

Nephelometry

検出を目的とする抗原物質に対応する抗体を検体に添加し、抗原抗体反応を行わせ、それによって生じた抗原抗体複合物に光を照射し、その散乱強度により検量線より濃度を読み取り測定する方法。

ハイブリッドキャプチャー法

Hybrid Capture method

ハイブリッドキャプチャー法(HC法)は、RNAプローブを用いて検体中のDNAとハイブリダイゼーションを行い、生成したDNA/RNAハイブリッドを特異抗体を用いて免疫アッセイで検出するものである。DNA増幅操作を行わずに高感度に目的遺伝子を検出することが可能である。

比濁時間分析法

Turbidimetric Time Assay

エンドトキシン測定法の一つ、エンドトキシンの存在下にカプトゲン血液抽出物中の凝固成分であるファクターC、ファクターB、凝固酵素(clotting enzyme)前駆体、およびコアグロゲン(coagulogen)が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリン(coagulin)がゲル化する性質を利用したものである。ここでゲル形成に要する時間は反応初発時のエンドトキシン量の2回対数に反比例することから、ゲル化時間を測定すれば、検体中のエンドトキシン量を求めることができる。

フローサイトメトリー法

Flowcytometry

フローサイトメーターを用い細胞などの粒子1個1個から大きさや形態の情報、DNA/RNA蛍光染色、モノクローナル抗体を用いた白血球などの表面抗原の解析などを1秒間に数千個以上の速度で認識し、それらの相関を解析するヒストグラムを作成し、さらに目的とする2種類の細胞集団などを高速度で分取することが可能な検査方法。

Bethesda法(ベセスダ法)

主に血液凝固系検査に用いられる検査方法である。凝固因子インヒビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検血漿を混合・反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比によりBethesda算定図より凝固因子阻止量を読み取る。

免疫電気泳動法(免疫固定法)

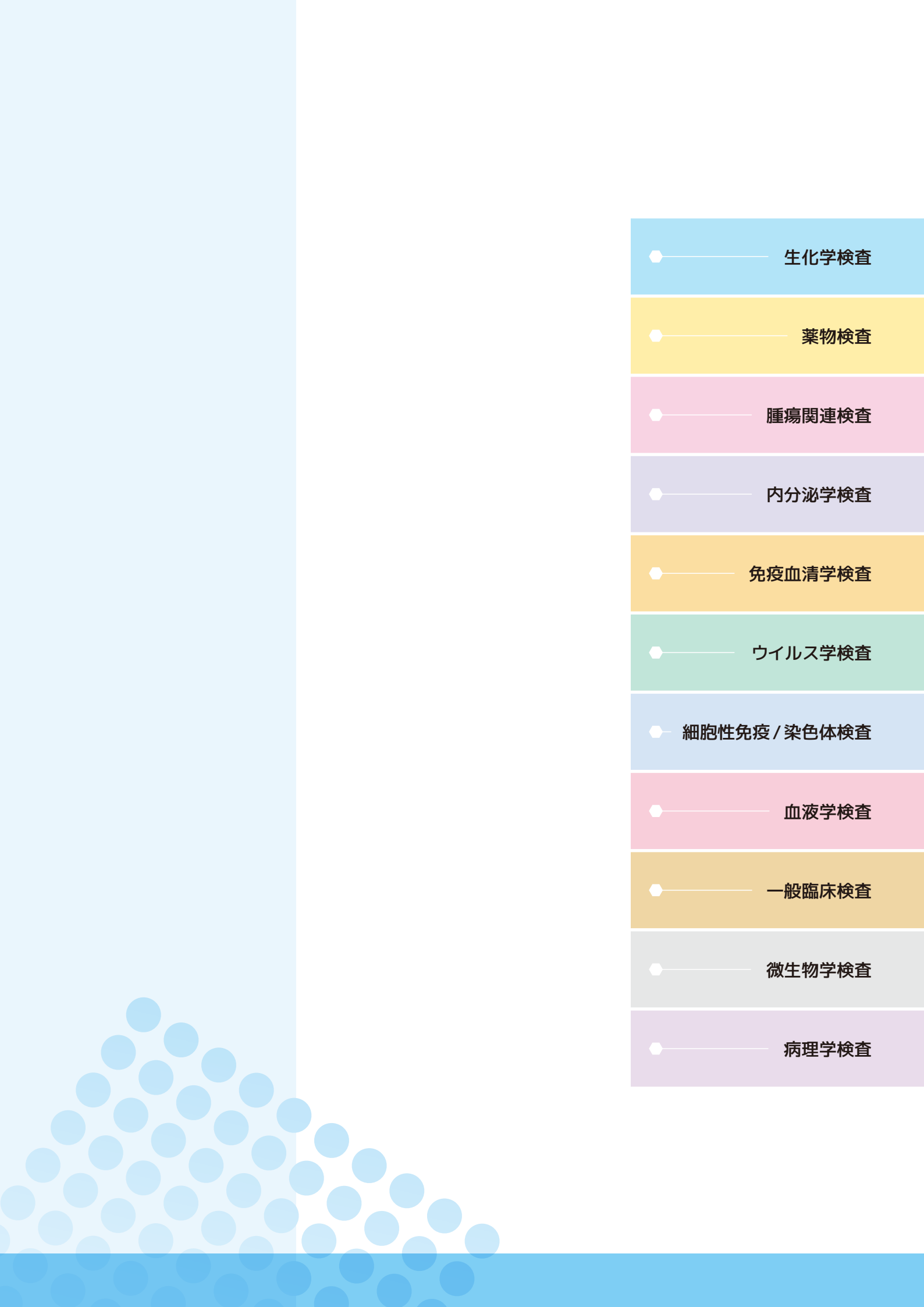
Immunofixation / Electrophoresis

免疫固定電気泳動法は抗原・抗体支持体を用いた蛋白質の電気泳動と免疫沈降反応を組み合わせた検査方法である。支持体上に検体を塗布し、電気泳動により蛋白成分を分離させ、さらに特異抗血清(IgG, A, M, D, E, K, Λ)による免疫沈降反応を応用することで反応生成物を支持体中に固定する。反応を起こした複合体は蛋白染色により明瞭なバンドとして観察することができる。

免疫電気泳動法

Immunoelectrophoresis

電気泳動を行う際に支持体として用いるゲルの中に抗血清(抗体)を入れることにより、検体中の蛋白質を解析する検査。抗血清全血清を用いた検査では数十種類の血清蛋白の観察が可能であり、抗血清特異血清を用いた検査では単一の免疫グロブリンが認められるM-蛋白血症の診断に有用である。泳動を行う際に用いる支持体にはセルロースアセテート膜や抗原・抗体(寒天)ゲル、比較的分離能が良いとされるポリアクリルアミドゲル(PAGE)などがある。



● 生化学検査

● 薬物検査

● 腫瘍関連検査

● 内分泌学検査

● 免疫血清学検査

● ウイルス学検査

● 細胞性免疫 / 染色体検査

● 血液学検査

● 一般臨床検査

● 微生物学検査

● 病理学検査

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0115	総蛋白 〈TP〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ビウレット法	6.6 ~ 8.1 g/dL	11 生I ①	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0116	A/G比	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	1.32 ~ 2.23	—	1 ↓ 2	計算値 (A/G) = (Alb) / (Glb)
		血清 0.5							
0117	アルブミン 〈Alb〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	BCP改良法	4.1 ~ 5.1 g/dL	11 生I ①	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0118	グロブリン 〈Glb〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	2.2 ~ 3.4 g/dL	—	1 ↓ 2	計算値 (Glb) = (TP) - (Alb)
		血清 0.5							
0101	蛋白分画 〈PR-F〉	血液 2	01	冷蔵 (1週)	電気泳動法 (セルロース アセテート膜電気 泳動法)	12頁参照	18 生I ①	1 ↓ 2	
		血清 0.7							
0125	ZTT 〈硫酸亜鉛試験〉	血液 2	01	冷蔵 (3日)	硫酸亜鉛混濁 試験	2.0 ~ 12.0 U	—	1 ↓ 2	膠質反応
		血清 0.5							
0119	総ビリルビン 〈T-BIL〉	血液 2	01	冷蔵 (1週)	バナジン酸 酸化法	0.2 ~ 1.0 mg/dL	11 生I ②	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0120	直接ビリルビン 〈D-BIL〉	血液 2	01	冷蔵 (1週)	バナジン酸 酸化法	0 ~ 0.4 mg/dL	11 生I ②	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0121	間接ビリルビン 〈I-BIL〉	血液 2	01	冷蔵 (1週)	計算値	0 ~ 0.6 mg/dL	—	1 ↓ 2	計算値 (I-BIL) = (T-BIL) - (D-BIL)
		血清 0.5							
0126	AST 〈GOT〉	血液 2	01	冷蔵 (1週)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 40 U/L	17 生I	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0127	ALT 〈GPT〉	血液 2	01	冷蔵 (3日)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 42 U/L	17 生I	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0129	LD 〈LDH〉	血液 2	01	冷蔵 (2日)	JSCC 標準化対応法	110 ~ 220 U/L	11 生I	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0128	アルカリホスファターゼ 〈ALP〉	血液 2	01	冷蔵	JSCC 標準化対応法	100 ~ 340 U/L	11 生I		
		血清 0.5							
0131	LAP	血液 2	01	冷蔵 (4週)	L-ロイシル-P- ニトロアニリド 基質法	30 ~ 70 U/L	11 生I		
		血清 0.5							

- ① : 「蛋白分画」、「総蛋白」、「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定できます。
- ② : 直接・間接ビリルビンをご依頼の場合、保険請求は「総ビリルビン」および「直接ビリルビン」と明記して下さい。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0132	γ-GT	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	JSCC 標準化対応法	U/L M 7 ~ 74 F 7 ~ 32	11 生I	1 5 2	
0133	コリンエステラーゼ <ChE>	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	JSCC 標準化対応法	U/L 213 ~ 501	11 生I	1 5 2	
0134	CK <CPK>	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	JSCC 標準化対応法	U/L M 57 ~ 284 F 45 ~ 176	11 生I	1 5 2	
2266	アルドラーゼ <ALD>	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (3~4日)	UV法	IU/L 2.7 ~ 5.9	11 生I	2 5 3	溶血血清は高値を示す場合があります。
0241	アミラーゼ <S-AMY>	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	エチリデン-G7- PNP基質法 JSCC (IFCC) 標準化対応法	U/L 37 ~ 125	11 生I	1 5 2	
0242	(尿)アミラーゼ <U-AMY>	尿 10	25	冷蔵 (3日)	エチリデン-G7- PNP基質法 JSCC (IFCC) 標準化対応法	U/L 47 ~ 458	11 生I	1 5 2	
2180	グアナーゼ	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	酵素法	IU/L 0.4 ~ 0.8	35 生I	3 5 6	
2181	アデノシンデアミナーゼ <ADA>	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (1週)	酵素法	U/L 8.6 ~ 20.5	32 生I	2 5 3	
0766	(穿刺液)ADA	穿刺液 2	25	冷蔵 (1週)	酵素比色法	U/L	32 生I	1 5 2	
2291	リゾチーム <ムラミダーゼ>	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (4週)	比濁法	μg/mL 4.2 ~ 11.5	—	3 5 6	
2296		尿 1				μg/mL 1.0 未満 (検出限界値)			
1371	トリプシン	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (3週)	EIA 法	ng/mL 100 ~ 550	189 生I	3 5 5	
2305	腓ホスホリパーゼA2 <腓PLA2>	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (12週)	RIA 法 (ビーズ固相法)	ng/dL 130 ~ 400	204 生I	2 5 5	
2218	ペプシノゲン <PG>	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	12頁参照	—	2 5 3	
0189	尿中NAG <N-アセチルグルコサミニダーゼ>	尿 10	25	冷蔵	MPT 基質法	IU/L 0.3 ~ 11.5	41 尿便	1 5 2	当日提出の検体以外はpHが8.0 以上または4.0以下の場合失活し ます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
5568	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	ng/mL M 36.9 ~ 121 F 17.3 ~ 59.7	116 免疫 ②②	2 5 3	分離剤入り真空採血管・凝固促進剤 入り採血管を使用する際、採血管規 定量より採血量が少ない場合は測 定値が低下する可能性があります。
2098	LDHアイソザイム	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4日)	アガロースゲル 電気泳動法	13頁参照	48 生I	2 5 3	全血では常温保存が望まれま す。長期保存の場合は-45℃以 下の保存が理想的です。
2104	ALPアイソザイム	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (1週)	アガロースゲル 電気泳動法	13頁参照	48 生I	2 5 3	
2254	CKアイソザイム	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (1週)	アガロースゲル 電気泳動法	13頁参照	55 生I	2 5 3	
0135	CK-MB(%)	血液 2 血清 0.5	01	凍結 (1日)	免疫阻害法	6 未満	55 生I	1 5 2	
2267	CK-MB定量	血液 2 血清 0.4	01	凍結	CLIA 法	2.2 以下	90 生I	2 5 3	
0239	P型アミラーゼ	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	阻害抗体法	16 ~ 52	48 生I ③	1 5 2	
0240	(尿)P型アミラーゼ	尿 10	25	冷蔵 (10日)	阻害抗体法	32 ~ 325	48 生I ③	1 5 2	
2117	m-AST (ミトコンドリア-GOT)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (3日)	プロテアーゼ法	7 以下	49 生I	2 5 3	
0183	クレアチニン (CRE)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	酵素法	mg/dL M 0.50 ~ 1.00 F 0.40 ~ 0.80	11 生I	1 5 2	
0389	(蓄尿)クレアチニン (尿中CRE)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	酵素法	g/day 0.50 ~ 1.50	11 生I	1 5 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0180	シスタチンC	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/L M 0.61 ~ 1.00 F 0.51 ~ 0.82	121 生I ④	1 5 2	
0181	尿酸 (UA)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	ウリカーゼ・ POD法	mg/dL M 3.8 ~ 7.0 F 2.6 ~ 7.0	11 生I	1 5 2	
0387	(蓄尿)尿酸 (尿中UA)	尿 10	25	冷蔵 (3日)	ウリカーゼ・ POD法	g/day 0.40 ~ 1.20	11 生I	1 5 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。

① : 「リウマトイド因子定量」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目の算定ができます。

② : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定ができます。

③ : 実施料は、「アミラーゼアイソザイム」としての算定となります。

④ : 「尿素窒素(BUN)」または「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0182	尿素窒素 (BUN)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	ウレアーゼGLD H法(アンモニア 消去法)	mg/dL 8.0 ~ 20.0	11 生I	1 2	
0388	(蓄尿)尿素窒素 (尿中BUN)	尿 10	25	冷蔵 (3日)	ウレアーゼGLD H法(アンモニア 消去法)	g/day 7.00 ~ 14.00	11 生I	1 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0139	アンモニア (NH3)	血液 1 上清 3	05	凍結	藤井・奥田法変法	μ g/dL 30 ~ 86	50 生I	1 2	採血後直ちに正確に1.0mlの血液を専用容器に加え、十分に混和した後、遠心分離後の上清3.0mlを凍結しご提出下さい。
1973	アミノ酸分画	血液 2 ペパリン血漿 0.5	10 02	凍結 (2週)	HPLC 法	14頁参照	1212 生II	4 5	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結して下さい。 14頁参照
1982		尿 0.5 (早朝2番尿)	25	凍結 (2週)	HPLC 法	14頁参照	1212 生II		早朝2番尿を直ちに凍結して下さい。 (トルエン、塩酸などの防腐剤は加えないで下さい)。 14頁参照
1983	アミノ酸11分画	血液 2 ペパリン血漿 0.5	10 02	凍結 (2週)	HPLC 法	14頁参照	1212 生II	3 4	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結して下さい。 14頁参照
1990	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	血液 2 血清 0.5	01	凍結	酵素法	μ mol/L B T R 4.41 ~ 10.05 B C A A 344 ~ 713 チロシン 51 ~ 98	288 生II	2 3	溶血検体は不適です。
0261	グルコース (血糖)	血液 2 NaF加血液	04	冷蔵 (2週)	ヘキシキナーゼ法	mg/dL 70 ~ 110	11 生I	1 2	
0649	グリコアルブミン (GA)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	酵素法	% 11.0 ~ 16.0	55 生I 102	1 2	
0686	HbA1C(NGSP)	血液 2 NaF加血液	04	冷蔵 (1週)	酵素法	% 4.6 ~ 6.2	49 血液 102	1 2	凍結不可
1382	1, 5AG (1,5-アンヒドログルシトール)	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	酵素法	μ g/mL 14.0 以上	80 生I 102	2 3	
2361	ヒアルロン酸	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	ng/mL 50.0 以下	184 生I 304	2 3	肝硬変の判定基準 130ng/mL以上 (50~130ng/mLの場合、肝の繊維化が疑われます)
1965	KL-6	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	U/mL 500 未満	117 生I 5	2 3	
2339	乳酸	血液 1 除蛋白上清 0.5	06	凍結 (4週)	酵素法	mg/dL 3.7 ~ 16.3 (空腹安静時)	47 生I 6	2 3	必ず指定容器使用 専用容器(0.8N過塩素酸入り)は 予めご依頼下さい。 脚注参照 *1
2340	ピルビン酸	血液 1 除蛋白上清 0.5	06	凍結 (4週)	酵素法	mg/dL 0.30 ~ 0.90 (空腹安静時)	47 生I 6	2 3	必ず指定容器使用 専用容器(0.8N過塩素酸入り)は 予めご依頼下さい。 脚注参照 *1

*1 : 0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、十分攪拌し3,000rpm、5分間遠心後、その上清液をご提出下さい。

- ① : 「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」、「グリコアルブミン」および「1, 5-アンヒドログルシトール(1, 5AG)」は、同一月内に1回に限り主たる項目のみ算定できます。
- ② : 妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。
- ③ : 慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察および肝生検の適応の確認を行う場合に算定できます。
- ④ : 「ATX」、「M2BPGi」、「P-Ⅲ-P」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑤ : 「KL-6」、「SP-A」および「SP-D」のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑥ : 「乳酸」および「ピルビン酸」の測定を行った場合、それぞれの測定ごとに実施料が算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2331	ケトン体分画〈静脈血〉	血液 1 血清 0.3	01	-70℃以下 凍結 (4週)	酵素法	12頁参照	59 生I ①	2 5 3	早朝空腹時採血(静脈)。採血後速やかに血清分離し凍結してください。総ケトン体にアセトンは含まれません。 食事1時間後またはブドウ糖投与後(血中グルコース 120-200 mg/dL)採血。採血後速やかに血清分離し凍結して下さい。
2349	ケトン体分画〈動脈血〉	血液 1 血清 0.3				アセト酢酸/ 3-ハイドロキシ酪酸比 0.7以上			
0228	中性脂肪 〈TG〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4日)	酵素法 (グリセロール消 去法)	30 ~ 149	11 生I	1 5 2	女性では、加齢と共に増加傾向が認められます。
0226	総コレステロール 〈T-Cho〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	酵素法	130 ~ 220	17 生I ②	1 5 2	女性では、加齢と共に増加傾向が認められます。
0225	HDLコレステロール 〈HDL-Cho〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	直接法	40 ~ 99	17 生I ②	1 5 2	
0233	LDLコレステロール 〈LDL-Cho〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	直接法	70 ~ 139	18 生I ②	1 5 2	
0224	LDLコレステロール 計算	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵	計算値	70 ~ 139	—	1 5 2	計算値 (LDL-C) = (T-CHO) - (HDL-C) - (TG/5)
0230	リン脂質 〈PL〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	コリンオキシダー ゼ.DAOS法	150 ~ 250	15 生I	1 5 2	
0143	総胆汁酸 〈TBA〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	酵素サイクリン グ法	10 以下	47 生I	1 5 2	
2491	グリココール酸 〈CG〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (12週)	RIA 法 (PEG 法)	50 以下	80 生I	4 5 5	
2452	全脂質脂肪酸分画	血液 3 血清 0.8	01 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS	13頁参照	429 生II	14 5 21	血清の場合、分離剤入り容器で採血しますが遠心後に分注をお願いします。 血漿も検査可。
0229	βリポ蛋白 〈β-LP〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	ヘパリンを用いた 比濁法	173 ~ 582	—	1 5 2	
2470	リポ蛋白分画 *1	血液 1 血清 0.3	01	凍結不可 冷蔵 (4日)	アガロースゲル 電気泳動法	12頁参照	49 生I	2 5 3	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守して下さい。
2480	リポ蛋白分画(PAGE) 〈リポ蛋白分画精密測定〉 *1	血液 2 血清 0.5	01	凍結不可 冷蔵	ポリアクリル アミドゲル・ ディスク 電気泳動法	12頁参照	80 生I	5 5 8	血清・血漿以外は検査不可。
0245	リパーゼ	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	カラー法	16 ~ 56	24 生I	1 5 2	

*1 : カイロミクロンは測定できません。

① : 「ケトン体」、「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、「ケトン体分画」の実施料のみ算定できます。

② : 「HDL-コレステロール」、「総コレステロール」、「LDL-コレステロール」を併せて実施した場合は、主たる2項目の実施料が算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2478	リポ蛋白(a) 〈Lp(a)〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	LA 法 (ラテックス 凝集比濁法)	mg/dL 30.0 以下	107 生I ①	2 5 3	EDTA血漿も検査可
2477	レムナント様 リポ蛋白コレステロール 〈RLP-C〉	血液 2 血清 0.4	01	凍結不可 冷蔵 (5日)	酵素法	mg/dL 7.5 以下	189 生I ①	2 5 3	脚注参照 * 1
2432	アポリポ蛋白	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2～3日)	TIA法	mg/dL M 119 ～ 155 F 126 ～ 165	※ 生I ②	2 5 3	
2433						mg/dL M 25.9 ～ 35.7 F 24.6 ～ 33.3			
2434						mg/dL M 73 ～ 109 F 66 ～ 101			
2435						mg/dL M 1.8 ～ 4.6 F 1.5 ～ 3.8			
2436						mg/dL M 5.8 ～ 10.0 F 5.4 ～ 9.0			
2437						mg/dL M 2.7 ～ 4.3 F 2.8 ～ 4.6			

* 1 : 基準値は、健常者における“平均値+1.96SD”に相当します。ただし、糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴のある場合は、“5.2mg/dL以上”をハイリスク域とします。

① : 3月に1回を限度として算定できます。

② : ※「AⅠ」、「AⅡ」、「B」、「CⅡ」、「CⅢ」、「E」のうち1項目の測定で31点、2項目の測定で62点、3項目以上測定した場合に94点の実施料の算定ができます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2535	β-カロチン	血液 2 血清 0.6	01 ↓ 65	遮光 凍結 (10日)	HPLC 法	μg/dL M 6.6 ~ 47.6 F 20.4 ~ 105.2	—	7 ↓ 13	採血後、できるだけ速やかに遠心分離して下さい。
2520	ビタミンA	血液 1 血清 0.3	01 ↓ 65	遮光 凍結 (16週)	HPLC 法	ng/mL 431 ~ 1,041	—	3 ↓ 6	
2514	ビタミンB1 (サイアミン)	血液 1 EDTA加血液	84	遮光 凍結 (20日)	LC-MS/MS	μg/dL 2.6 ~ 5.8	253 生I	3 ↓ 4	ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。
2521	ビタミンB2 (リボフラビン)	血液 1 EDTA加血液	84	遮光 凍結 (20日)	HPLC 法	μg/dL 12.8 ~ 27.6	256 生I	3 ↓ 4	ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。
2511	ビタミンB12 (シアノコバラミン)	血液 2 血清 0.4	01	凍結 (12週)	CLIA 法	pg/mL 233 ~ 914	148 生I	2 ↓ 3	
2512	葉酸	血液 2 血清 0.5	01	凍結 (12週)	CLIA 法	ng/mL 3.6 ~ 12.9	158 生I	2 ↓ 3	溶血検体では、測定値が上昇する場合があります。
2522	ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 除蛋白上清 0.5	58	-70℃以下 遮光 凍結 (4週)	HPLC 法	μg/mL 5.5 ~ 16.8	314 生I	5 ↓ 7	必ず指定容器使用 検体処理方法にご注意下さい。 脚注参照 * 1
2516	25-OHビタミンD (Total)	血液 2 血清 0.5	01	凍結 (8週)	CLIA 法	ng/mL *2	400 生I ①	2 ↓ 8	
2517	1α, 25-(OH)2ビタミンD	血液 3 血清 1	01	凍結	RIA法 (二抗体法)	pg/mL 20 ~ 60	388 生I ②③	3 ↓ 6	
2523	ビタミンE (トコフェロール)	血液 2 血清 0.5	01 ↓ 65	遮光 凍結	蛍光法	mg/dL 0.75 ~ 1.41	—	5 ↓ 10	
2515	レチノール結合蛋白 (RBP)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	mg/dL M 2.7 ~ 6.0 F 1.9 ~ 4.6	136 免疫	2 ↓ 3	
0201	ナトリウム (Na)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	mEq/L 136 ~ 148	11 生I	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
0381	(蓄尿)ナトリウム (尿中Na)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	g/day 1.60 ~ 5.80	11 生I	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0202	クロール (Cl)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	mEq/L 98 ~ 108	—	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
0382	(蓄尿)クロール (尿中Cl)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	g/day 2.50 ~ 8.90	—	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。

* 1 : 正確に血清0.5mLを専用容器に加え、混和後、遠心分離し、その上清を遮光容器に移し、直ちに凍結して下さい。

* 2 : 日本小児内分科学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準(血清25OHD低値)として下記が記載されています。

・20 ng/mL 以下

・15 ng/mL 以下 であればより確実

① : ビタミンD欠乏性くる病もしくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時には1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できます。

② : 慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型もしくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時、またはそれらの疾患に対する活性型ビタミンD₃剤による治療中に測定した場合にのみ算定できます。

③ : ビタミンD₃剤による治療開始後1月以内は2回、その後は3月に1回を限度として算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0203	カリウム 〈K〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	mEq/L 3.6 ~ 5.0	11 生I	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0383	(蓄尿)カリウム 〈尿中K〉	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	g/day 1.00 ~ 3.90	11 生I	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0204	カルシウム 〈Ca〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	アルセナゾⅢ法	mg/dL 8.6 ~ 10.4	11 生I	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0384	(蓄尿)カルシウム 〈尿中Ca〉	尿 10	25	冷蔵 (1週)	アルセナゾⅢ法	g/day 0.10 ~ 0.30	11 生I	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0206	マグネシウム 〈Mg〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	キシリジル ブルー法	mg/dL 1.8 ~ 2.7	11 生I	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0386	(蓄尿)マグネシウム 〈尿中Mg〉	尿 10	25	冷蔵 (1週)	キシリジル ブルー法	g/day 0.02 ~ 0.13	11 生I	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0205	無機リン 〈P〉	血液 2	01	冷蔵 (1週)	モリブデン酸 直接法	mg/dL 2.6 ~ 4.4	17 生I	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
0385	(蓄尿)無機リン 〈尿中P〉	尿 10	25	冷蔵 (1週)	モリブデン酸 直接法	g/day 0.50 ~ 1.00	17 生I	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0207	鉄 〈Fe〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	パソフェナントロリ ン直接法	μg/dL M 60 ~ 200 F 50 ~ 160	11 生I	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0208	UIBC 〈不飽和鉄結合能〉	血液 2	01	冷蔵 (12週)	パソフェナントロリ ン直接法	μg/dL M 119 ~ 285 F 143 ~ 313	11 生I	1 ↓ 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0209	TIBC [計算値] 〈総鉄結合能〉	血液 2	01	冷蔵	計算値	μg/dL M 236 ~ 381 F 250 ~ 383	—	1 ↓ 2	計算値(TIBC) = (Fe) + (UIBC)
		血清 0.5							
2064	銅 〈Cu〉	血液 2	01	冷蔵	比色法	μg/dL 70 ~ 132	23 生I	2 ↓ 3	
		血清 0.4							
2072	(尿)銅	尿 5	59	冷蔵 (4週)	原子吸光法	μg/L 18 以下	23 生I	3 ↓ 6	必ず指定容器使用
2543	カルニチン分画	血液 2	01	冷蔵	酵素 サイクリング法	μmol/L 総カルニチン 45~91 遊離カルニチン 36~74 アシルカルニチン 6~23	95 + 95 生I 10000	2 ↓ 3	
		血清 0.5							

- ① : 関係学会の定める診療に関する指針を遵守する必要があります。
- ② : 先天性代謝異常症の診断補助または経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定できます。
- ③ : 静脈栄養管理もしくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症もしくは小児の患者、人工乳もしくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、パルブロンナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者または慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助もしくは経過観察のために実施する場合は、6月に1回を限度として算定できます。
- ④ : 同一検体について本検査と「先天性代謝異常症検査」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2067	亜鉛 (Zn)	〈血清〉	血液 2 血清 0.5	68 * 1 (18日)	冷蔵 (18日)	原子吸光法	μg/dL 80 ~ 130 * 2	144 生I 3	2 5 3 必ず指定容器使用 脚注参照 * 3
2068		〈尿〉	尿 5						
2791	アルミニウム (Al)	〈血液〉	血液 2	68 * 1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	μg/dL 0.9 以下	118 生I 5	4 5 必ず指定容器使用
		〈血清〉	血清 0.5						
2788	マンガン (Mn)	〈血液〉	血液 0.5 ヘパリン加血液	10 68 * 1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	μg/dL 0.4 ~ 2.0 0.7 以下 2.0 未満	27 生I ① 27 生I ①	6 5 11 必ず指定容器使用
2789		〈血清〉	血液 2 血清 0.5						
2790		〈尿〉	尿 0.5						
2779	ニッケル (Ni)	〈血液〉	血液 2	68 * 1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	μg/dL 0.6 以下	—	6 5 11 必ず指定容器使用
		〈血清〉	血清 0.5						
2748	鉛 (Pb)		血液 1 ヘパリン加血液	10 (4週)	冷蔵 (4週)	原子吸光法	μg/dL 1.0 以下 * 4	—	4 5 5
2785	クロム (Cr)	〈血液〉	血液 0.5 ヘパリン加血液	10 68 * 1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	μg/dL μg/dL μg/L	—	6 5 12 必ず指定容器使用
2786		〈血清〉	血液 2 血清 0.5						
2787		〈尿〉	尿 1						
2781	カドミウム (Cd)	〈血液〉	血液 0.5 ヘパリン加血液	10 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	μg/dL 1 以下 μg/L 3.8 以下	—	6 5 11 必ず指定容器使用
2782		〈尿〉	尿 1						
2783	水銀 (Hg)	〈血液〉	血液 0.5 ヘパリン加血液	10 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	μg/dL 5 以下 μg/L 25 以下	—	5 10 必ず指定容器使用
2784		〈尿〉	尿 1						

* 1 : 68番容器に採血して遠心分離後、別の容器に分注せず、68番容器のままご提出下さい。

* 2 : 基準値は日本臨床栄養学会「亜鉛欠乏症の診療指針2018」亜鉛欠乏症診断基準に則った値です。

* 3 : 基準値は朝食前の採血により得られたデータです。食物の摂取により血中濃度が低下しますので、朝食前の午前中に採血して下さい。

* 4 : 産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は、12頁を参照して下さい。

① : 1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については、2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2189	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿 1	66	遮光 冷蔵 (4週)	HPLC 法	mg/L 2.2 以下 (参考値) * 1	112 尿便	4 5	
2585	尿中ポルフィビリノーゲン	蓄尿 3	66	遮光 冷蔵 (10日)	比色法 (Mauzerall- Granick法)	mg/day 2.0 以下	191 尿便	5 8	
2587	尿中ウロポルフィリン	蓄尿 または 部分尿 3	66	遮光 冷蔵 (2週)	HPLC 法	μg/g・Cr 36 以下	108 尿便	5 11	
2589	尿中コプロポルフィリン	蓄尿 または 部分尿 3	66	遮光 冷蔵 (1週)	HPLC 法	μg/g・Cr 170 以下	139 尿便	5 11	
2588	コプロポルフィリン定量 (血液)	血液 1.5	64	凍結不可 遮光 冷蔵	HPLC 法	μg/dL RBC 1 以下	210 生I	5 10	
2731	エタノール	血液 1	10	凍結 (12日)	GC 法	mg/mL 0.1 未満	113 生I	6 7	検出限界未満を基準値としま す。ガラス管の場合は、プラス チック容器に移してから凍結して 下さい。 脚注参照 * 2
2031	浸透圧	〈血清〉 血液 3	01	冷蔵 (4週)	氷点降下法	mOsm/kg・H ₂ O 275 ~ 290	15 血液	2 3	
2032		血清 1							
		〈尿〉 尿 1	25	冷蔵 (4週)	氷点降下法	mOsm/kg・H ₂ O 50 ~ 1,300	16 尿便	2 3	
0140	ICG停滞率 (肝機能テスト)	血液 各 5	01	遮光 冷蔵	比色法	% 10 以下	100	1 2	投与後の検体は遮光してご提出 下さい。
0141	ICG消失率 (肝機能テスト)	血液 各 5	01	遮光 冷蔵	比色法	0.168 ~ 0.206	150	1 2	採取方法は15頁参照
0186	24時間クレアチニン クリアランス	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	mL/min 67 ~ 214	—	1 2	血清・尿を必ずペアでご提出下さ い。 年齢・身長・体重・尿量・採尿時 間を必ず明記して下さい。
0185	クレアチニンクリアランス	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	mL/min 82 ~ 183	—	1 2	採取方法は15頁参照
2654	結石鑑別	結石 10mg	23	常温	IR 法 (KBr Wafer法)	% 組成比率	120 生II	5 8	脚注参照 * 3,4,5,6

* 1 : 産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は、12頁を参照して下さい。

* 2 : 採血に当たってエタノール消毒を行う場合、血液中への混入がないようご注意下さい。(エタノール乾燥後に採血、あるいは他の消毒薬を使用)

* 3 : 専用容器は必ず密栓し(シャーレの代用不可)、摘出臓器および結石の種別(胆石、尿路結石などの別)を必ず明示して下さい。

* 4 : 試料は乾燥させた上で、所定の専用容器にてご提出下さい。血液等の付着した試料については蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出下さい。液状成分を含む試料は、分析対象として不適当です。

* 5 : 試料はガーゼやティッシュペーパー等で包まず、結石の外観を目視可能な状態でご提出下さい。

* 6 : 多数検体の場合は、予めご連絡下さい。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2740	馬尿酸 〈HA〉	尿 1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	g/L	—	4 5 9 *1	12頁および脚注参照 * 2
2741	メチル馬尿酸 〈MHA〉	尿 1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	g/L	—	4 5 9 *1	12頁および脚注参照 * 2
2742	マンデル酸ST	尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	g/L	—	4 5 9 *1	12頁および脚注参照 * 2
2730	マンデル酸EB	尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS 法	g/L	—	4 5 9 *1	12頁および脚注参照 * 2
2743 2754 2793	総三塩化物 〈TTC〉	尿 1	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 5	12頁および脚注参照 * 3
2744 2751 2796	トリクロル酢酸 〈TCA〉	尿 1	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 5	12頁および脚注参照 * 3
2746	N-メチルホルムアミド	尿 2	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 9 *1	12頁および脚注参照 * 2
2747	2, 5-ヘキサンジオン 〈2, 5-HD〉	尿 3	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5 9 *1	12頁および脚注参照 * 2
0107	尿中硫酸抱合型胆汁酸 〈USBA〉	尿 10	25	冷蔵 (1週)	酵素法	μ mol/L	5.0 以下	57 生i	クレアチニン補正基準値は 55 μ mol/gcr
0399	血液ガス分析	血液	専用	氷冷 冷蔵	電極法	13頁参照		1 5 2	当該保険医療機関内で実施した 場合のみ算定可能。

【ご注意】「産業衛生関連検査」を複数項目ご依頼になる場合は、25番容器で尿6mlをご提出下さい。

* 1 : 繁忙期(4～6月、10～12月)の数日を除いて概ね4～5日で報告致します。

* 2 : [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

* 3 : [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の5日目以降(週末)。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

●「特殊健診項目」名称および分布区分

項目コード	対象物質名	検査項目名	単位	分 布		
				1	2	3
2748	鉛	鉛	μg/dL	≤ 20	20 < , ≤ 40	40 <
2189		δ-アミノレブリン酸	mg/L	≤ 5	5 < , ≤ 10	10 <
2603		赤血球プロトポルフィリン	μg/dL全血	≤ 40	40 < , ≤ 100	100 <
2740	トルエン	馬尿酸	g/L	≤ 1	1 < , ≤ 2.5	2.5 <
2741	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	≤ 0.5	0.5 < , ≤ 1.5	1.5 <
2742	スチレン	マンデル酸ST	g/L	≤ 0.3	0.3 < , ≤ 1	1 <
2730	エチルベンゼン	マンデル酸EB	g/L	-	-	-
2746	N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	≤ 10	10 < , ≤ 40	40 <
2747	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサジオン	mg/L	≤ 2	2 < , ≤ 5	5 <
2743	1,1,1-トリクロロエタン	TTC111-トリクロロエタン(総三塩化物)	mg/L	≤ 10	10 < , ≤ 40	40 <
2744		TCA111-トリクロロエタン(トリカル酢酸)	mg/L	≤ 3	3 < , ≤ 10	10 <
2754	トリクロロエチレン	TTCトリクロロエチレン(総三塩化物)	mg/L	≤ 100	100 < , ≤ 300	300 <
2751		TCAトリクロロエチレン(トリカル酢酸)	mg/L	≤ 30	30 < , ≤ 100	100 <
2793	テトラクロロエチレン	TTCテトラクロロエチレン(総三塩化物)	mg/L	≤ 3	3 < , ≤ 10	10 <
2796		TCAテトラクロロエチレン(トリカル酢酸)	mg/L	≤ 3	3 < , ≤ 10	10 <

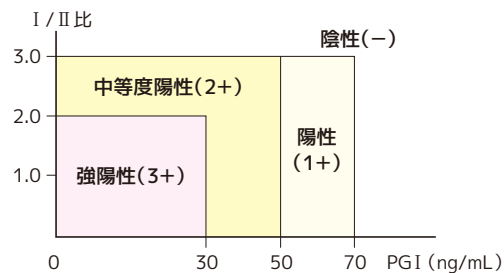
出典：鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)

有機溶剤など健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)

※2014年11月よりスチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンにつきましては、有機溶剤中毒予防規則(有機則)から特定化学物質障害予防規則(特化則)の対象物質に位置づけられました。

●ペプシノゲン(PG)による胃粘膜萎縮度の判定基準

判 定		測定値	
		PGI (ng/mL)	I / II 比
強陽性	3+	30 以下	かつ 2.0 以下
中等度陽性	2+	50 以下	かつ 3.0 以下
陽性	1+	70 以下	かつ 3.0 以下
陰性	—	上記条件以外	



●「リポ蛋白分画」基準値

	男性(%)	女性(%)
α 分画	26.9 ~ 50.5	32.6 ~ 52.5
pre β 分画	7.9 ~ 23.8	6.6 ~ 20.8
β 分画	35.3 ~ 55.5	33.6 ~ 52.0

●「リポ蛋白分画(PAGE)」基準値

分画成分名	男性(%)	女性(%)
HDL (高比重リポ蛋白)	22 ~ 50	26 ~ 53
LDL (低比重リポ蛋白)	44 ~ 69	42 ~ 65
VLDL (超低比重リポ蛋白)	5 ~ 20	4 ~ 17

●「ケトン体分画(静脈血)」基準値

分画成分名	(μmol/L)
総ケトン体	26 ~ 122
アセト酢酸	13 ~ 69
3-ハイドロキシ酪酸	76 以下

●「蛋白分画」基準値

分画成分名	百分率(%)
アルブミン ALB	58.2 ~ 72.4
α1-グロブリン α1-GLB	1.7 ~ 3.0
α2-グロブリン α2-GLB	5.3 ~ 9.5
β-グロブリン β-GLB	7.5 ~ 12.0
γ-グロブリン γ-GLB	10.2 ~ 22.9

●「アイソザイム」基準値/濃度換算活性値(参考基準値)

項 目	分画成分	基準値(%)	濃度換算活性値(U/L)
LDHアイソザイム	LDH1	17.3 ~ 30.3	28 ~ 53
	LDH2	30.0 ~ 39.7	42 ~ 72
	LDH3	19.0 ~ 25.6	24 ~ 46
	LDH4	6.2 ~ 12.3	8 ~ 24
	LDH5	4.9 ~ 13.9	7 ~ 24
ALPアイソザイム	ALP1	0.0 ~ 2.0	0 ~ 4
	ALP2	26.3 ~ 65.0	42 ~ 148
	ALP3	34.6 ~ 62.4	43 ~ 151
	ALP4	—	—
	ALP5	0.0 ~ 18.4	0 ~ 79
	ALP6	—	—
CKアイソザイム	CK-MM	96 ~ 100	45 ~ 240
	CK-MB	0 ~ 3	0 ~ 4
	CK-BB	0 ~ 2	0 ~ 2

●「血液ガス分析」基準値

項 目	基準値	単 位
PH	7.38 ~ 7.46	
PCO2	32 ~ 46	mmHg
PO2	74 ~ 108	mmHg
BE	-2 ~ 2	mmol/L
tCO2	22.0 ~ 30.0	mmol/L
HCO3	21.0 ~ 29.0	mmol/L
SO2	92 ~ 96	%
tHB		g/dL
大気圧		mmHg

●「全脂質脂肪酸分画」基準値

分画成分名	略 号	濃度(μg/mL)	成分比(weight%)
ラウリン酸	C12:0	4.2 以下	0.16 以下
ミリスチン酸	C14:0	8.2 ~ 40	0.33 ~ 1.17
ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.4 以下	0.10 以下
パルミチン酸	C16:0	451 ~ 898	18.38 ~ 22.80
パルミトレイン酸	C16:1ω7	25 ~ 112	0.90 ~ 3.05
ステアリン酸	C18:0	164 ~ 306	6.30 ~ 9.10
オレイン酸	C18:1ω9	432 ~ 1069	17.53 ~ 26.82
リノール酸	C18:2ω6	697 ~ 1280	25.30 ~ 37.02
γ-リノレン酸	C18:3ω6	3.6 ~ 22	0.14 ~ 0.71
リノレン酸	C18:3ω3	10 ~ 41	0.31 ~ 1.06
アラキジン酸	C20:0	1.2 ~ 2.7	0.07 以下
エイコセン酸	C20:1ω9	3.2 ~ 8.2	0.12 ~ 0.23
エイコサジエン酸	C20:2ω6	3.6 ~ 10	0.17 ~ 0.29
5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	1.2 ~ 5.4	0.17 以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	23 ~ 72	0.92 ~ 2.24
アラキドン酸	C20:4ω6	142 ~ 307	4.86 ~ 9.42
エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	12 ~ 112	0.36 ~ 3.42
ベヘニン酸	C22:0	1.3 ~ 2.6	0.08 以下
エルシン酸	C22:1ω9	1.4 以下	0.04 以下
ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9 ~ 7.6	0.11 ~ 0.23
ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	26 ~ 60	0.98 ~ 1.79
リグノセリン酸	C24:0	1.6 ~ 2.9	0.09 以下
ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	51 ~ 185	1.69 ~ 5.55
ネルボン酸	C24:1ω9	2.1 ~ 4.0	0.13 以下
T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02 以下*	
EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)		0.06 ~ 0.44*	

*: 単位なし

●「アミノ酸およびアミノ酸化合物」基準値

成分名		略号	血漿(nmol/mL)	尿(μmol/L)
アミノ酸分画	タウリン	Tau	35.2 ~ 70.0	132.8 ~ 2045
	ホスフォエタノールアミン	PEA	ND	5.9 ~ 76.6
	アスパラギン酸	Asp	< 3.2	< 18.8
	ハイドロキシプロリン	Hyp	5.4 ~ 18.2	< 11.7
	トレオニン	Thr	89.2 ~ 205.0	29.5 ~ 455.8
	セリン	Ser	91.5 ~ 161.8	74.0 ~ 817.2
	アスパラギン	Asn	40.8 ~ 76.5	24.2 ~ 316.9
	グルタミン酸	Glu	10.8 ~ 44.4	5.1 ~ 84.6
	グルタミン	Gln	488.2 ~ 733.1	93.7 ~ 1184
	サルコシン	Sarco	ND	ND
	α-アミノアジピン酸	α-AAA	ND	10.1 ~ 72.4
	プロリン	Pro	89.6 ~ 258.8	< 11.5
	グリシン	Gly	153.2 ~ 362.1	263.3 ~ 3386
	アラニン	Ala	239.9 ~ 510.2	47.8 ~ 803.5
	シトルリン	Cit	20.4 ~ 44.8	< 21.7
	α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.0 ~ 25.7	2.2 ~ 27.9
	バリン	Val	158.4 ~ 287.7	8.0 ~ 78.9
	シスチン	Cys Cys	36.5 ~ 56.0	8.6 ~ 124.7
	メチオニン	Met	19.2 ~ 32.7	2.6 ~ 37.8
	シスタチオニン	Cystthio	ND	3.4 ~ 50.1
	イソロイシン	Ile	41.3 ~ 84.9	3.0 ~ 28.8
	ロイシン	Leu	80.9 ~ 154.3	6.0 ~ 61.8
	チロシン	Tyr	50.2 ~ 82.6	21.5 ~ 255.1
	β-アラニン	β-Ala	< 7.7	< 56.9
	フェニルアラニン	Phe	45.7 ~ 76.5	11.8 ~ 104.5
	β-アミノイソ酪酸	BAIBA	< 3.7	18.4 ~ 1695
	ホモシスチン	Homocys	ND	ND
	γ-アミノ酪酸	GABA	ND	ND
	モノエタノールアミン	MEA	6.0 ~ 10.7	100.1 ~ 937.9
	ハイドロキシリジン	Hyl	ND	< 11.6
	オルニチン	Orn	43.2 ~ 95.7	3.6 ~ 29.0
	1-メチルヒスチジン	1-Me-His	< 12.8	24.8 ~ 1575
	ヒスチジン	His	67.9 ~ 97.1	200.6 ~ 2367
	リジン	Lys	118.7 ~ 257.0	23.6 ~ 535.2
	3-メチルヒスチジン	3-Me-His	2.9 ~ 6.8	81.4 ~ 607.3
	トリプトファン	Trp	41.4 ~ 65.5	16.9 ~ 146.8
	アンセリン	Ans	ND	< 62.3
	カルノシン	Carno	< 6.3	2.1 ~ 33.0
	アルギニン	Arg	46.0 ~ 121.7	3.4 ~ 47.8
	アロイソロイシン	allo-Ile	ND	ND
	フィッシャー比*1		2.31 ~ 4.29*2	—

成分名		略号	血漿(nmol/mL)	血液濾紙(nmol/mL)
アミノ酸11分画	バリン	Val	158.4 ~ 287.7	90.5 ~ 200.1
	メチオニン	Met	19.2 ~ 32.7	19.8 ~ 33.6
	イソロイシン	Ile	41.3 ~ 84.9	26.7 ~ 60.9
	ロイシン	Leu	80.9 ~ 154.3	56.1 ~ 108.1
	チロシン	Tyr	50.2 ~ 82.6	55.3 ~ 93.5
	フェニルアラニン	Phe	45.7 ~ 76.5	51.9 ~ 96.9
	オルニチン	Orn	43.2 ~ 95.7	55.6 ~ 120.8
	ヒスチジン	His	67.9 ~ 97.1	67.9 ~ 107.5
	リジン	Lys	118.7 ~ 257.0	88.5 ~ 240.3
	トリプトファン	Trp	41.4 ~ 65.5	11.3 ~ 28.3
	アルギニン	Arg	46.0 ~ 121.7	11.6 ~ 31.4
	フィッシャー比*1		2.31 ~ 4.29*2	1.21 ~ 2.71*2

*1: フィッシャー比 = $\frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$

*2: 単位なし

ND 不検出

< 血漿 > 血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸(Asp, Glu, Ala, Lys)が増加をきたします。
溶血血漿では Asp, Glu が著しい高値を、Cys Cys, Trp が低値を示します。

< 尿 > 蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝2番尿による測定をお勧め致します。

クレアチニン・クリアランスの検体採取方法

60法, 120分法

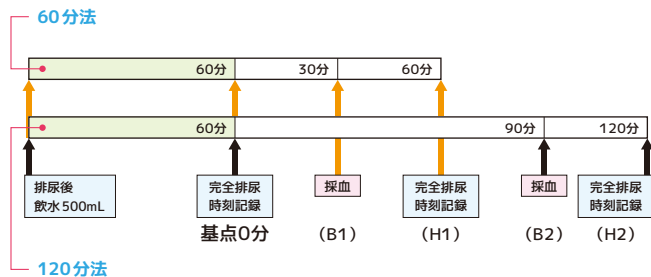
- 1) 排尿後、微温水500mLを飲ませてください。
- 2) 飲水後、約60分後に排尿させ、完全に排尿し終わった時の時刻を正確に(1分以内の誤差で)記録してください。

60分法の場合

- 3) 開始30分後に2mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B1)
- 4) 開始約1時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録してください。(H1)

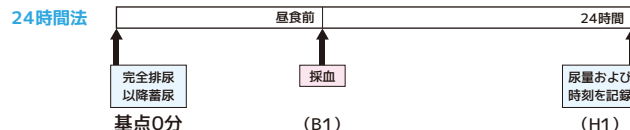
120分法の場合

- 3) 開始90分後に2mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B2)
- 4) 開始約2時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録してください。(H2)
- 5) 以上のようにして得た血清および尿を冷蔵保存し、所定量を提出してください。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記してください。



24時間法

- 1) 一定時刻に完全排尿させ、以後の尿を翌日の同時刻まで冷所に蓄尿してください。
- 2) 昼食前に2mL採血し溶血を避けて血清分離してください。(B1)
- 3) 蓄尿終了時に正確に尿量を記録してください。(H1)
- 4) 以上のようにして得た血清および尿を冷蔵保存し、所定量を提出してください。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記してください。



ICGの検体採取方法

早朝空腹時に採血(検査終了まで安静仰臥)して下さい。

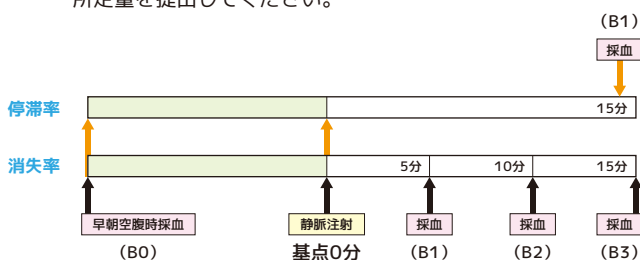
- 1) 負荷前に5mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B0)
- 2) ICG試験薬25mgを無菌蒸留水5mLに溶解し、体重10Kgにつき1mLの割合で正確に静脈注射してください。

停滞率の場合

- 3) 注射後15分に注射時と反対側から5mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B1)

消失率の場合

- 3) 注射後5分(B1)、10分(B2)、15分(B3)に注射時と反対側から5mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。
- 4) 以上のようにして得た血清を冷蔵にて暗所に保存し、遮光し所定量を提出してください。



項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0581	フェノバルビタール	血液 2 血清 0.4	01 03	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	$\mu\text{g/mL}$ 15.0 ~ 40.0	★	1 2	フェノバル フェノバルビタール
2812	プリミドン	血液 1 血清 0.3	03 02	冷蔵 (4週)	EMIT 法	$\mu\text{g/mL}$ 5 ~ 12	★	2 3	プリミドン
0582	フェニトイン	血液 2 血清 0.4	01 03	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	$\mu\text{g/mL}$ 10.0 ~ 20.0	★	1 2	ヒダントール アレピアチン
0583	カルバマゼピン	血液 2 血清 0.4	01 03	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	$\mu\text{g/mL}$ 4.0 ~ 10.0	★	1 2	テグレトール カルバマゼピン
0584	バルプロ酸ナトリウム	血液 2 血清 0.4	01 03	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	$\mu\text{g/mL}$ 50 ~ 100	★	1 2	デパケン パレリン セレニカR
2817	エトサクシミド	血液 2 血清 0.4	03 02	冷蔵 (4週)	EIA 法	$\mu\text{g/mL}$ 40 ~ 100	★	2 3	ザロンチン エピレオプチマル
2818	トリメタジオン	血液 2 血清 0.5	03 02	凍結 (30日)	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$ 300 ~ 500	★	4 10	ミノアレ ※活性代謝物であるジメタジオン を測定
2811	クロナゼパム	血液 2 血清 0.5	03 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL 10 ~ 70	★	3 4	ランドセン リボトリール
2835	ニトラゼパム	血液 2 血清 0.5	03 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL 20 ~ 100	★	3 4	ベンザリン ネルボン
2836	ジアゼパム	血液 2 血清 0.5	03 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL 有効治療濃度 200 ~ 500 中毒域 1000 以上	★	3 5	セルシン、ホリゾン ジアバックス、セレナミン ダイアップ 脚注参照 * 1
2822	ゾニサミド	血液 1 血清 0.3	03 02	冷蔵 (4週)	ラテックス凝集法	$\mu\text{g/mL}$ 10 ~ 30	★	2 3	エクセグラン トレリーフ
2893	ガバペンチン	血液 1 血清 * 2 0.3	03 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$	★	3 6	ガバペン
2826	クロバザム	血液 2 血清 0.5	03 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL	★	3 5	マイスタン 脚注参照 * 3
2896	レベチラセタム	血液 1 血清 * 2 0.3	03 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$	★	3 4	イーケブラ
2895	ラモトリギン	血液 1 血清 * 2 0.3	03 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$	★	3 4	ラミクタール
2897	トピラマート	血液 1 血清 * 2 0.3	03 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$	★	3 5	トピナ

★ : 特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合がありますので、指定の容器をご使用下さい。

* 1 : ジアゼパムおよび活性代謝物であるデスメチルジアゼパムの各定量値をご報告します。有効治療濃度、中毒域は、ジアゼパムの値です。

* 2 : EDTA血漿での受託も可能です。

* 3 : クロバザムおよび活性代謝物であるデスメチルクロバザムの各定量値をご報告します。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2830	スチリペントール	血液 1 EDTA 血漿 0.3	14 ↓ 02	凍結 (30日)	LC-MS/MS 法	μg/mL	★	3 ↓ 5	ディアコミット 脚注参照*1
2987	ルフィナミド	血液 1 血清 *2 0.3	03 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	μg/mL	★	3 ↓ 5	イノベロン
2891	クロチアゼパム	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 ↓ 6	リーゼ
2990	フルニトラゼパム	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 ↓ 6	サイレース ロヒプノール
3034	ミダゾラム	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 ↓ 6	ドルミカム ミダゾラム
2892	アルプラゾラム	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 ↓ 6	コンスタン ソラナックス
2862	プロチゾラム	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 ↓ 6	レンドルミン ソレントミン
2831	リチウム	血液 2 血清 0.5	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	原子吸光法	mEq/L 0.3 ~ 1.2 (早朝服薬前) *3	★	2 ↓ 3	リーマス
2855	ハロペリドール *4	血液 2 血清 0.4	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法 (CEDIA)	ng/mL 3 ~ 17	★	2 ↓ 3	セレネース ハロステン
2840	クロルプロマジン	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL 30 ~ 350	—	4 ↓ 6	コントミン クロルプロマジン塩酸塩
3036	ブロムペリドール *4	血液 2 血清 0.4	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法 (CEDIA)	ng/mL 15 以下	★	2 ↓ 3	インプロメン
2849	アミトリプチリン・ ノルトリプチリン	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL アミトリプチリン+ノルトリプチリン 80 ~ 200 ノルトリプチリンのみ 50 ~ 150	—	4 ↓ 6	トリプタノール ノリトレン
2843	イミプラミン・デシプラミン	血液 3 血清 1	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 ↓ 6	イミドール トフラニール 脚注参照*5

★：特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合がありますので、指定の容器をご使用下さい。

*1：血清での受託も可能ですが分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

*2：EDTA血漿での受託も可能です。

*3：(1)血清リチウム濃度が1.5mEq/Lを超えたときは臨床症状の観察を十分に行い、必要に応じて減量または休薬等の処置を行なって下さい。

(2)血清リチウム濃度が2.0mEq/Lを超えたときは過量投与による中毒を起こすことがあるので、減量または休薬して下さい。

*4：本検査は、ハロペリドールとブロムペリドールにほぼ同等の交差反応性を示します。従って、2薬剤を併用している患者ではそれぞれの薬剤の正確な測定値を得ることはできません。

*5：ロフェブラミンを服用している場合、代謝物としてデシプラミンが検出されます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2874	キニジン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	KIMS 法	$\mu\text{g/mL}$ 2.3 ~ 5.0	★	2 ↓ 3	硫酸キニジン
		血清 0.3							
2877	プロカインアミド	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	HEIA 法	$\mu\text{g/mL}$ 4 ~ 8	★	2 ↓ 3	アミサリン
		血清 0.3							
2875	ジソピラミド	血液 2	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法	$\mu\text{g/mL}$ 2 ~ 5	★	2 ↓ 3	リスモダン
		血清 0.4							
2873	リドカイン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EMIT 法	$\mu\text{g/mL}$ 有効治療濃度 1.5 ~ 5 中毒域 5 以上	★	2 ↓ 3	キシロカイン オリベス
		血清 0.3							
2886	アブリンジン	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$ 0.25 ~ 1.25	★	3 ↓ 5	アスペノン
		血清 0.3							
3037	塩酸ピルジカイニド	血液 2	10 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$ 0.2 ~ 0.9	★	3 ↓ 4	サンリズム
		ヘパリン 血漿 0.5							
2823	プロパフェノン	血液 2	10 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL 50 ~ 1500	★	3 ↓ 6	プロノン 脚注参照 * 1
		ヘパリン 血漿 0.5							
2882	メキシレチン	血液 2	03 ↓ 02	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$ 0.5 ~ 2.0 (不整脈患者)	★	3 ↓ 4	メキシチール チルミメール
		血清 0.5							
3038	アミオダロン	血液 2	10 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL	★	3 ↓ 4	アンカロン 脚注参照 * 2
		ヘパリン 血漿 0.5							
2890	ピルメノール	血液 2	10 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$ * 3	★	3 ↓ 6	ピメノール 脚注参照 * 3
		ヘパリン 血漿 0.5							
2888	コハク酸シベンゾリン	血液 2	10 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL 70 ~ 250 朝投与前 (トラフ濃度)	★	3 ↓ 5	シベノール
		ヘパリン 血漿 0.5							
2887	フレカイニド	血液 2	03 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL 200 ~ 1000	★	3 ↓ 6	タンボコール
		血清 0.5							
2898	ベプリジル	血液 1	14 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL 250 ~ 800	★	3 ↓ 4	ベプリコール 脚注参照 * 4
		EDTA 血漿 0.3							
2900	ソタロール	血液 1	14 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	$\mu\text{g/mL}$	★	3 ↓ 6	ソタコール 脚注参照 * 4
		EDTA 血漿 0.3							

★：特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合がありますので、指定の容器をご使用下さい。

* 1：プロパフェノンおよび主代謝物である5-OHプロパフェノンの各定量値をご報告します。有効治療濃度はプロパフェノンと5-OHプロパフェノンとの総量値です。

* 2：アミオダロンおよび主代謝物であるモノデスエチルアミオダロンの各定量値をご報告します。

* 3：最小有効血中濃度は0.40 $\mu\text{g/mL}$ 前後と推定されています。

* 4：血清での受託も可能ですが分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0595	ジゴキシ	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	ng/mL 0.9 ~ 2.0	★	1 ↓ 2	ジゴシン
		血清 0.4	03						
0591	テオフィリン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL 10.0 ~ 20.0	★	1 ↓ 2	スロービッド テオドール テオロンゲ ユニフィル 脚注参照 *1
		血清 0.4	03						
2904	ゲンタマイシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	EMIT 法	μg/mL ピーク 15 ~ 20 トラフ 1 未満 *2	★	2 ↓ 3	ゲンタシン エルタシン
		血清 0.3	02						
2905	トブラマイシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	HEIA 法	μg/mL ピーク 15 ~ 20 トラフ 1 未満 *2	★	2 ↓ 3	トブラシン
		血清 0.3	02						
2906	アミカシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	KIMS 法	μg/mL ピーク 50 ~ 60 トラフ 4 未満 *2	★	2 ↓ 3	アミカマイシン
		血清 0.3	02						
2922	アルベカシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL ピーク 15 ~ 20 トラフ 1~2 未満	★	2 ↓ 3	ハベカシン
		血清 0.3	02						
2908	バンコマイシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL トラフ 10 ~ 15	★	2 ↓ 3	塩酸バンコマイシン
		血清 0.3	02						
2923	テイコプラニン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL トラフ 15 ~ 30	★	2 ↓ 3	タゴシッド
		血清 0.3	02						
2894	ポリコナゾール	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法	μg/mL トラフ 1~2 以上 トラフ 4~5 以上の場 合に肝障害に注意する	★	3 ↓ 5	ブイフェンド
		血清 0.3	02						
2944	アセトアミノフェン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	HEIA 法	μg/mL 中毒域 4時間後 200以上 12時間後 50以上	190 生i ①	2 ↓ 3	カロナール
		血清 0.3	02						
2947	サリチル酸 (アスピリン)	血液 1	03	冷蔵 (4週)	酵素法	μg/mL 抗リウマチ薬として 150 ~ 300	★	2 ↓ 3	アスピリン ハフトロン ヘパルス
		血清 0.3	02						

★ : 特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】 採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合がありますので、指定の容器をご使用下さい。

*1 : アミノフィリン(テオフィリンエチレンジアミン)はテオフィリンを測定。

*2 : グラム陰性菌感染症に対する標準治療

① : 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回の測定を行ったときに1回に限り算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2943	メトトレキサート	血液 1 血清 0.3	03 ↓ 02	冷蔵 (7日)	EIA 法	$\mu\text{mol/L}$ 中毒域(大量投与時) 24時間後 10 以上 48時間後 1 以上 72時間後 0.1 以上	★	2 ↓ 3	メトトレキサート
2899	イマチニブ	血液 1 EDTA 血漿 0.3	14 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL	★	3 ↓ 6	グリベック 脚注参照 * 1
2878	Ｌ－ドーパ	血液 5 EDTA 血漿 2	14 ↓ 02	凍結	HPLC 法	ng/mL	—	3 ↓ 5	ドバストン ドパゾール (ヘパリン血漿は不可)
2950	シクロスポリン	血液 1 EDTA加血液	07	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	ng/mL	★	2 ↓ 3	ネオーラル サンディミュン * 専用採血管に規定量を採血し、 必要検体量をご提出下さい。
6553	タクロリムス	血液 1 EDTA加血液	07	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	ng/mL 5 ～ 20 * 2	★	2 ↓ 3	プログラフ * 専用採血管に規定量を採血し、 必要検体量をご提出下さい。
2988	エベロリムス	血液 1 EDTA加血液 * 3	07	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	ng/mL * 4	★	2 ↓ 3	サーティカン アフィニール * 専用採血管に規定量を採血し、 必要検体量をご提出下さい。

★：特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合がありますので、指定の容器をご使用下さい。

* 1：血清での受託も可能ですが分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

* 2：臓器移植後患者における12時間トラフ値の管理目標を示します。

* 3：シロリムス投与歴がある患者検体は検査不可。

* 4：免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合のトラフ 3 ～ 8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合のトラフ 5 ～ 15

●主な薬物検査の採血時期

薬剤名	採血時期
-----	------

抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)*
プリミドン	投与直前(トラフ)
フェニトイン	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与直前(トラフ)
カルバマゼピン	投与直前(トラフ)
バルプロ酸ナトリウム	
エトサキシミド	投与直前(トラフ)*
トリメタジオン	
クロナゼパム	
ニトラゼパム	
ジアゼパム	
ゾニサミド	

向精神薬	
リチウム	投与直前(トラフ)
ハロペリドール	投与直前(トラフ)*
プロムペリドール	投与直前(トラフ)

抗不整脈剤	
キニジン	投与直前(トラフ)
プロカインアミド	
N-アセチルプロカインアミド	
ジソピラミド	カプセル：投与直前(トラフ)および 投与後2～4時間(ピーク) 徐放剤：投与直前(トラフ)および 投与後4～7時間(ピーク) 注射剤：投与直前(トラフ)
リドカイン	静注：投与後2時間 点滴静注：終了後6～12時間
アプリンジン	経口：投与直前(トラフ)および 投与後2～4時間(ピーク) 静注：投与直前(トラフ)
塩酸ピルジカイニド	投与直前(トラフ)
プロパフェノン	経口：投与直前(トラフ)
メキシレチン	投与直前(トラフ)または 投与後約3時間(ピーク)
ピルメノール	投与直前(トラフ)
アミオダロン	

強心剤	
ジゴキシン	経口：投与直前(トラフ)または 投与後6時間以降 注射剤：投与直前(トラフ)または 静注後3時間以降

気管支拡張剤	
テオフィリン	速放性製剤：投与直前(トラフ)および 投与後2時間(ピーク) 徐放性製剤：投与直前(トラフ)および 投与後4時間後(ピーク) 静注：点滴静注： 投与直前(トラフ)および 投与後30分(ピーク) 持続静注：投与後4～6時間および その後12～24時間ごと

*：半減期が長い場合ため随時でも可であるが、定刻を守る。

薬剤名	採血時期
-----	------

抗生剤	
ゲンタマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、 終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
トブラマイシン	
アミカシン	
アルベカシン	投与前30分以内(トラフ)
バンコマイシン	
テイコプラニン	

解熱・鎮痛剤	
アセトアミノフェン	投与直前(トラフ) 大量に服薬した患者においては、 中毒発現が疑われる場合に随時

抗炎症・抗リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前(トラフ)

抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間後
エベロリムス(アフィニートール)	投与直前(トラフ)

抗パーキンソン薬	
L-ドーパ	経口：投与直前(トラフ)

免疫抑制剤	
シクロスポリン	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与直前(トラフ) 必要に応じて投与直後(ピーク)
タクロリムス	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与直前(トラフ) 必要に応じて投与直後(ピーク)
シロリムス	投与直前(トラフ)
エベロリムス(サーティカン)	投与直前(トラフ)

●**特定薬剤治療管理料** 当社で扱っていない検査項目も掲載しています

当社で扱っていない検査項目も掲載しています

薬物名	検査項目	特定薬剤治療管理料		加算点	備 考
		1～3ヶ月	4ヶ月以降		
抗てんかん剤（てんかん）	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン バルプロ酸ナトリウム エトサクシミド トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム ゾニサミド ガバペンチン クロバザム レベチラセタム ラモトリギン トピラマート スチリペントール ルフィナミド ペランパネル ラコサミド	〔単一薬剤〕 470点	〔単一薬剤〕 470点	280点 （薬剤の投与を行った 初回月に限る）	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合またはてんかん重積状態の患者に対して抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
		〔複数薬剤〕 470点 ×2	〔複数薬剤〕 470点 ×2		
ジギタリス製剤（心疾患）	ジゴキシン				数日間以上投与している入院患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。
アミノ配糖体抗生物質 〈入院中〉	ゲンタマイシン トブラマイシン アミカシン アルベカシン				
グリコペプチド系抗生物質 〈入院中〉	バンコマイシン テイコブラニン				
トリアゾール系抗真菌剤〈入院中〉 （重症または難治性真菌感染症、造血幹細胞移植 （深在性真菌症の予防を目的とするものに限る））	ボリコナゾール				
テオフィリン（備考参照）	テオフィリン				気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫または未熟児無呼吸発作
不整脈用剤（不整脈）	キニジン プロカインアミド N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド リドカイン アブリンジン ビルジカイニド塩酸塩 プロパフェノン メキシレチン フレカイニド シベンソリンコハク酸塩 ピルメノール アミオダロン ソタロール塩酸塩 ベプリジル塩酸塩	470点	235点		
	ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤（統合失調症）		ハロペリドール ブロムペリドール		
	リチウム製剤（躁うつ病）		炭酸リチウム		
バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン（躁うつ病または躁病）	バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン		470点		
免疫抑制剤 （臓器移植後）	シクロスポリン タクロリムス水和物 エベロリムス ミコフェノール酸モフェチル			2740点 （臓器移植を行った 月から3月以内）	
免疫抑制剤（備考参照）	シクロスポリン		470点		ベーチェット病（活動性、難治性眼症状を有するもの）、その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で視力低下のおそれのある活動性の中間部または後部の非感染性ぶどう膜炎に限る）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る）、ネフローゼ症候群
免疫抑制剤（備考参照）	タクロリムス水和物			280点 （薬剤の投与を行った 初回月に限る）	全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎、間質性肺炎（多発性筋炎または皮膚筋炎に合併するものに限る） 若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ
サリチル酸系制剤（備考参照）	サリチル酸				
メトトレキサート（悪性腫瘍）	メトトレキサート			235点	
バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）	バルプロ酸ナトリウム				
イマチニブ	イマチニブ				
エベロリムス（備考参照）	エベロリムス				結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫
シロリムス製剤（リンパ脈管筋腫症）	シロリムス				
スニチニブ（腎細胞癌）	スニチニブ				

特定薬剤治療管理料1は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

(てんかん患者において2種類以上の抗てんかん剤を投与しており、同一暦月に複数の抗てんかん剤の血中濃度を測定した場合、1月に2回に限り算定できる)

2018年度診療報酬改定により新設された特定薬剤治療管理料2(サリドマイドおよびその誘導体)については省略。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0162	AFP 〈αフェトプロテイン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	ng/mL 10.0 以下	107 生II	1 ↓ 2	
1800	AFPレクチン分画	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (3週)	LBA 法 (LBA-EATA)	% L3分画 10.0 未満	190 生II	3 ↓ 4	
0163	CEA	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	ng/mL 5.0 以下	105 生II	1 ↓ 2	
0164	CA19-9	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (30日)	ECLIA 法	U/mL 37 以下	130 生II	1 ↓ 2	
0165	CA125	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	U/mL 35.0 以下	148 生II	1 ↓ 2	
2621	BFP 〈塩基性フェトプロテイン〉	血液 1 血清 0.3	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法	ng/mL 75 未満	150 生II	3 ↓ 6	採血後速やかに血清分離して下さい。溶血検体、または分離剤入り容器による採血では、高値になる場合がありますので避けて下さい。
1792	TPA 〈組織ポリペプチド抗原〉	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	U/L 75 未満	110 生II	2 ↓ 3	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
1816	SPan-1抗原	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	U/mL 30 以下	146 生II	2 ↓ 5	
1817	DUPAN-2	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (1週)	EIA 法	U/mL 150 以下	121 生II	3 ↓ 5	
1336	エラスターゼ1	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	ng/dL 300 以下	129 生II	2 ↓ 3	
1840	PIVKA II 定量 《CLIA》	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	mAU/mL 40 未満	143 生II	2 ↓ 3	
1784	SLX 〈シアリルLe ^x -i抗原〉	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	U/mL 38.0 以下	152 生II	2 ↓ 4	溶血検体でのご依頼は避けて下さい。
1846	NCC-ST-439	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (2週)	EIA 法	U/mL M 4.5 未満 F 49歳以下 7.0 未満 50歳以上 4.5 未満	121 生II	3 ↓ 4	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
1825	BCA225	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (3週)	CLEIA 法	U/mL 160.0 未満	165 生II	2 ↓ 3	
1814	CA15-3	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	U/mL 31.3 以下	121 生II	2 ↓ 3	

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
1812	NSE 〈神経特異エノラーゼ〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (3日)	ECLIA 法	ng/mL 16.3 以下	146 生II	2 ↓ 3	採血後は速やかに遠心分離して下さい。 溶血検体では、NSE値は上昇するため、避けて下さい。
1834	Pro GRP 〈ガストリン放出ペプチド前駆体〉	血液 1 EDTA 血漿 0.3	14 ↓ 02	冷蔵 (10日)	CLIA 法	pg/mL 81.0 未満	175 生II	2 ↓ 3	ヘパリン血漿も検査可。
1813	SCC抗原 〈扁平上皮癌関連抗原〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	ng/mL 1.5 以下	110 生II	2 ↓ 3	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。 ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
1867	シフラ 〈サイトケラチン19フラグメント〉	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵	CLIA 法	ng/mL 3.5 以下	167 生II	2 ↓ 3	
1841	前立腺酸性フォスファターゼ 〈PAP〉	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (12週)	CLEIA 法	ng/mL 3.0 以下	124 生II	2 ↓ 5	採血後速やかに遠心分離し、凍結して下さい。直腸検査等の前立腺刺激を行った場合は、24時間以上経過後採血して下さい。
1859	γ-Sm 〈γ-セミノプロテイン〉	血液 2 血清 0.4	01	凍結 (8週)	CLEIA 法	ng/mL 4.00 以下	194 生II	2 ↓ 3	
0166	PSA 〈前立腺特異抗原〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	ng/mL 4.000 以下	130 生II ②	2 ↓ 3	
1873	PSA-ACT	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (12週)	CLIA 法	ng/mL 3.4 以下	130 生II ②	2 ↓ 5	前立腺癌診断のcut-off値としては“7.0ng/mL以下”が推奨されます。
1826	CA602	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	U/mL 63.0 以下	190 生II	3 ↓ 6	
1845	STN 〈シアリルTn抗原〉	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (12週)	RIA 法 (ビーズ固相法)	U/mL 45.0 以下	146 生II	2 ↓ 4	
1849	CA72-4	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (7日)	ECLIA 法	U/mL 8.0 以下	146 生II	2 ↓ 3	
5594	sIL-2R 〈可溶性インターロイキン-2レセプター〉	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (14日)	CLEIA 法	U/mL 121 ~ 613	438 生II	2 ↓ 3	
1772	HE4 〈ヒト精巣上体蛋白4〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (14日)	CLIA 法	pmol/L F 閉経前 70.0 以下 閉経後 140 以下	200 生II	3 ↓ 5	

- ❶ : 前立腺癌を強く疑う場合に、前立腺癌の診断の確定または転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定できます。ただし、「PSA」の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合は、3月に1回に限り、3回を上限として算定できます。
- ❷ : 当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1684	遊離HCG-β (HCG-β サブユニット)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	ng/mL 0.1 以下	140 生II ①	2 3 4	妊娠の有無,妊娠週数を必ずご記入下さい。 脚注参照 * 1
1685		血清 0.4							
1685	遊離HCG-β (HCG-β サブユニット)	蓄尿 または 部分尿 1	25	凍結 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	ng/mL 0.1 以下	140 生II ①	2 3 4	妊娠の有無,妊娠週数を必ずご記入下さい。 脚注参照 * 1,2
1685		蓄尿 または 部分尿 1							
1810	I型CTP (I型コラーゲン-C-テロペプチド)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	RIA 法 (二抗体法)	ng/mL 5.5 未満 (骨転移判定のcut off値)	※ ②	2 3 4	
1810	I型CTP (I型コラーゲン-C-テロペプチド)	血清 0.5							
1393	デオキシピリジノリン (Dpyr) *3	尿 1.5	25	冷蔵 (6週)	EIA 法	nmol/mmol・Cr M 2.1 ~ 5.4 F 2.8 ~ 7.6	191 生II ③④⑤	3 3 5	遊離型デオキシピリジノリンを測定致します。濃度が3.0nmol/L未満の場合,クレアチニン補正値は「換算不可」でご報告致します。
1389	NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) *3	尿 1.5	25	冷蔵 (4週)	EIA 法	nmol BCE/mmol・Cr 骨吸収亢進の指標 55 以上 副甲状腺摘出術の適応 200 以上 悪性腫瘍の骨転移の指標 100 以上	156 生II ③④⑤	3 3 4	濃度が20.0nmolBCE/L未満の場合,クレアチニン補正値は「換算不可」でご報告致します。
6909	HER2蛋白定量	血液 1	01	凍結	CLIA 法	ng/mL 陰性 : 15.2 以下 陽性 : 15.3 以上	※ ②	2 3 5	判定結果において「陽性」とは,HER2蛋白の過剰発現を意味します。
6909	HER2蛋白定量	血清 0.3							

* 1 : 本検査は、遊離型のHCG-βのみを測定致します(LHとの交差反応は認められません)。

* 2 : トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。

* 3 : 骨粗鬆症の検査としてご利用の場合、[内分泌学検査]に掲載している同名の各検査項目(項目コード:1410、1413)をご依頼ください。

① : 実施料は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合にのみ算定できます。ただし、「HCG定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。

② : 「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ保険請求が認められます。

③ : 乳癌、肺癌または前立腺癌と既に診断された患者に対し骨転移診断のために行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合には、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

④ : 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

⑤ : 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定(または骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択)に際して実施された場合に算定できます。

●腫瘍部位とマーカーの有用性

	肺・乳腺		消化管			肝・胆・膵			性腺・泌尿器			
	肺がん	乳がん	食道がん	胃がん	大腸がん	肝がん	胆嚢・胆道がん	膵がん	卵巣がん	子宮がん	腎・膀胱がん	前立腺がん
CEA	◎		○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
BFP	○				○	○	○	○	○	○	◎	○
TPA	◎	○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○
AFP						◎						
AFPレクチン分画						◎						
PIVKA-II						◎						
エラスターゼ1								◎				
CA19-9				○	○	○	◎	◎				
Span-1				○	○	○	◎	◎				
DUPAN-2				○		○	◎	◎				
NCC-ST-439	◎	◎		○	○	○	◎	◎	○			
SLX	◎					○	◎	◎	◎			
CA125	○			○				○	◎	○		
CA602									◎	○		
HE4									◎			
STN				◎	○			○	◎	○		
CA72-4				◎	○			○	◎	○		
CA54/61				○	○			○	◎	○		
SCC抗原	◎		○							◎		
CYFRA(シフラ)	◎											
NSE	◎											
ProGRP	◎											
CA15-3		◎										
P53抗体		◎	◎		◎							
BCA225		◎										
HER2蛋白		◎										
PAP												◎
PSA												◎
PSA-ACT												◎
PSA・F/T比												◎
γ-Sm												◎

◎ 特に有用性の高いもの
○ 有用性が認められているもの

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
1001	GH 〈成長ホルモン〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL M 2.47 以下 F 0.13 ~ 9.88 (負荷前安静時)	114 生II	2 1 3	へパリン血漿も検査可。
0589	LH 〈黄体形成ホルモン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	mIU/mL 35頁参照	114 生II	1 1 2	
0590	FSH 〈卵胞刺激ホルモン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	mIU/mL 35頁参照	114 生II	1 1 2	
1046	ACTH 〈副腎皮質刺激ホルモン〉	血液 1 EDTA 血漿 0.3	14 ↓ 02	凍結 (10週)	ECLIA 法	pg/mL 7.2 ~ 63.3 (早期安静時)	200 生II	2 1 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 抗凝固剤として必ずEDTAを ご使用下さい。 溶血検体では測定値が低下傾 向となります。
0592	プロラクチン 〈PRL〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL 35頁参照	98 生II	1 1 2	
1098	AVP(ADH) 〈抗利尿ホルモン〉	血液 4 EDTA 血漿 1.2	14 ↓ 02	凍結	RIA 法 (二抗体法)	pg/mL 水制限 : 4.0 以下 自由飲水 : 2.8以下	235 生II	5 1 7	溶血の影響により、測定値が変動 する可能性があります。
1076	ソマトメジンC 〈IGF-I〉	血液 2 血清 0.4	01	凍結 (4週)	ECLIA 法	ng/mL 35頁参照	224 生II	2 1 4	性別、年齢を必ずご記入下さい。 (血漿、血清とも検査可)
0175	TSH 〈甲状腺刺激ホルモン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	μIU/mL 0.500 ~ 5.000	107 生II	1 1 2	
0171	T₃ 〈トリヨードサイロニン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL 0.80 ~ 1.60	105 生II	1 1 2	
0172	T₄ 〈総サイロキシシン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (8日)	ECLIA 法	μg/dL 6.1 ~ 12.4	111 生II	1 1 2	
0173	FT₃ 〈遊離トリヨードサイロニン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	pg/mL 2.3 ~ 4.3	130 生II	1 1 2	
0174	FT₄ 〈遊離サイロキシシン〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	ng/dL 0.9 ~ 1.7	130 生II	1 1 2	
0170	サイログロブリン 〈Tg〉	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (2週)	ECLIA 法	ng/mL 33.70 以下	137 生II	1 1 2	
0451	サイロイドテスト 〈抗サイログロブリン抗体〉	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集試験)	倍 100 未満	37 免疫	1 1 2	
0452	マイクロゾームテスト 〈抗マイクロゾーム抗体〉	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集試験)	倍 100 未満	37 免疫 ①	1 1 2	

① : 「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」と「マイクロゾームテスト(抗マイクロゾーム抗体)」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0168	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	血液 2	01	冷蔵 (4日)	ECLIA 法	IU/mL 28.0 未満	144 免疫	1 ↓ 2	
		血清 0.4							
	抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	血液 2	01	冷蔵 (8日)	ECLIA 法	IU/mL 16.0 未満	146 免疫 ①	1 ↓ 2	
		血清 0.4							
	TSHレセプター抗体 (TRAb)	血液 1	01	冷蔵	ECLIA 法	IU/L 2.0 未満	232 免疫 ②	2 ↓ 3	
		血清 0.3							
	TSAAb (TSH刺激性レセプター抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	% 120 以下	340 免疫 ②	3 ↓ 6	血清以外は検査不可。
		血清 0.5							
	TBG (サイロキシン結合グロブリン)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法 (PEG 法)	μg/mL 14.0 ~ 29.4	130 生II	2 ↓ 5	
		血清 0.3							
1273	カルシトニン (CT)	血液 1	01	凍結 (24ヶ月)	ECLIA 法	pg/mL M 5.15 以下 F 3.91 以下 (空腹時)	141 生II	2 ↓ 3	
		血清 0.3							
1287	ホールPTH (副甲状腺ホルモンwhole)	血液 2	14 ↓ 02	凍結	ECLIA 法	pg/mL 14.9 ~ 56.9	175 生II ③	2 ↓ 3	血清も検査可。(急速凝固管による血清は避けて下さい) 脚注参照 * 1
		EDTA 血漿 0.4							
0253	PTHインタクト (副甲状腺ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (1日)	ECLIA 法	pg/mL 10 ~ 65	175 生II ③	1 ↓ 2	血漿も検査可。
		血清 0.5							
1285	PTHrPインタクト (副甲状腺ホルモン関連蛋白intact)	血液 2	08 ↓ 02	凍結 (4ヶ月)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	pmol/L 1.1 未満	194 生II ④	5 ↓ 7	必ず指定容器使用 専用容器 (EDTA・アプロチニン 入り) は予めご依頼下さい。 脚注参照 * 2
		血漿 0.5							
1281	オステオカルシン (BGP)	血液 1	01	凍結 (4週)	FEIA 法	ng/mL 8.3 ~ 32.7	165 生II ⑤⑥	2 ↓ 5	溶血検体では、測定値が低下傾向となる場合があります。 EDTA血漿も検査可。
		血清 0.3							

* 1 : 必ず血漿分離の上ご提出下さい。PTHは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離することで不活性化を防ぎます。

* 2 : 必ず血漿分離の上ご提出下さい。血清検体は不可。

* 3 : [骨形成マーカー]BGP、BAP、total P1NP。[骨吸収マーカー]NTx、TRACP-5b、Dpyr。

① : 「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」と「マイクロゾームテスト(抗マイクロゾーム抗体)」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定できます。

② : 「TSHレセプター抗体」と「TSH刺激性レセプター抗体」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定できます。

③ : 「副甲状腺ホルモン(PTH)」として一連の算定となります。

④ : 「副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)」として、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定できます。

⑤ : 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定および原発性または続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できます。

⑥ : 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
2151	骨型ALP (BAP) *1	血液 1	01	凍結	CLEIA 法	M $\mu\text{g/L}$ 3.7 ~ 20.9	161 生II ①	2 3	へ/リン血漿も検査可。
		血清 0.3				F 閉経前 2.9 ~ 14.5 閉経後 3.8 ~ 22.6			
	TOTAL P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド) *1	血液 1	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	M (30~83歳) $\mu\text{g/L}$ 18.1 ~ 74.1	170 生II ①	2 3	EDTA血漿も検査可。 溶血検体では測定値が低下傾向となります。
		血清 0.3				F 閉経前 (30~44歳) 16.8 ~ 70.1 閉経後 (45~79歳) 26.4 ~ 98.2			
	[骨粗鬆症] NTx(血清) (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) *1	血液 1	01	凍結	EIA 法	nmol BCE/L	156 生II ②③④⑤	3 4	早期2番尿をご提出下さい。 脚注参照 * 2.3
		血清 0.3				36頁参照			
	[骨粗鬆症] NTx(尿) (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) *1	尿 1.5	25	冷蔵 (4週)	EIA 法	nmol BCE/mmol・Cr	156 生II ②③④⑤	3 4	早期2番尿をご提出下さい。 脚注参照 * 2.3
		尿 1.5				36頁参照			
	TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) *1	血液 1	01	凍結	EIA 法	mU/dL	156 生II ②③④⑤	2 3	同一検体での他項目との重複依頼は避けて下さい(凍結融解によりデータが低値化傾向にあることが確認されています)。
		血清 0.3				M 170 ~ 590 F (YAM) 120 ~ 420 *4			
	[骨粗鬆症] デオキシピリジノリン (Dpyr) *1	尿 1.5	25	冷蔵 (6週)	EIA 法	nmol/mmol・Cr	191 生II ②③④⑤	3 5	遊離型デオキシピリジノリンを測定致します。早期2番尿をご提出下さい。 脚注参照 * 3.5
		尿 1.5				36頁参照			
1445	カテコールアミン 3分画	血液 3	14 02	凍結 (10日)	HPLC 法	ng/mL	175 生II	3 4	採血後、速やかに血漿分離の後、 -20℃以下の条件でご提出下さい。 脚注参照 * 7
1452		EDTA 血漿 1				$\mu\text{g/day}$			
1435	遊離カテコールアミン3分画	酸性 各 1	25	冷蔵 (5日)	HPLC 法	$\mu\text{g/day}$	175 生II ⑧		

*1 : [骨形成マーカー]BGP、BAP、total P1NP。 [骨吸収マーカー]NTx、TRACP-5b、Dpyr。

*2 : 濃度が20. OnmolBCE/L未満の場合、クレアチニン補正値は【換算不可】でご報告致します。

*3 : 原発性副甲状腺機能亢進症、あるいは癌の骨転移の診断・治療効果判定指標としての「同名」の各検査項目(項目コード:1389、1393)とは取り扱いが異なります。骨粗鬆症の検査としてご利用の場合、依頼書に必ず本欄に記載されている項目コードを明記して下さい。

*4 : YAM : 若年者成人平均値

*5 : 濃度が3. OnmolBCE/L未満の場合、クレアチニン補正値は【換算不可】でご報告致します。

*6 : 穿刺のストレスのみで増加するため肘静脈に留置針を予め挿入することが望ましいです。30分以上安静臥床後に採血します。

*7 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)」または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出下さい。
左記はいずれも市販品です。貴院にて予めご購入下さい。

① : 「BAP」、「Intact P1NP」、「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」および「total P1NP」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

② : 乳癌、肺癌または前立腺癌と既に診断された患者に対し骨転移診断のために行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合には、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

③ : (原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定または)骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定できます。

④ : 骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できます。

⑤ : 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

⑥ : 代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できます。

⑦ : 治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できます。

⑧ : 「カテコールアミン分画」として一連の算定となります。

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
1493	メタネフリン2分画		酸性 蓄尿	2	25 冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day メタネフリン(MN) 0.05 ~ 0.20 ノルメタネフリン(NMN) 0.10 ~ 0.28	227 生II	3 4	脚注参照 * 1 メタネフリン総1日量(mg/day)、メ タネフリン濃度(mg/L)、ノルメタネ フリン濃度(mg/L)もご報告致しま す。
1482	VMA 〈パニリルマンデル酸〉	〈尿〉	酸性 蓄尿	1	25 冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day 1.4 ~ 4.9	90 生II	3 4	脚注参照 * 1 パニリルマンデル酸濃度(mg/L) もご報告致します。
1519		〈クレアチニン 補正〉	尿	1	25 冷蔵 (4週)		μ g/mg・Cr 1.2 ~ 4.9			正常児参考基準値については 36頁参照 パニリルマンデル酸濃度(mg/L)お よびクレアチニン値(mg/dL)もご 報告致します。
1483	HVA 〈ホモパニリン酸〉	〈尿〉	酸性 蓄尿	1	25 冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day 1.6 ~ 5.5	69 生II	3 4	脚注参照 * 1 ホモパニリン酸濃度(mg/L)もご 報告致します。
1520		〈クレアチニン 補正〉	尿	1	25 冷蔵 (4週)		μ g/mg・Cr 1.6 ~ 5.5			正常児参考基準値については 36頁参照 ホモパニリン酸濃度(mg/L)および クレアチニン値(mg/dL)もご報告 致します。
1499	セロトニン 〈5-HT〉	〈血液〉	EDTA 加血液	0.6	14 凍結 (4週)	HPLC 法	ng/mL 52.8 ~ 200	-	3 9	ガラス管の場合はプラスチック容 器に移してから凍結して下さい。 必ず専用検体としてご提出下さ い。
1485		〈血漿〉	EDTA 加血液 多血小 板血漿	2 0.6	14 ↓ 02		ng/mL 623 以下			採血後4℃,900rpm,20分遠心分 離によりPRPを採取して下さい。
1484	5-HIAA 〈5-ハイドロキシ インドール酢酸〉	〈尿〉	酸性 蓄尿	1	25 冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day 0.6 ~ 4.1	95 生II	3 4	脚注参照 * 1 5-HIAA濃度(mg/L)もご報告致し ます。
1521		〈クレアチニン 補正〉	尿	1	25 冷蔵 (4週)		μ g/mg・Cr 0.4 ~ 3.5			5-HIAA濃度(mg/L)およびクレア チニン値(mg/dL)もご報告致しま す。
1531	血漿レニン活性 〈PRA〉		血液	2	14 ↓ 02	EIA 法	ng/mL/hr 0.2 ~ 2.3 (臥位) 0.2 ~ 3.9 (座位) 0.2 ~ 4.1 (立位)	100 生II ①	3 4	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照 * 2,3
		EDTA 血漿	0.6	02	(4週)					
1552	レニン濃度 〈PRC〉		血液	2	14 ↓ 02	IRMA 法 (ビーズ固相法)	pg/mL 2.5 ~ 21.4 (安静臥位) 3.6 ~ 63.7 (立位歩行)	111 生II ①	2 4	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照 * 2,5
		EDTA 血漿	0.5	02	-20℃以下 凍結					

* 1 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)」または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出下さい。

左記はいずれも市販品です。貴院にて予めご購入下さい。

* 2 : 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。(臥位は30分以上横になった状態での採血をお勧め致します)

* 3 : 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。

* 4 : 活性型を測定します。

* 5 : 血漿分離後、-20℃以下の条件で速やかに凍結して下さい。氷結点(0℃)前後では冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。

① : 「血漿レニン活性(PRA)」、「レニン濃度(PRC)」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
1549	アルドステロン	血液 2	14 ↓ 02	凍結 (12週)	RIA 法 (チューブ固相 法)	pg/mL 随時: 36 ~ 240 臥位: 30 ~ 159 立位: 39 ~ 307	128 生II	2 ↓ 3	血清も検査可。 脚注参照*1
1551		EDTA 血漿 0.5							
1551	〈尿〉	蓄尿 2	25			μg/day 10 以下	128 生II	3 ↓ 5	トルエン1~2mLを加え、冷所に 蓄尿し、よく混和し所定量をご提 出下さい。
1555	ACE 〈アンジオテンシン I 転換酵素〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	笠原法	IU/L 7.7 ~ 29.4	148 生I	2 ↓ 3	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
1586	DOC 〈11-デオキシコルチコステロン〉	血液 3	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.08 ~ 0.28 F 0.03 ~ 0.33	—	8 ↓ 22	
		血清 1							
1583	コルチコステロン	血液 2	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.38 ~ 8.42 F 0.21 ~ 8.48	—	8 ↓ 22	
		血清 0.5							
1421	ドーパミン・総	血液 5	14 ↓ 02	凍結	HPLC 法	ng/mL 0.5 ~ 6.2	—	6 ↓ 11	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。
		EDTA 血漿 2							
1534	コルチゾール	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (12週)	CLIA 法	μg/dL 3.7 ~ 19.4 (午前10時以前)	130 生II	2 ↓ 3	血清も検査可。
		EDTA 血漿 0.3							
1556	遊離コルチゾール 〈非抱合型コルチゾール〉	蓄尿 2	25	冷蔵 (4週)	RIA 法 (チューブ固相 法)	μg/day 11.2 ~ 80.3	130 生II ①	2 ↓ 4	トルエン1~2mLを加え、冷所に 蓄尿し、よく混和し所定量をご提 出下さい。 酸性蓄尿は不可。
1589	コルチゾン	血液 2	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL M 14.3 ~ 35.1 F 10.4 ~ 35.0 (午前9~12時)	—	8 ↓ 20	
		血清 0.5							
1631	アンドロステンジオン	血液 2	01	凍結	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL 36頁参照	—	8 ↓ 14	
		血清 0.5							
1632	アンドロステロン	血液 2	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.18 ~ 0.91 F 0.14 ~ 1.03	—	8 ↓ 22	
		血清 0.5							
1581	17-KGS 〈17-ケートジェニックスステロイド・総〉	蓄尿 10	26	冷蔵	比色法 (Few-神戸川 法)	mg/day M 6.00 ~ 18.4 F 3.55 ~ 11.2	200 生II	5 ↓ 8	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。 (保存剤による影響はありません)

*1 : 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。(臥位は30分以上横になった状態での採血をお勧め致します)

① : 保険請求の際は、「コルチゾール」とご記入下さい。

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
1590	17-KGS分画 〈17-ケートジェニックスステロイド分画〉		蓄尿 15	26	冷蔵	比色法 (Few-神戸川 法)	mg/day 37頁参照	220 生II	5 8	脚注参照 * 1
1597	17-KS分画 〈17-ケテストステロイド分画〉	3分画	蓄尿 各 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	mg/day 37頁参照	213 生II	5 7	分画数をご指定下さい。 脚注参照 * 1
1601		7分画								
1602	ステロイド10分画		蓄尿 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	mg/day 37頁参照 * 2	—	5 7	〈分画範囲〉 17-ケテストステロイド7分画, プレグナ ンジオール, プレグナントリオール, プレグナントリオロン 脚注参照 * 1
1634	DHEA-S 〈デヒドロエピアンドロステロン 硫酸抱合体〉		血液 1	01	冷蔵 (3週)	CLEIA 法	μg/dL 36頁参照	176 生II	2 3	
			血清 0.3							
1660	プレグナンジオール 〈P2〉		蓄尿 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	mg/day 35頁参照	213 生II	5 7	脚注参照 * 1
1656	プレグナントリオール 〈P3〉		蓄尿 5	25	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	mg/day 35頁参照	240 生II	5 7	脚注参照 * 1
0598	テストステロン		血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	ng/mL M 1.31 ~ 8.71 F 0.11 ~ 0.47	128 生II	1 2	午前中(9~12時)に採血して下 さい。男性, 女性, 年齢を記入して 下さい。
			血清 0.5							
1692	5α-DHT 〈5α-ジハイドロテストステロン〉		血液 3	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.20 ~ 1.00 F 0.05 ~ 0.30	—	8 14	
			血清 1							
1655	プロジェステロン		血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	ng/mL 37頁参照	155 生II	2 3	妊娠の有無, 妊娠週数を必ずご 記入下さい。
			血清 0.3							
1662	総エストロジェン・非妊婦		蓄尿 3	25	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	μg/day 37頁参照	—	8 20	防腐剤を加えずに冷所に蓄尿し, 所定量をご提出下さい。
0597	E2 〈エストラジオール〉		血液 2	01	冷蔵 (2日)	ECLIA 法	pg/mL 36頁参照	182 生II ①	1 2	妊娠の有無, 妊娠周数を必ずご 記入下さい。
			血清 0.5							
1652	E3 〈エストリオール〉		血液 3	01	凍結 (12週)	RIA 法 (硫酸塩析法)	pg/mL 36頁参照	—	8 14	妊娠の有無, 妊娠週数を必ずご 記入下さい。
			血清 1							

*1 : 蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。

*2 : プレグナントリオロンは定量限界が基準値となります。

① : 「エストロジェン・妊婦」は「エストラジオール」と同時に実施した場合は算定できません。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0366	HCG 〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉	血液 2	01	冷蔵 (3日)	ECLIA 法	mIU/mL 1 以下	142 生II ①	1 ↓ 2	妊娠の有無,妊娠周数を必ずご記入下さい。
		血清 0.5							
0367		尿 10	25	冷蔵	ECLIA 法	mIU/mL 1 以下	142 生II ①	1 ↓ 2	
0368	(尿)HCG定性(妊娠反応) 〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉	尿 10	25	冷蔵 (12週)	金コロイド イムノクロマト法		55 生II ①	1 ↓ 2	
1703	癌胎児性FN 〈頸管腔分泌液中 癌胎児性フィブロネクチン〉	頸管腔分泌液	90	凍結 (4週)	EIA 法	陰性 (－)	204 免疫 ②	2 ↓ 5	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1,2,3
0287	インスリン 〈IRI〉	血液 2	01	冷蔵 (2日)	ECLIA 法	μ U/mL 1.4 ~ 13.8	109 生II	1 ↓ 2	
		血清 0.5							
1385	インスリン抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法	¹²⁵ I-insulin結合率 0.4 % 未満 濃度 125 nU/mL 未満	110 免疫	3 ↓ 6	
		血清 0.3							
5537	抗GAD抗体	血液 1	01	冷蔵 (2週)	EIA 法	U/mL 5.0 未満	134 生II ③	2 ↓ 4	
		血清 0.3							
5497	抗IA-2抗体	血液 2	01	冷蔵	EIA 法	U/mL 0.6 未満	213 生II ④	3 ↓ 9	
		血清 0.4							
1321	C-ペプチド 〈CPR〉	〈血清〉 血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	ng/mL 0.6 ~ 1.8 (空腹時負荷前)	114 生II ⑤	2 ↓ 3	急速凝固管による血清は避けて下さい。
		血清 0.4							
1369		〈尿〉 蓄尿 または 部分尿 * 4	16	凍結 (12週)		μ g/day 20.1 ~ 155	114 生II ⑤		全尿保存の場合は,必ず専用保存剤を添加して下さい。

* 1 : 検体採取は陰洗浄前に行ってください。必ず専用の採取器具を用い、抽出・濾過検体をご提出下さい。

* 2 : 検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないで下さい。

* 3 : 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

* 4 : 部分尿の場合は濃度(単位: μ g/L)をご報告致します。基準値はございません。

① : 「HCG定性」、「遊離HCG- β 」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。

② : 破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合または切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象とし実施した場合のみ算定できます。

③ : すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合または自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できます。

④ : すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗GAD抗体」陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できます。算定するに当たっては「抗GAD抗体」の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄へ記載することが必要です。

⑤ : 血液および尿の検体を同時に測定した場合は、血液の所定点数のみを算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
1306	ガストリン	血液 2 血清 0.4	01	凍結 (12週)	RIA 法 (PEG法)	pg/mL 37 ~ 172	107 生II	2 5	
0259	BNP 〈脳性Na利尿ペプチド〉	血液 2 EDTA 血漿 0.4	96 ↓ 02	凍結	CLEIA法	pg/mL 18.4 以下	136 生II 123	1 2	
0254	NT-proBNP 〈脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント〉	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (6日)	ECLIA 法	pg/mL 125 以下	140 生II 123	1 2	
1097	HANP 〈ヒト心房性Na利尿ペプチド〉	血液 2 血漿 0.3	08 ↓ 02	凍結 (12週)	FEIA 法	pg/mL 43.0 以下	227 生II 12	2 3	必ず指定容器使用 必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照 * 1,2,3
1723	エリスロポエチン 〈EPO〉	血液 3 血清 0.7	01	凍結 (12週)	CLEIA 法	mIU/mL 4.2 ~ 23.7	209 生II 4	2 3	
2479	肝細胞増殖因子 〈HGF〉	血液 1 血清 0.3	01	凍結	EIA 法	ng/mL 0.39 以下	227 生I 5	2 8	
1721	C-AMP 〈サイクリックAMP〉	〈血漿〉 血液 2 EDTA 血漿 0.4	14 ↓ 02	凍結 (12週)	RIA 法 (DCC 法)	pmol/mL 6.4 ~ 20.8	175 生II	4 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。
1722		〈尿〉 蓄尿 1	25			μ mol/day 3.3 ~ 6.1	175 生II	10	トルエン1~2mLを加え、冷所に 蓄尿し、よく混和し所定量をご提出 下さい。 塩酸蓄尿も可。

* 1 : 専用容器(EDTA・アプロチニン入り)は予めご依頼下さい。

* 2 : 長時間全血のままの放置は避け下さい。EDTA採血の場合は、ただちに分離の上、凍結保存して下さい。

* 3 : 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。

① : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から1週間以内に併せて実施した場合は、主たる1項目のみ算定できます。

② : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に各々の検査の実施日を記載して下さい。

③ : 心不全の診断または病態把握のために実施した場合に、月1回に限り算定できます。

④ : 赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者またはエリスロポエチンもしくはダルベポエチン投与前の透析患者における腎性貧血の診断、および骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のために行った場合に算定できます。

⑤ : 肝炎の劇症化が疑われる場合、または劇症肝炎の経過観察に用いた場合のみ算定できます。

●「ソマトメジン-C」基準値

男性(ng/mL)						女性(ng/mL)					
年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD
0	11 - 149	26	119 - 329	52	86 - 242	0	15 - 154	26	146 - 336	52	78 - 213
1	14 - 148	27	116 - 322	53	85 - 240	1	23 - 186	27	141 - 328	53	77 - 212
2	18 - 154	28	114 - 315	54	84 - 239	2	32 - 213	28	137 - 320	54	76 - 211
3	24 - 164	29	111 - 309	55	84 - 238	3	40 - 227	29	133 - 312	55	75 - 210
4	32 - 176	30	109 - 303	56	83 - 237	4	48 - 238	30	129 - 304	56	74 - 208
5	44 - 193	31	107 - 297	57	82 - 236	5	56 - 252	31	126 - 297	57	73 - 207
6	55 - 215	32	105 - 292	58	81 - 235	6	69 - 287	32	122 - 290	58	72 - 205
7	63 - 247	33	103 - 287	59	80 - 233	7	89 - 357	33	119 - 283	59	71 - 203
8	72 - 292	34	102 - 283	60	79 - 232	8	111 - 438	34	115 - 277	60	70 - 201
9	84 - 350	35	100 - 279	61	77 - 230	9	133 - 517	35	112 - 271	61	69 - 198
10	99 - 423	36	99 - 275	62	76 - 228	10	155 - 588	36	109 - 265	62	68 - 196
11	113 - 499	37	97 - 272	63	75 - 226	11	175 - 638	37	106 - 260	63	66 - 194
12	125 - 557	38	96 - 269	64	73 - 224	12	188 - 654	38	103 - 254	64	65 - 191
13	133 - 579	39	95 - 266	65	72 - 221	13	193 - 643	39	100 - 250	65	64 - 188
14	138 - 570	40	94 - 263	66	70 - 219	14	193 - 625	40	98 - 245	66	62 - 186
15	141 - 552	41	94 - 261	67	68 - 216	15	192 - 614	41	95 - 240	67	61 - 183
16	142 - 543	42	93 - 259	68	66 - 213	16	192 - 611	42	93 - 236	68	60 - 180
17	142 - 540	43	92 - 257	69	65 - 209	17	191 - 599	43	90 - 233	69	59 - 177
18	142 - 526	44	92 - 255	70	63 - 206	18	188 - 574	44	88 - 229	70	57 - 175
19	143 - 501	45	91 - 253	71	61 - 202	19	182 - 539	45	87 - 226	71	56 - 172
20	142 - 470	46	90 - 250	72	58 - 198	20	175 - 499	46	85 - 224	72	55 - 170
21	139 - 436	47	90 - 250	73	56 - 194	21	168 - 459	47	83 - 221	73	54 - 167
22	135 - 405	48	89 - 248	74	54 - 190	22	161 - 425	48	82 - 219	74	53 - 165
23	131 - 379	49	88 - 246	75	52 - 185	23	155 - 397	49	81 - 218	75	52 - 163
24	128 - 356	50	87 - 245	76	50 - 181	24	151 - 375	50	80 - 216	76	50 - 160
25	125 - 337	51	87 - 243	77	48 - 177	25	147 - 358	51	79 - 215	77	49 - 158

●「LH/FSH」基準値

		LH (mIU/mL)	FSH (mIU/mL)
男性		2.2 ~ 8.4	1.8 ~ 12.0
女性	卵胞期	1.4 ~ 15.0	3.0 ~ 10.0
	排卵期	8.0 ~ 100.0	5.0 ~ 24.0
	黄体期	0.5 ~ 15.0	1.3 ~ 6.2
	閉経後	11.0 ~ 50.0	26.0 ~ 120.0

●「PRL」基準値

(ng/mL)

男性		4.29 ~ 13.69
女性	閉経前	4.91 ~ 29.32
	閉経後	3.12 ~ 15.39

●「カテコールアミン3分画 / 遊離カテコールアミン3分画」基準値

分画成分名	カテコールアミン3分画		遊離カテコールアミン3分画 (μg/day)
	血漿 (ng/mL)	尿 (μg/day)	
アドレナリン(A)	0.17 以下	1.1 ~ 22.5	0.6 ~ 14.1
ノルアドレナリン(NA)	0.15 ~ 0.57	29.2 ~ 118	9.7 ~ 41.4
ドーパミン(DA)	0.03 以下	100 ~ 1,000	120 ~ 310

●「プレグナンジオール(P2)」基準値

(mg/day)

男性		0.12 ~ 0.93
女性	卵胞期	0.16 ~ 1.28
	黄体期	0.69 ~ 4.70
	閉経後	1.00 以下

●「プレグナントリオール(P3)」基準値

(mg/day)

男性		0.25 ~ 1.48
女性	卵胞期	0.07 ~ 1.24
	黄体期	0.25 ~ 1.58
	閉経後	1.00 以下

●「尿中VMA/HVA(クレアチニン補正)」：正常児参考基準値

月 齢	VMA($\mu\text{g}/\text{mgCr}$) mean $\pm$ S.D	HVA($\mu\text{g}/\text{mgCr}$) mean $\pm$ S.D
1 ～ 3	8.6 $\pm$ 4.10	18.1 $\pm$ 6.18
4	8.9 $\pm$ 3.35	18.2 $\pm$ 4.79
5	9.1 $\pm$ 3.20	17.9 $\pm$ 4.96
6	9.1 $\pm$ 3.25	17.5 $\pm$ 4.88
7	9.0 $\pm$ 3.29	17.2 $\pm$ 5.16
8	8.8 $\pm$ 3.43	16.6 $\pm$ 5.42
9	8.6 $\pm$ 3.20	16.7 $\pm$ 5.28
10	8.8 $\pm$ 3.32	16.4 $\pm$ 5.40
11 ～ 12	8.3 $\pm$ 3.44	16.1 $\pm$ 5.54
1 ～ 12	9.1 $\pm$ 3.38	17.4 $\pm$ 4.98

出典：沼田公介，他：小児科診療 12，2921，1990.

●「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)：血清」基準値

正常参考値(nmol BCE/L)		判定基準(nmol BCE/L)
女 性	男 性40～59歳：9.5～17.7	骨量低下リスクのカットオフ値：13.6 骨折リスクのカットオフ値：16.5
	閉経前40～44歳：7.5～16.5	
	閉経後45～79歳：10.7～24.0	

出典：日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan 12：191，2004.
試薬添付文書

●「Dpyr(骨粗鬆症)」基準値

正常参考値(nmol/mmol・Cr)	判定基準(nmol/mmol・Cr)
男 性：2.1～5.4	骨量低下リスクのカットオフ値：5.9 骨折リスクのカットオフ値：7.6
女 性：2.8～7.6	

出典：日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan 12：191，2004.

●「E2/E3」基準値

		血清 (pg/mL)	
		E2	E3
男 性		14.6 ～ 48.8	5.00 以下
女 性	卵胞期	28.8 ～ 196.8	5.00 以下
	排卵期	36.4 ～ 525.9	5.00 以下
	黄体期	44.1 ～ 491.9	5.00 以下
	閉経後	47.0 以下	—
妊 婦	前 期	208.5 ～ 4289.0	20.0 ～ 100
	中 期	2808.0 ～ 28700.0	100 ～ 10,000
	後 期	9875.0 ～ 31800.0	10,000 ～ 40,000

●「アンドロステジオン/DHEA-S」基準値

年 齢	アンドロステジオン (ng/mL)	DHEA-S ($\mu\text{g}/\text{dL}$)
男 性	20～29歳	0.48 ～ 1.82
	30～39歳	0.42 ～ 1.52
	40～49歳	0.46 ～ 1.67
	50～59歳	0.41 ～ 1.57
女 性	20～29歳	0.64 ～ 2.34
	30～39歳	0.57 ～ 2.24
	40～49歳	0.28 ～ 1.35
	50～59歳	0.25 ～ 1.21

●「NTx(骨粗鬆症)」基準値

年齢(歳)		正常参考値(nmol BCE/mmol・Cr)*			判定基準(nmol BCE/mmol・Cr)
		閉経前女性	閉経後女性	男 性	
20 ～ 29	20 ～ 24	15.5 ～ 83.0		14.5 ～ 71.6	骨量低下リスクのカットオフ値：35.3 骨折リスクのカットオフ値：54.3
	25 ～ 29	13.1 ～ 62.5			
30 ～ 39	30 ～ 34	13.1 ～ 58.5		13.4 ～ 59.4	
	35 ～ 39	8.5 ～ 59.3			
40 ～ 49	40 ～ 44	7.6 ～ 51.7		13.4 ～ 61.7	
	45 ～ 49	9.1 ～ 51.4	15.2 ～ 101.9		
50 ～ 59	50 ～ 54	10.6 ～ 59.2	16.4 ～ 84.6	12.4 ～ 71.6	
	55 ～ 59		14.5 ～ 95.4		
60 ～ 69	60 ～ 64		15.0 ～ 79.7	16.0 ～ 82.9	
	65 ～ 69		11.7 ～ 85.5		
70 ～ 79	70 ～ 74		14.4 ～ 107.1	12.4 ～ 68.1	
	75 ～ 79		14.8 ～ 102.9		
		9.3 ～ 54.3 (30 ～ 44歳)	14.3 ～ 89.0 (45 ～ 79歳)	13.0 ～ 66.2 (40 ～ 59歳)	

*：正常参考値は、“mean $\pm$ 1.96S.D.”に基づく上・下限値として表示。

出典：日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan 12：191,2004.
福永仁夫，他：Osteoporosis Japan 9：265,2001.

●「17-KGS分画」基準値

分画成分	男性 (mg/day)	女性 (mg/day)
11-デオキシKGS	1.54 ~ 3.91	0.84 ~ 2.77
11-オキシKGS	3.86 ~ 13.8	3.25 ~ 8.10

●「プロジェステロン」基準値

(ng/mL)

男 性		0.6 以下
女 性	卵胞期	0.4 以下
	排卵期	3.7 以下
	黄体期	8.5 ~ 21.9
妊 婦	前 期	23.9 ~ 141
	中 期	25.7 ~ 143
	後 期	51.2 ~ 326

●「総エストロジェン・非妊婦」基準値

(μg/day)

男 性		2.00 ~ 20.0
女 性	卵胞期	3.00 ~ 20.0
	排卵期	10.0 ~ 60.0
	黄体期	8.00 ~ 50.0
	閉経後	10.0 以下

●「17-KS分画」基準値

	分画成分名	男性 (mg/day)	女性 (mg/day)
7 分 画	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
	エチオコラノロン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
	デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11- ケトアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下
	11- ケトエチオコラノロン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
	11- ハイドロキシアンドロステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
	11- ハイドロキシエチオコラノロン	0.54 以下	0.75 以下

●「ステロイド10分画」基準値

	分画成分名	男性 (mg/day)	女性 (mg/day)
ス テ ロ イ ド 1 0 分 画	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
	エチオコラノロン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
	デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11- ケトアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下
	11- ケトエチオコラノロン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
	11- ハイドロキシアンドロステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
	11- ハイドロキシエチオコラノロン	0.54 以下	0.75 以下
	プレグナンジオール	0.12 ~ 0.93	(卵胞期) 0.16 ~ 1.28 (黄体期) 0.69 ~ 4.70 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオール	0.25 ~ 1.48	(卵胞期) 0.07 ~ 1.24 (黄体期) 0.25 ~ 1.58 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオロン	0.5 以下	0.5 以下

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0431	ASK価 〈抗ストレプトキナーゼ〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集反応)	1280 以下 倍	29 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
0432	ASO価 〈抗ストレプトリジノ〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	156 以下 IU/mL	15 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0470	RPR 定性 〈梅毒血清反応〉定性	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	(一)	15 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
0483	RPR 〈梅毒血清反応〉定量	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	0.9 以下 R. U.	34 免疫	1 5 2	R. U. は従来の希釈倍数とおおよそ同じになるように設定された単位です。
		血清 0.5							
0473	TPHA 定性 〈梅毒トレポネーマ抗体〉定性	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	(一)	32 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
0476	TPHA 〈梅毒トレポネーマ抗体〉定量	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PHA 法 (受身赤血球凝 集反応)	80 未満 倍	53 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
3451	FTA-ABS 定性 〈梅毒検査〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	FAT 法	(一)	142 免疫	2 5 3	陽性の場合、確認検査を行うため、ご報告が遅れるときがあります。
		血清 0.4							
0442	マイコプラズマ抗体 《PA法》	血液 2	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集反応)	40 未満 倍	32 免疫	1 5 2	判定基準： ペア血清で4倍以上の上昇が見られた場合 1回の検査で320倍以上の抗体価の場合
		血清 0.4							
3284	マイコプラズマ抗体 《CF法》	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	1 免疫	3 5	
3305		血清 0.3 または 髄液 0.4	02						
0445	マイコプラズマ抗体IgM	血液 2	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	(一)	32 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
9162	マイコ核酸同定LAMP	咽頭・鼻咽頭 ぬぐい液 または 唾液 1	69	-20℃以下 凍結	LAMP法	(一)	300 微生物	2 5 3	必ず指定容器使用 脚注参照＊1
0443	寒冷凝集反応	血液 2	01	常温 (4週)	赤血球凝集反応	64以下 倍	11 免疫	1 5 2	採血後、速やかに血清分離して保存して下さい。(血清分離までは、37℃で保存)
		血清 0.5							
3313	百日咳菌抗体 《EIA法》	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	PT-IgG 10 未満 EU/mL FHA-IgG 10 未満	272 免疫	3 5	
		血清 0.3							
3323	トキソプラズマIgG	血液 1	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	陰性(一) 1.6 未満 IU/mL	93 免疫	2 5 3	判定保留1. 6≤, <3. 0 陽性3. 0≤
		血清 0.3							
3322	トキソプラズマIgM	血液 1	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	陰性(一) 0.83 未満 S/CO	95 免疫	2 5 3	判定保留0. 83≤, <1. 00 陽性1. 00≤
		血清 0.3							

＊1：必ず遺伝子検査専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けてください)

❶：「マイコプラズマ抗体」と「マイコプラズマ抗原(免疫クロマト法)(FA法)」を併せて実施した場合は、主たるものののみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3378	エンドキシン定量 《ES法》	血液 3	51	凍結不可 冷蔵 (5日)	比濁時間分析法	pg/mL 5.0 未満	250 免疫 ①	2 ↓ 3	必ず指定容器使用 脚注参照*1
0193	透析液エンドキシン	透析液 4	70	冷蔵 (1週)	カイネティック 比色法	EU/mL	—		必ず指定容器使用
3360	β-D-グルカン 〈(1→3)-β-D-グルカン〉	血液 2	51	凍結不可 冷蔵 (5日)	発色合成基質法	pg/mL 20 以下	213 免疫 ②③	2 ↓ 3	必ず指定容器使用 脚注参照*1
3350	ツツガ虫ギリアム 〈Gilliam〉	IgG					213 免疫 ④	5 ↓ 8	
3351		IgM							
3348	ツツガ虫カトー 〈Kato〉	IgG	01	凍結	FAT 法	IgG 10 倍 IgM 10 倍 (最低希釈倍率)	213 免疫 ④		
3349		IgM							
3346	ツツガ虫カープ 〈Karp〉	IgG					213 免疫 ④		
3347		IgM					213		
3631 3640	オーム病抗体 〈クラミドフィラ(クラミジア)・ シッタシ抗体〉	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	冷蔵	CF 法	血清 4倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 免疫 ⑤	3 ↓ 5	
3357	カンジダ抗原	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	ラテックス凝集法	陰性(ー) タイター 2 未満	138 免疫 ③⑥	2 ↓ 3	
3260	アスペルギルス抗原	血液 3 血清 0.7	01	凍結 (5週)	EIA 法口	陰性(ー)	164 免疫 ③⑦	2 ↓ 4	ピペラシリン/タゾバクタム合剤 投与患者では陽性となる場合が あります。 52頁参照
3334	アスペルギルス抗体	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (2週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	—	3 ↓ 5	

*1 : 検体はエンドキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取して下さい〔微生物学検査〕血液培養の採血方法をご参考にして下さい。

- ① : 「エンドキシン」、「プロカルシトニン」、「プレセプシン」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ② : 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択、または深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定できます。
- ③ : 「(1→3)-β-D-グルカン」、「カンジダ抗原」、「D-アラビニートール」、「アスペルギルス抗原」または「クリプトコックス抗原」と併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ④ : 各株ごとに算定します。
- ⑤ : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- ⑥ : カンジダ血症またはカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定できます。
- ⑦ : 侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3279	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgA	血液 2	01	冷蔵	EIA 法口	陰性(－) 8 未満	EIU 70 免疫 ①②	3 5	判定保留8～12 陽性13≤
		血清 0.4							
	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgG	血液 2	01	冷蔵	EIA 法口	陰性(－) 30 未満	EIU 75 免疫 ①②	3 5	判定保留30～45 陽性46≤
		血清 0.4							
	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgM	血液 2	01	冷蔵	EIA 法口	陰性(－) 0.5 未満	S/CO 160 免疫 ①③	3 5	判定保留0.5～1.1 陽性1.2≤
		血清 0.4							
	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA 《TaqManPCR法》	初尿 または ぬぐい液 4.5	86	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法	検出せず	204 微生物 ④⑤	2 3	必ず指定容器使用 専用容器は予めご依頼下さい。
	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA(うがい液) 《TaqManPCR法》	うがい液 4.5	86	冷蔵			204 微生物 ④⑤		
	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA 《SDA法》	初尿 または ぬぐい液 3	12	冷蔵			204 微生物 ④⑤		
	淋菌同定DNA 《TaqManPCR法》	初尿 または ぬぐい液 4.5	86	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法	検出せず	204 微生物 ⑤⑥⑦	2 3	必ず指定容器使用 専用容器は予めご依頼下さい。
		うがい液 4.5	86	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法		204 微生物 ⑤⑦		
		初尿 または ぬぐい液 3	12	冷蔵	SDA 法		204 微生物 ⑤⑥⑦		
5529	H. ピロリ抗体 *1	血液 1	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	陰性(－) (10 U/mL 未満)	80 免疫 ⑧	2 3	
		血清 0.3							
5569	便中ヘリコバクター・ピロリ 抗原 *2	糞便	76	冷蔵	EIA 法口	(－)	146 免疫 ⑧	2 3	必ず指定容器使用 52頁参照
0494	尿素呼気試験 (UBT)	呼気 120mL 以上	32	常温	赤外分光分析	△13C(‰) 2.5 未満	70 微生物 ⑧	1 2	必ず指定容器使用 52頁参照
4247	プレアルブミン	血液 1	01	冷蔵	TIA 法	mg/dL 22 ～ 40	107 免疫	2 3	
		血清 0.3							

*1：除菌判定は、除菌後6ヶ月以降。

*2：除菌判定は、除菌後4週以降。

- ①：「クラミジア・ニューモニエ抗体」IgMをIgA・IgGと併せて実施した場合は、主たるもののみ算定となります。
- ②：保険請求の際は「クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体」および「クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体」とご記入下さい。
- ③：保険請求の際は「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体」とご記入下さい。
- ④：「クラミジア・トラコーマチス核酸検出」と「クラミジア・トラコーマチス抗原定性」を併用した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。
- ⑤：泌尿器・生殖器または咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できます。
- ⑥：尿検体での適用は男子尿のみで、女子尿には適用されません。
- ⑦：「淋菌核酸検出」、「淋菌抗原定性」と「細菌培養同定検査」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑧：ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行う必要があります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0255	尿ALB・CRE補正	尿 10	25	冷蔵	TIA 法	mg/g・cr 27 未満	105 尿便 ①	1 1 2	
4231	α1マイクログロブリン (α1M)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/L 9.1 ~ 18.4	140 免疫	2 1 3	
4232		血清 0.5				mg/L 8.3 以下			
0485	β2-m (β2-マイクログロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/L 0.8 ~ 2.0	107 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							
0486	(尿) β2-m (β2-マイクログロブリン)	尿 5	25	冷蔵 (3週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/L 30 ~ 340	107 免疫	1 1 2	尿はPH5.5~7.5をご確認の上、ご 提出下さい。 酸性蓄尿は不可。
0210	フェリチン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ECLIA 法	ng/mL M 39.9 ~ 465.0 F 6.2 ~ 138.0	111 生i	1 1 2	
		血清 0.5							
4239	ハプトグロビン(Hp) 型判定	血液 1	01	冷蔵	TIA 法/ 薄層アクリルアミ ドゲル 電気泳動法	mg/dL 1-1型 43 ~ 180 2-1型 38 ~ 179 2-2型 15 ~ 116	140 免疫	4 1 5	感度(10mg/dL)未満の場合は 型判定不能でご報告致します。
		血清 0.3							
4235	α2マクログロブリン	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ネフェロメトリー法	mg/dL M 100 ~ 200 F 130 ~ 250	138 血液	2 1 6	
		血清 0.4							
4238	α1アンチトリプシン (α1AT)	血液 2	01	冷蔵	ネフェロメトリー法	mg/dL 94 ~ 150	80 血液	2 1 6	
		血清 0.4							
0434	CRP (C反応性蛋白)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/dL 0.30 以下	16 免疫 ②	1 1 2	
		血清 0.5							
1959	アミロイドA (SAA)	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL 8.0 以下	47 免疫 ②	2 1 3	
		血清 0.5							
4237	セルロプラスミン (Cp)	血液 2	01	冷蔵	ネフェロメトリー法	mg/dL 21 ~ 37	90 免疫	2 1 3	
		血清 0.4							
0449	C3 (β1C/β1Aグロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (1日)	免疫比濁法	mg/dL 86 ~ 160	70 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							
0450	C4 (β1Eグロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	免疫比濁法	mg/dL 17 ~ 45	70 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							
0457	CH50 (血清補体価)	血液 2	01	凍結	Mayer法相対 比濁法	CH50/mL 30.0 ~ 46.0	38 免疫	1 1 2	血清分離は凍結保存願います。
		血清 0.5							
2314	Mac2結合蛋白 (Mac2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	陰性(-) (C.O.I) 1.00未満	194 生i ③④	2 1 3	陰性(-) 1.00未満 陽性(1+) 1.00~2.99 陽性(2+) 3.00以上
		血清 0.3							

- ① : 「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」、「尿中IV型コラーゲン」は、糖尿病患者または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限り)に対して行った場合に、3月に1回に限り主たる項目のみ算定できます。
- ② : 「アミロイドA」を「CRP定性」または「CRP定量」と併せて測定した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ③ : 「ATX」、「M2BPGi」、「P-Ⅲ-P」、「IV型コラーゲン」、「IV型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ④ : 慢性肝炎または肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
6749	ニューモシスチス・カリニー DNA同定	呼吸器系材料	55	-20℃以下 凍結	PCR 法	検出せず	—	5 7	必ず指定容器使用 脚注参照*1
4275	トランスフェリン (Tf)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (1週)	TIA 法	mg/dL 190 ~ 320	60 免疫	2 3	
4280	尿中トランスフェリン	尿 1	25	凍結不可 冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/g・cr 1.0 以下	107 尿便 ①	2 3	
4283	クリオグロブリン	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (4週)	ゲル内拡散法	(—)	42 免疫	4 5	血清分離の際は冷却遠心を避けて下さい。
1911	ミオグロビン	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (1週)	CLIA 法	ng/mL M 154.9以下 F 106.0以下	143 生I ②	2 3	
1912		尿 6	73	冷蔵 (10日)	RIA 法	ng/mL 10 以下	143 生I ②	2 4	必ず指定容器使用 検体は、必ず安定化剤入り専用 容器にてご提出下さい。
1914	心室筋ミオシン軽鎖 I	血液 2 血清 0.4	01	凍結 (12週)	EIA 法	ng/mL 2.5 以下	184 生I ③	2 5	
2029	高感度 心筋トロポニンI	血液 2 血清 0.5	01	凍結	CLIA 法	pg/mL 26.2 以下 急性心筋梗塞のカットオフ値: 26.2	117 生I ④	2 3	
2281	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (1ヶ月)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	ng/mL 5.0 以下	143 生I ④	2 9	
1913	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (12週)	IRMA 法 (チューブ固相 法)	U/mL 0.3 ~ 0.8	140 生I ⑥	3 5	
1910	Ⅳ型コラーゲン	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	ng/mL 150 以下	143 生I ⑥	2 3	
1964	尿中Ⅳ型コラーゲン	尿 5 (早朝起床時第一尿)	75	凍結不可 冷蔵 (4週)	EIA 法	早朝一番尿 $\mu\text{g/g}\cdot\text{cr}$ 40歳以上 4.9 以下 30歳代 4.0 以下 随時尿 7.3 以下	194 尿便 ①	3 9	必ず指定容器使用 必ず安静就寝後の起床時に採 取した尿を専用容器にてご提出 下さい。 脚注参照*2
4350	TARC	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵	CLEIA 法	pg/mL 44頁参照	189 免疫 ⑦	2 3	中等症以上のアトピー性皮膚炎 の目安は、成人700pg/mL以上、 小児(2歳以上)760pg/mL以上 です。
1967	肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	血液 1 血清 0.3	01	凍結	EIA 法	ng/mL 110 未満	136 生I ③	3 5	

*1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)

*2 : 随時尿参考基準値: 7.3 $\mu\text{g/g}\cdot\text{Cr}$ 以下

- ① : 「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」、「尿中Ⅳ型コラーゲン」は、糖尿病患者または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限り)に対して行った場合に、3月に1回に限り主たる項目のみ算定できます。
- ② : 「H-FABP」、「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ③ : 同一の患者で同一日に2回以上検査を行った場合は、1回のみ算定できます。
- ④ : 「心筋トロポニンT」と「心筋トロポニンI」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑤ : 急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合のみ算定できます。
- ⑥ : 「ATX」、「M2BPGI」、「P-Ⅲ-P」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」もしくは「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑦ : 月1回を限度として算定が可能です。
- ⑧ : 「KL-6」、「SP-A」および「SP-D」のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
4286	IgG インデックス	血液 3 血清 0.7 *1 髄液 0.7	01	冷蔵	TIA 法/ ネフェロメトリー 法	インデックス 0.73 以下	426 尿便 ①	2 3	インデックスの算出方法は次の通りです。 IgGインデックス=(髄液IgG/髄液アルブミン)/(血清IgG/血清アルブミン)
7054	抗アクアポリン4抗体	血液 1 血清 0.3	01	凍結 (2週)	EIA 法	U/mL 3.0 未満	1000 免疫 ②③	3 9	
4300	オリゴクローナルバンド 《等電点電気泳動法》	血液 2 血清 0.4 *1 髄液 0.4	01	冷蔵 (4週)	等電点電気泳動法	本 陰性:バンド数 0 ~ 1 *2	538 尿便 ①	5 8	
0495	IgG	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL 870 ~ 1700	38 免疫 ④	1 2	
0496	IgA	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL 110 ~ 410	38 免疫 ④	1 2	
0497	IgM	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL M 33 ~ 190 F 46 ~ 260	38 免疫 ④	1 2	
0501	IgE(非特異的IgE)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法	IU/mL 44頁参照	100 免疫	2 3	
	IgE(特異的IgE)	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法	UA/mL 0.35 未満	各110 免疫	2 3	アレルギー一覧表は46頁参照 判定基準は44頁参照
0502	アトピー鑑別試験	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法	(一)	194 免疫 ⑥	2 3	構成アレルギー内容は45頁参照
0498	RAST-16吸入系	血液 3 血清 1	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法		1430 免疫 ⑤	2 3	構成アレルギー内容は45頁参照
0499	RAST-16食餌系	血液 3 血清 1	01	冷蔵 (1週)	FEIA 法		1430 免疫 ⑤	2 3	構成アレルギー内容は45頁参照
4703	View アレルギー39	血液 3 血清 0.9	01	冷蔵	FEIA 法	(index) 0.27 未満	1430 免疫 ⑤	3 4	構成アレルギー内容は45頁参照 判定基準は45頁参照 脚注参照 *3

*1 : インデックス、IgG髄液、IgG血清、アルブミン髄液、アルブミン血清の値をご報告致します。
 *2 : バンド数1本とは、血清中には無く、髄液中にのみ検出されるバンドを意味します。
 *3 : アレルギー39種に対し、検査優先順位の指定はお受けできませんので、予めご了承下さい。

- ① : 「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」、「ミエリンベースック蛋白(MBP)」は多発性硬化症の診断を目的に行った場合に算定できます。
 ② : 視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く)を目的として測定した場合に算定できます。
 ③ : 検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、検査を再度実施した場合においても算定できます。ただし、この場合、前回の検査実施日および検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。
 ④ : 「IgG」、「IgA」、「IgM」および「IgD」を測定した場合に、それぞれの実施料を算定できます。
 ⑤ : アレルギー1項目毎に実施料110点を適用、但し、同一検体について、複数のアレルギー特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1,430点が限度となります。
 ⑥ : 保険請求の際は、「アトピー鑑別試験定性」とご記入ください。

●「特異的IgE」判定基準

IgE抗体濃度 (U _A /mL)	クラス	判 定	
0.35 未満	0	陰 性	(-)
0.35 ~ 0.69	1	疑陽性	(±)
0.70 ~ 3.49	2	陽 性	(1+)
3.50 ~ 17.49	3		(2+)
17.50 ~ 49.99	4		(3+)
50.00 ~ 99.99	5		(4+)
100.00 以上	6		(5+)

●「非特異的IgE」判定基準(年齢別参考基準)

年 齢	IgE抗体濃度 (IU/mL)
1歳 未満	1.36 ~ 19.32
1歳 ~ 3歳	5.24 ~ 29.99
4歳 ~ 6歳	5.19 ~ 111.94
7歳 ~ 9歳	13.12 ~ 141.91
10歳 ~ 12歳	11.09 ~ 171.79
13歳 ~ 18歳	24.72 ~ 126.77
19歳 以上	27.54 ~ 138.34

●「Ara h 2」判定基準

IgE抗体濃度 (U _A /mL)	判 定
0.35 未満	陰 性
0.35 ~ 3.99	疑陽性
4.00 以上	陽 性

※(クラス報告は行いません)

検査結果が陽性の場合、問診および「ピーナッツ」の検査結果と併せて、総合的なご判断をお願いします。

●「TARC」基準値

年 齢	(pg/mL)
小 児 (6 ~ 12 ヶ月未満)	1367 未満
小 児 (1 ~ 2歳未満)	998 未満
小 児 (2歳以上)	743 未満
成 人	450 未満

※中等症以上のアトピー性皮膚炎の目安は、成人700pg/mL以上、小児(2歳以上)760pg/mL以上です。

●アレルギーセット内容

項目コード	0498	0499	セット番号	S-57	S-58	S-59	S-60
項目名	RAST-16吸入系	RAST-16食餌系	セット名	小児13	皮膚炎13	喘息13	鼻炎13
検査項目	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 マルチアレルゲンカビ すぎ ひのき はんのき(属) ぶたくさ よもぎ はるがや おおあわがえり かもがや ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ユスリカ(成虫) ガ ゴキブリ	卵白 ミルク オボムコイド 小麦 大豆 そば ゴマ かに えび マグロ サケ イクラ キウイ パナナ クルミ ピーナッツ	検査項目	えび ヤケヒョウヒダニ 卵白 ミルク 小麦 そば 大豆 ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ピーナッツ オボムコイド イクラ イワシ	かに えび ヤケヒョウヒダニ 小麦 そば ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) カンジダ すぎ ビティロスポリウム ピーナッツ サバ ガ	マルチアレルゲン雑草 ヤケヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) アスペルギルス カンジダ アルテルナリア すぎ かもがや ひのき ユスリカ(成虫) ガ ゴキブリ	マルチアレルゲンカビ ヤケヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ぶたくさ よもぎ すぎ かもがや ひのき ユスリカ(成虫) ガ はんのき(属) ゴキブリ

●「View アレルギー 39」構成アレルゲン

項目コード	4703
構成アレルゲン	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハンノキ(属) シラカンバ(属) カモガヤ オオアワガエリ ブタクサ ヨモギ アルテルナリア アスペルギルス カンジダ マラセチア(属) ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ゴキブリ ガ ラテックス ミルク 卵白 オボムコイド 米 小麦(実) ソバ 大豆 ピーナッツ リンゴ パナナ キウイ ゴマ 牛肉 豚肉 鶏肉 エビ カニ サバ サケ マグロ

※各39項目について、個々のindex値とクラスをご報告致します。
判定基準は、従来の「特異的IgE」とは異なります。

●「View アレルギー 39」判定基準

index値	クラス	判定
0.27未満	0	陰性
0.27 ~ 0.49	1	疑陽性
0.50 ~ 1.79	2	陽性
1.80 ~ 7.04	3	
7.05 ~ 17.34	4	
17.35 ~ 29.30	5	
29.31以上	6	

●「特異的吸入性アレルゲン」混合アレルゲンの内容

項目コード	0502
項目名	アトピー鑑別試験
混合アレルゲン	ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ぎょうぎしば かもがや ぶたくさ よもぎ しらかんば(属) すぎ カンジダ アルテルナリア

※個々のアレルゲンにおける陰性/陽性の別を判定することはできません。

●「シングル/マルチアレルゲン」項目一覧

アレルギー名		項目コード	アレルギー名	アレルギー名	項目コード	アレルギー名	
室内塵				職業性アレルギー			
0524	ハウスダスト 1	4861	へらおおぼこ	5017	絹	5027	アワ
0526	ハウスダスト 2	4862	しろざ	5045	綿	5028	ヒエ
		4869	ひめすいば	5079	オオバコ種子	9311	ゴマ
ダニ		4871	いらくさ（属）	5071	イソシアネートTDI	0538	そば
0520	ヤケヒョウヒダニ			5072	イソシアネートMDI	0540	大豆
0522	コナヒョウヒダニ	真菌 / 細菌		5081	イソシアネートHDI	5141	Gly m 4（大豆由来）
4894	アシプトコナダニ	0546	ペニシリウム	5083	エチレンオキシサイド	4948	えんどう
4895	サヤアシシクダニ	0548	クラドスポリウム	5055	無水フタル酸	4951	いんげん豆
4896	ケナガコナダニ	0550	アスペルギルス	5073	ラテックス	4952	はしばみの実
		0552	カンジダ	5143	Hev b 6.02(ラテックス由来)	0914	ピーナッツ
樹木花粉		0554	アルテルナリア	5075	ホルマリン	5198	Ara h 2（ピーナッツ由来）*1
0560	すぎ	0910	ピティロスポリウム			4953	ブラジルナッツ
0566	ひのき	0912	トリコフィトン	薬物		4963	ココナッツ
0920	オリーブ	4901	ムコール	5044	ヒトインスリン	5137	カシューナッツ
4872	かえで（属）	4905	ヘルミントスポリウム	0918	ゼラチン	5145	Ana o 3（カシューナッツ由来）
9303	はんのき（属）	5139	マラセチア（属）			4954	アーモンド
4874	しらかんば（属）	5113	SEAトキシン(黄色ブドウ球菌A)			5037	カカオ
4876	ぶな（属）	5115	SEBトキシン(黄色ブドウ球菌B)			9317	クルミ
4877	びやくしん（属）			食 品		5147	Jug r 1（クルミ由来）
4878	こなら（属）	動 物		0528	卵白	4944	とうもろこし
4879	にれ（属）	0542	ネコ皮膚（フケ）	0536	卵黄	5024	タケノコ
4881	くるみ（属）	0544	イヌ皮膚（フケ）	9301	オボムコイド	4962	じゃがいも
4883	やなぎ（属）	5089	ウマ皮膚（フケ）	0530	ミルク	5025	サツマイモ
4886	まつ（属）	5091	ウシ皮膚（フケ）	0574	チーズ	5129	ヤマイモ
4889	アカシア（属）	5005	ヤギ上皮	5099	モールドチーズ	5039	カボチャ
4891	くわ（属）	5006	羊上皮	0516	かに	4969	にんにく
		5007	家兎上皮	0518	えび	4970	たまねぎ
イネ科花粉		5008	豚上皮	4977	ロブスター	4981	セロリ
0562	はるがや	5009	ハムスター上皮	5029	イカ	4982	パセリ
0564	かもがや	5009	ハムスター上皮	5030	タコ	4960	にんじん
0578	おおあわがえり	4993	モルモット上皮	0570	マグロ	5035	ほうれん草
4921	ぎょうぎしば	5012	ラット	0572	サケ	4957	トマト
4923	ひろはうしのけ草	5013	マウス	0916	サバ	5133	スイカ
4924	ほそむぎ	4995	ガチョウ羽毛	4939	タラ	5103	アボガド
4926	あし	5010	ニワトリ羽毛	5032	アジ	5101	洋ナシ
4927	ながは草	5011	アヒル羽毛	9309	イワシ	4971	リンゴ
4928	こめか草（属）	5003	セキセイインコ羽毛	5038	カレイ	5018	桃
4929	せいばんもちこし	5002	セキセイインコのふん	5125	カキ（牡蠣）	4961	オレンジ
4934	小麦（属）			5127	ホタテ	5069	グレープフルーツ
4935	オオスズメノテッポウ	昆 虫		5123	アサリ	9315	バナナ
4936	すずめのひえ（属）	0922	ユスリカ（成虫）	4964	ムラサキガイ	9313	キウイ
		0924	ガ	9305	イクラ	4983	メロン
雑草花粉		4914	ミツバチ	5121	タラコ	4987	マンゴ
0556	ぶたくさ	4915	スズメバチ	4958	豚肉	4967	いちご
0558	よもぎ	4916	アシナガバチ	0568	牛肉	4985	マスタード
0926	アキノキリンソウ	4916	アシナガバチ	4984	羊肉	4973	α-ラクトアルブミン
0928	カナムグラ	9307	ゴキブリ	0576	鶏肉	4974	β-ラクトグロブリン
4854	ぶた草もどき	4918	ヤブカ（属）	0532	小麦	4975	カゼイン
4855	おおぶた草			0534	米	4976	グルテン
4857	にがよもぎ	寄 生 虫		5135	ω- 5 グリアジン	4986	麦芽
4859	フランス菊	5014	RAST 回虫	4941	ライ麦（食物）	4968	ビール酵母
4860	たんぽぽ（属）	5021	アニサキス	4942	大麦（食物）		
				4943	オート麦（食物）		
				5026	キビ		

アレルギー1項目毎に実施料110点を適用。但し、同一検体について、複数のアレルギー特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1,430点が限度となります。

マルチアレルゲン検査は、複数アレルゲンの混合物を用いておおまかなカテゴリーとしての原因アレルゲン検索を行うものであり、個々のアレルゲンにおける陰性/陽性の別を判定することはできません。

*1:「Ara h 2」は他のシングルアレルゲンとは判定基準および報告形態が異なります。(44頁参照)

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0436	RF定量 (リウマトイド因子)		血液 2	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	IU/mL 15 以下	30 免疫 ①②	1 ↓ 2	
			血清 0.5							
4334	IgG-RF (IgG型リウマチ因子)		血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	(IgG-RF index) 2.0 未満	203 免疫 ①③	3 ↓ 5	
			血清 0.3							
5559	抗ガラクトース欠損IgG抗体 (CA・RF)		血液 1	01	凍結 (4週)	ECLIA 法	AU/mL 6.0 未満	117 免疫 ①②③	3 ↓ 5	
			血清 0.3							
5498	抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)		血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	U/mL 4.5 未満	210 免疫 ③④⑤	2 ↓ 3	
			血清 0.4							
5382	抗核抗体 (ANA)		血液 2	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	40 倍 未満	105 免疫	2 ↓ 3	
			血清 0.4							
5381	抗DNA抗体		血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法 (硫酸塩析法)	IU/mL 6 以下	172 免疫 ⑥	2 ↓ 3	
			血清 0.3							
5397	抗ds DNA抗体 IgG		血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	IU/mL 12.0 以下	172 免疫 ⑥	2 ↓ 3	
			血清 0.4							
5399	抗dsDNA抗体 IgM		血液 1	01	冷蔵 (12週)	EIA 法	U/mL 6 未満	—	2 ↓ 8	
			血清 0.3							
5450	抗ss DNA抗体 IgG		血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	AU/mL 25.0 以下	172 免疫 ⑥	2 ↓ 3	
			血清 0.4							
5433	抗RNP抗体	《免疫 拡散法》	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	倍 検出せず	144 免疫	4 ↓ 5	
5613		《CLEIA》	血清 各0.4			CLEIA 法	U/mL 10.0 未満		2 ↓ 3	
5429	抗Sm抗体	《免疫 拡散法》	血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	倍 検出せず	155 免疫	4 ↓ 5	
5609		《CLEIA》	血清 各0.4			CLEIA 法	U/mL 10.0 未満		2 ↓ 3	

- ① : 「リウマトイド因子定量」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目の算定ができます。
- ② : 「リウマトイド因子定量」と「抗ガラクトース欠損IgG抗体」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ③ : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定ができます。
- ④ : 関節リウマチと確定診断できない者に対し診断の補助として検査を行った場合に、原則1回を限度として算定できます。結果が陰性の場合は3月に1回に限り算定ができます。検査を2回以上算定する際は、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。
- ⑤ : 診断補助として実施する場合とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき1回に限り算定できます。
- ⑥ : 実施料は、「抗DNA抗体(定量)」として一連の算定となります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
5421	抗SS-A抗体	《免疫 拡散法》 血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	倍 検出せず	163	4 5	
5601		《CLEIA》 血清 各0.4			CLEIA 法	U/mL 10.0 未満	免疫	2 3	
5425	抗SS-B抗体	《免疫 拡散法》 血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	倍 検出せず	161	4 5	
5605		《CLEIA》 血清 各0.4			CLEIA 法	U/mL 10.0 未満	免疫	2 3	
5439	抗Scl-70抗体	《免疫 拡散法》 血液 各2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	倍 検出せず	162	4 5	
5617		《CLEIA》 血清 各0.4			CLEIA 法	U/mL 10.0 未満	免疫	2 3	
5452	抗Jo-1抗体 《免疫拡散法》	血液 2	01	冷蔵 (7日)	免疫拡散法	陰性 (－) 1 倍 未満	144 免疫 ①	3 5	
		血清 0.4							
1267	抗ARS抗体	血液 1	01	冷蔵 (18日)	EIA 法	陰性 (－) index 25.0 未満	190 免疫 ①	3 9	
		血清 0.3							
5461	抗セントロメア抗体	血液 2	01	冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満	184 免疫 ②	2 3	
		血清 0.4							
5471	抗ミトコンドリア抗体	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	20 倍 未満	191 免疫 ③	2 4	
		血清 0.3							
5530	抗ミトコンドリアM2抗体	血液 2	01	冷蔵	CLEIA 法	陰性 (－) index 7.0 未満	200 免疫 ③	2 3	
		血清 0.4							
5475	抗平滑筋抗体	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	20 倍 未満	—	2 4	
		血清 0.3							
5528	抗LKM-1抗体	血液 2	01	冷蔵	EIA 法	陰性 (－) index 17.0 未満	221 免疫 ④⑤	3 9	判定保留 17.0 ≤, < 50.0 陽性 50.0 ≤
		血清 0.4							

① : 「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定できます。

② : 原発性胆汁性肝硬変または強皮症の診断または治療方針の決定を目的に用いた場合にのみ算定できます。

③ : 保険請求の際はそれぞれ次のご記入下さい。[5471]抗ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体半定量。[5530]抗ミトコンドリアM2抗体→抗ミトコンドリア抗体定量

④ : ウイルス肝炎、アルコール性肝障害および薬剤性肝障害が否定され、かつ抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。

⑤ : 検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載する必要があります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
5457	PR3-ANCA 〈抗好中球細胞質抗体〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	IU/mL 陰性(-) 2.0未満	275 免疫	2 5 3	疑陽性2.0~3.0 陽性3.1≤ EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査 可。
		血清 0.4							
6655	MPO-ANCA 〈抗好中球細胞質ミエロ ペルオキシダーゼ抗体〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	IU/mL 陰性(-) 3.5未満	273 免疫 ①	2 5 3	疑陽性3.5~5.0 陽性5.1≤ EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査 可。
		血清 0.4							
5481	抗糸球体基底膜抗体 〈抗GBM抗体〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	FEIA 法	U/mL 陰性(-) 7.0未満	277 免疫 ②	2 5 3	疑陽性7.0~10.0 陽性10.1≤ EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査 可。
		血清 0.4							
5482	抗胃壁細胞抗体 〈抗パリエタル細胞抗体〉	血液 1	01	冷蔵 (2週)	FAT 法	10 倍 未 満	—	4 5 6	
		血清 0.3							
5531	抗CLB2GPI抗体 〈抗カルジオリピンβ ₂ グリコプロテインI複合体抗体〉	血液 1	01	凍結	EIA 法	U/mL 3.5 以下	223 免疫 ③	2 5 4	
		血清 0.3							
5555	抗CLリピン抗体(IgG) 〈抗カルジオリピン抗体〉	血液 2	01	凍結	EIA 法	U/mL 10.0 未 満	239 免疫 ③	3 5 6	
		血清 0.4							
5504	抗アセチルコリン レセプター結合抗体 〈抗AChR抗体〉	血液 1	01	凍結	RIA 法 (抗ヒトIgG法)	nmol/L 陰性 (-) 0.2 以下	847 免疫 ④⑤	3 5 6	疑陽性0.2<, ≤0.5 陽性0.5<
		血清 0.3							
1236	抗MuSK抗体 〈抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体〉	血液 1	01	凍結	RIA法	nmol/L 0.02未満	1000 免疫 ④⑤	3 5 9	
		血清 0.3							
4282	ミエリンベースック蛋白 〈MBP〉	髄液 0.3	02	凍結	EIA 法	pg/mL 102 以下	593 尿便 ⑥	3 5 9	
5410	免疫複合体(C1q)	血液 1	01	-20℃以下 凍結 (8週)	EIA 法	μg/mL 3.0 以下	161 免疫 ⑦⑧	2 5 4	
		血清 0.3							
5437	抗血小板抗体	血液 2	01	凍結 (8週)	MPHA 法	(一)	262 免疫	3 5 5	
		血清 0.5							
4327	PA-IgG 〈血小板表面IgG〉	血液 7 保存液加血液	52	冷蔵	EIA 法	ng/10 ⁷ cells 30.2 以下	204 免疫 ⑨	2 5 3	受付曜日:月~金曜日(午前中) ≪土曜日受付不可≫ 脚注参照*1,2

*1 : 血小板数が1~3万/μLの場合は、2倍量の血液をご提出下さい(専用採血管2本使用)。1万/μL以下の場合は当社担当者までお問合せ下さい。

*2 : 検体採取後、24時間以内に当社検査室に搬入されるようお願い致します。

- ① : 急速進行性糸球体腎炎の診断、または経過観察のために測定した場合に算定できます。
- ② : 抗糸球体基底膜抗体腎炎およびグッドパスチャー症候群の診断または治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定できます。
- ③ : 「抗カルジオリピン抗体」と「抗CLβ₂GPI複合体抗体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ④ : 重症筋無力症の診断または診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できます。
- ⑤ : 「抗アセチルコリンレセプター抗体」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑥ : 「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」、「ミエリンベースック蛋白(MBP)」は多発性硬化症の診断を目的に行った場合に算定できます。
- ⑦ : 「リウマトイド因子」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目の算定ができます。
- ⑧ : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定ができます。
- ⑨ : 特発性血小板減少性紫斑病の診断または経過判定の目的で行った場合に算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0463	ABO血液型	血液 2	95	常温	カラム凝集法		24 免疫	1 ↓ 2	
0464	Rh(D)血液型	血液 2	95	常温	カラム凝集法		24 免疫	1 ↓ 2	
5543	Rh-Hr式血液型	血液* 2 * EDTA加血液	13	凍結不可 冷蔵	カラム凝集法		156 免疫 ①	2 ↓ 3	
0458	直接クームス試験	血液 2	13	常温	試験管法	(一)	34 免疫	1 ↓ 2	他の項目とは別に,単独検体にて ご提出下さい。
0459	間接クームス試験	血液 5	03	常温	試験管法	(一)	47 免疫	1 ↓ 2	他の項目とは別に,単独検体にて ご提出下さい。
0460	間接クームス試験 定量	血液 5	03	常温	試験管法	1 未満 倍	47 免疫	1 ↓ 2	他の項目とは別に,単独検体にて ご提出下さい。
0461	不規則性抗体	血液* 7 * EDTA加血液	98	常温	カラム凝集法 (クームス法,酵素 法)		159 免疫 ②③	2 ↓ 3	他の項目とは別に,単独検体にて ご提出下さい。
4233	免疫電気泳動 〈抗ヒト全血清による定性〉	血液 2 血清 0.5	01		免疫電気泳動法		170 免疫 ④⑤	4 ↓ 7	泳動後の判読のため,年齢・性 別・臨床診断名あるいは臨床症 状・その他参考データ等を明記し て下さい。
4250	免疫電気泳動 〈免疫固定法によるM蛋白同定〉	血液 1 血清 0.3	01	冷蔵	免疫固定 電気泳動法	検出せず	230 免疫 ④⑤	3 ↓ 5	ベンス・ジョーンズ蛋白同定には 早朝尿が望ましいです。 検査結果は,「検出せず」もしくは 「M蛋白」と報告致します。 なお,「M蛋白」の場合,そのM蛋 白の種類も併せて報告致しま す。
4246	尿中免疫電気泳動 〈免疫固定法による ベンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定〉	尿 5	25		免疫固定 電気泳動法		203 免疫		

- ① : Rh(その他の因子)血液型については,同一検体による検査の場合は因子の種類および数にかかわらず所定点数を算定します。
- ② : 輸血歴または妊娠歴のある患者に対し,胸部手術,心・脈管手術,腹部手術または子宮全摘術,子宮悪性腫瘍手術,子宮附属器悪性腫瘍手術(両側),帝王切開または異所性妊娠手術が行われた場合,手術当日に算定できます。また,手術に際して輸血が行われた場合は,不規則抗体または輸血に定められる不規則抗体検査加算のいずれかを算定します。
- ③ : 診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者または妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載して下さい。
- ④ : 同一検体につき一回に限り算定できます。
- ⑤ : 「免疫電気泳動(抗ヒト全血清)」および「免疫電気泳動(免疫固定法)」を併せて行った場合は,主たるもののみ算定できます。



「アスペルギルス抗原」検査結果の判定に関する注意

- 1) 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本検査の結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行ってください。
- 2) 陽性と判定された場合には、再採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
- 3) 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
 - ①感染初期に、臨床症状や画像所見等よりも先に、アスペルギルス抗原(ガラクトマンナン)が陽性となることがあります。
 - ②ガラクトマンナンは豆や種子等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。また、わが国では多くの食品(味噌、醤油など)でコウジカビ(アスペルギルス属)を使用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断してください。
 - ③海外でピペラシリン/タゾバクタムの合剤の投与により、測定結果が陽性を示したという報告があります。従って、同薬剤で治療されている患者においては判定の際に注意が必要です。
 - ④ペニシリウム属等の菌種では交差反応性が認められます。また、*Talaromyces marneffeii* (旧名: *Penicillium marneffeii*) による侵襲性真菌症の患者検体で陽性となったとの報告があります。
- 4) 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなることがあります。
- 5) 慢性肉芽腫症の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
- 6) 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、試薬の検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。
- 7) 自己免疫性疾患患者の血清では、非特異性反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状を加味して総合的に判断してください。

「尿素呼気試験」の実施手順

【ユービット®】

- 1) ^{13}C 尿素製剤(ユービット®)の服用前に呼気を採取します。
(「服用前」検体になります)
呼気採取バックのキャップを外し、深く息を吸い、5～10秒息をとめてください。その後ゆっくりと呼気をバックに入れた後、キャップをしっかりと閉めてください。
- 2) ^{13}C 尿素製剤100mg(1錠)をつぶさずに、空腹時に水100mLとともに速やかに(5秒以内)に飲み込んでください。
- 3) 左側臥位の姿勢を5分間保ち、その後は座位の姿勢を保ちます。
- 4) ^{13}C 尿素製剤100mg服用後20分に呼気を採取します。
(「服用後」検体になります)
- 5) 「服用前」と「服用後」の呼気中 $^{13}\text{CO}_2$ ($^{13}\text{CO}_2/^{12}\text{CO}_2$ 比)を測定し、その変化量($\Delta^{13}\text{C}$)を算出して $\Delta^{13}\text{C}$ が2.5%以上の場合にヘリコバクター・ピロリ陽性と判定します。

《注意》

呼気採取時には、バックが大きく膨らむまで息を吹き込み、キャップをパチンと音がするまできちんと押し込んで呼気が漏れないようにしてください。(漏出等で呼気量が少ない場合は検査不能になることがあります)

「便中ヘリコバクター・ピロリ抗原」の検体採取方法

- 1) 採取ブラシの柄に巻かれたラベルをひろげて名前等を記入し、もとのとおり巻きつけてください。
- 2) 容器のふたのシールをはがしてください。このとき容器の中の液をこぼさないように注意してください。
- 3) 採取ブラシを便に突き刺し、ブラシの間に便が入るように、ブラシを回転させながら採取してください。
- 4) 採取ブラシを容器に差し込み、しっかりねじ込んでください。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3566 3589	単純ヘルペス (HSV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3567 3590	水痘・帯状ヘルペス (VZV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3568 3591	サイトメガロ (CMV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①②	3 ～ 5	
3569 3592	アデノ	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3559 3582	インフルエンザA型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3560 3583	インフルエンザB型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3564 3587	RS	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3563 3586	ムンプス	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	
3565 3588	日本脳炎	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 ～ 5	

【ご注意】 補体結合試験(CF)において、溶血血清では検査不能の場合もありますので、ご注意下さい。

- ① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- ② : 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「CMV抗体(CF法)」もしくは「CMV抗体IgG.IgM」または「[D012 39] サイトメガロウイルス抗体」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3575 3598	コクサッキーA群	9型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02					
3576 3599		1型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02					
3577 3600		2型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02					
3578 3601		3型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
3579 3602		4型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	CF 法				
3580 3603		5型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02					
3581 3604		6型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02					
	コクサッキーB群								

【ご注意】 補体結合試験(CF)において、溶血血清では検査不能の場合もありますので、ご注意下さい。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3713 3723	インフルエンザ		血液 2 血清 0.4 または 髄液 0.9	01 02	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 原液	79+79 免疫 ①	3 5	インフルエンザA型およびB型の 流行ワクチン株につき、一括検査 実施致します。
3671 3691	パラインフルエンザ	1型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3672 3692		2型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3673 3693		3型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3677 3697		ムンプス	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3675 3695		麻疹	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3676 3696		風疹	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3682 3702	エコー	3型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
3683 3703		7型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3684 3704		11型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3685 3705		12型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02						
3678 3698	日本脳炎		血液 2 血清 0.5 または 髄液 1	01 02	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 10倍	79 免疫 ①	6 9	抗体価40倍以上の検体は、2ME 処理した上でその測定結果も併 せてご報告致します。

【ご注意】 細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0441	風疹抗体価(LA)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	ラテックス 免疫比濁法	IU/mL 6未満：陰性 6≤弱陽性<10 10以上：陽性	79 免疫 ①	1 2	

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考	
3744 3772	単純ヘルペス 〈HSV〉	1型	血液 1	01	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 ～ 15	1型,2型間には抗原交差性があり ます。	
3745 3773			2型								血清 0.3 または 髄液 0.4
											血液 1
											血清 0.3 または 髄液 0.4
3749 3862	アデノ	1型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵	NT 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	9 ～ 14		
3750 3863		2型									
3751 3864		3型									
3752 3865		4型									
3753 3866		5型									
3754 3867		6型									
3755 3868		7型									
3756 3869		8型									
3757 3870		11型									
3758 3871		19型									
3791 3792		37型									
3743 3771	RS	血液 1	01 02	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 ～ 15			
		血清 0.3 または 髄液 0.4									
3742 3770	ムンプス	血液 1	01 02	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 ～ 15			
		血清 0.3 または 髄液 0.4									
3741 3769	麻疹	血液 1	01 02	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 ～ 15			
		血清 0.3 または 髄液 0.4									

【ご注意】 中和試験(NT)の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。
細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考	
3788	コクサッキーA群	2型	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01 02	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	9 } 15		
3789		3型									
3793		4型					血清 8倍 髄液 原液		10 } 15		
3798		5型					血清 4倍 髄液 原液		9 } 15		
3817		6型							10 } 15		
3759 3872		7型							11 } 16		
3760 3873		9型									
3790		10型							10 } 15		
3761 3874		16型									
3762 3875		コクサッキーB群					1型		血清 8倍 髄液 原液		11 } 16
3763 3876	2型										
3764 3877	3型										
3765 3878	4型										
3766 3879	5型										
3767 3775	6型										

【ご注意】 中和試験(NT)の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。
細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3833 3776	エコー	1型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4	冷蔵	NT法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	11 5 16	
3834 3777		3型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3835 3778		4型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3836 3779		5型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3837 3780		6型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3838 3781		7型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3839 3782		9型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3840 3783		11型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3841 3784		12型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3842 3785		13型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3846 3847		14型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3848 3849		16型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3843 3786		17型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3768 3850		18型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3851 3852		19型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3853 3854		21型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3855 3856		22型※	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						※パレコウイルス1型
3857 3858		24型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3844 3787		25型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3845 3880		30型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						
3831 3881	エンテロ	70型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4	冷蔵	NT 法	血清 8倍 髄液 原液	—	11 5 16	
3832 3882		71型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4						

【ご注意】 中和試験(NT)の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。
細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3921 3920	EBV VCA IgG	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4 *1	01 02	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	218 免疫 ①	3 5 4	
3922 3930	EBV VCA IgM	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4 *1	01 02	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 免疫 ②	3 5 4	
3923 3931	EBV VCA IgA	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4 *1	01 02	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	218 免疫 ①	3 5 4	
3924 3932	EBV EA-DR IgG	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4 *1	01 02	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 免疫 ②	3 5 4	
3925 3933	EBV EA-DR IgA	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4 *1	01 02	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 免疫 ②	3 5 4	
3926 3934	EBV EBNA	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4 *1	01 02	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 免疫 ②	3 5 4	

*1 : 血清EBV抗体価検査(FAT法)を複数項目(2～6項目)ご依頼される場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4mLです。

① : 「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

② : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目		検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考	
3989	水痘・帯状 ヘルペス定量 〈VZV〉	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) EIA価 2.0 未満	218 免疫 ①	3 5	判定保留2.0～3.9 陽性4.0≦	
			血清 0.3								
3993		IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満			判定保留0.80～1.20 陽性1.21≦	
			血清 0.3								
3551	風 疹	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) EIA価 2.0 未満	218 免疫 ①	3 5	判定保留2.0～3.9 陽性4.0≦	
			血清 0.3								
3555		IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満			判定保留0.80～1.20 陽性1.21≦	
			血清 0.3								
4016	麻 疹	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) EIA価 2.0 未満	218 免疫 ①	3 5	判定保留2.0～3.9 陽性4.0≦	
			血清 0.3								
4024		IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満			判定保留0.80～1.20 陽性1.21≦	
			血清 0.3								
3997 4040	単純ヘルペス 〈HSV〉	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) EIA価 血清: 2.0 未満 髄液: 0.20 未満	218 免疫 ①	3 5	(血清)判定保留2.0～3.9 (血清)陽性4.0≦ (髄液)判定保留0.20～0.39 (髄液)陽性0.40≦	
			血清 0.3 または 髄液 0.4								
			血液 1								
4001		IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満			判定保留0.80～1.20 陽性1.21≦	
	血清 0.3										
7404	サイトメガロ 〈CMV〉	IgG	血液 1	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	陰性(－) AU/mL 6.0 未満	218 免疫 ①②	2 4	判定保留 設定なし 陽性6.0≦	
			血清 0.3								
7407		IgM	血液 1	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	陰性(－) (S/CO) 0.85 未満			判定保留 0.85≦、<1.00 陽性1.00≦	
			血清 0.3								
3973	ムンプス	IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) EIA価 2.0 未満	218 免疫 ①	3 5	判定保留2.0～3.9 陽性4.0≦	
			血清 0.3								
3977		IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満			判定保留0.80～1.20 陽性1.21≦	
			血清 0.3								
4201	パルボウイルス B19	IgG	血液 1	01	冷蔵	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満	－	3 9	判定保留0.80～0.99 陽性1.00≦	
			血清 0.3								
4205		IgM	血液 1	01	冷蔵	EIA 法	陰性(－) index 0.80 未満				218 免疫 ③
			血清 0.3								

① : 「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

② : 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「CMV抗体(CF法)」もしくは「CMV抗体IgG.IgM」または「[D012 39] サイトメガロウイルス抗体」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

③ : 紅斑が出現している15歳以上の成人について感染が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0417	HTLV-I 抗体価 (ATLA抗体)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	S/CO 1.0 未満 (一)	173 免疫	1 2	
4114	HIV抗原・抗体 《スクリーニング》	血液 2 血清 0.6	62	冷蔵	CLIA 法	陰性(一)	118 免疫 ①	2 3	必ず指定容器使用 脚注参照*1,2 64頁参照
4015	HIV-1抗体 《確認試験》	血液 2 血清 0.6	62	冷蔵	ウエスタンブロット法	陰性(一)	280 免疫 ②	3 6	必ず指定容器使用 脚注参照*1,2 64頁参照
4013	HIV-2抗体 《確認試験》	血液 2 血清 0.6	62	冷蔵	ウエスタンブロット法	陰性(一)	380 免疫 ②	3 9	必ず指定容器使用 脚注参照*1,3
4175	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹 標本	56	-20℃以下 凍結	FAT 法	1型 陰性 (一) 2型 陰性 (一)	180 免疫 ③	3 5	必ず指定容器使用 脚注参照*4
4130	サイトメガロウイルス抗原 《アンチジェネミア法》	EDTA 加血液	5	凍結不可 冷蔵	間接酵素抗体法 (アンチジェネミア 法)	判定(一) 陽性細胞数スライド 1:0個 陽性細胞数スライド 2:0個	387 免疫 ④⑤	2 3	受付曜日:月～金曜日(休前日不可) (各曜日の午前中) 採血後、速やかに検体をご提出下さい。 (原則として採血後24時間以内 の検体を用います)
3828	ノロウイルス (SRSV)-RNA同定	糞便 1g (小指大)	55	-20℃以下 凍結	RT-PCR 法	検出せず	—	3 5	必ず指定容器使用 脚注参照*5,6
4189	HPV-DNA同定 [中～高リスク型]	ぬぐい液	61	冷蔵 (3週)	ハイブリッド キャプチャー法	陰性(一) index 1.00 未満	360 微生物 ⑥	2 3	必ず指定容器使用 脚注参照*7
4190	HPV-DNA同定 [低リスク型]	ぬぐい液	61	冷蔵 (2週)	ハイブリッド キャプチャー法	陰性(一) index 1.00 未満	—	2 8	必ず指定容器使用 6,11,42,43および44型の“低リスク 型”HPVを検出致します。 (型別判定はできません)
4159	HPV核酸検出 (HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定)	LBC用採取液*⑧ (ThinPrep) 2 または LBC用採取液*⑧ (SurePath) 2	81 82	冷蔵 (3ヶ月)	ロシュ/リアルタイムPCR法	検出せず	360 微生物 ⑥	3 4	必ず指定容器使用 脚注参照*9

- *1 : 必ず指定容器で約2mL採血後、遠心機にかけ、そのまま冷蔵保存でご提出下さい。また、同一検体で他項目との重複依頼は避けて下さい(単独検体)。
- *2 : 提出検体量は、スクリーニング検査(CLIA法)および抗体確認試験(ウエスタンブロット法)の両方を行った場合の必要量です。
- *3 : HIV-2抗体検査は、HIV-1抗体陽性の場合(免疫学的な交差反応により)やその他の非特異的反応により偽陽性となることがありますので、結果の解釈にはご注意ください。
- *4 : 専用容器(無蛍光スライド)は予めご依頼下さい。塗抹の際、スライドガラスの裏表をご確認の上、必ず「表」面に塗抹願います。また、氏名等の記入には鉛筆をご使用下さい。
- *5 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)
- *6 : 吐物(2mL)(容器番号 55)でも検査可。
- *7 : HPVとして、16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59および68型の“中～高リスク型”HPVを検出致します(型別判定はできません。)
- *8 : 液状細胞診(LBC:Liquid Based Cytology)実施済みの検体をご提出される場合はコンタミネーションの影響に十分ご注意ください(コンタミネーション防止のため、先に必要量を分注
いただく方法を推奨致します)。また、その際は液状細胞診の商品名をご記入下さい。
- *9 : ・型判定が可能なもの:16型、18型
・66型を含む12種類の高リスク型HPV(31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66, 68型)についてはいずれか(または全て)の型に感染している場合に陽性となります。
どの型に感染しているかは判別できません。

- ① : 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者および診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間
に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対してHIV感染症を疑わせる自覚症状の有無に関わらず所定点数を算定できます。
ア 新生児出血症(新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等)等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者。イ 肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者。
ウ 食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐血があった者。エ 大量に出血するような手術を受けた者(出産時の大量出血も含む。)
なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい感染症が認められる場合、既往がある場合または疑わ
れる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できます。
輸血(自己血輸血を除く)を算定した患者または血漿成分製剤の輸注を行った患者に対して、一連として行われた輸血または輸注の最終日から起算して概ね2ヶ月後に測定が行わ
れた場合はHIV感染症を疑わせる自覚症状の有無に関わらず1回に限り算定できます。他の保険医療機関において輸血料の算定または血漿成分製剤の輸注を行った場合も同
様です。いずれの場合も、診療報酬明細書の摘要欄に輸血または輸注が行われた最終日を記載して下さい。
- ② : 「HIVスクリーニング」が陽性の場合の確認診断用の検査です。
- ③ : ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できます。
- ④ : 臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者またはHIV感染者または高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合にのみ算定できます。
- ⑤ : 高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合は、検査が必要であった理由について診療報酬明細書の摘要欄への記載が必要です。
- ⑥ : 予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者または過去に子宮頸部円錐切除を行った患者に対して行った場合に限り算定
できます。細胞診と同時にHPV検査を実施した場合は算定できません。算定に当たっては、厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等への届出
が必要です。「HPV核酸検出」と「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」を併せて実施した場合は主たるもの1つに限り算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3656	HA抗体 (IgG-HA抗体)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(－)	146 免疫 ①②	2 5 3	
		血清 0.3							
3650	IgM-HA抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(－)	146 免疫 ①	2 5 3	
		血清 0.3							
0401	HBs抗原 定性	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	(－)	29 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0402	HBs抗原	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	IU/mL 0.05 未満 (－)	88 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0403	HBs抗体 半定量	血液 2	01	冷蔵	PHA 法 (受身赤血球凝集反応)	倍 8 未満	32 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
0404	HBs抗体	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	mIU/mL 10.00 未満 (－)	88 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0405	HBc抗原	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	S/CO 陰性 (1.00 未満)	107 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0407	HBc抗体	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	% Inh 陰性 (50.0 未満)	107 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0410	HBc抗体	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	S/CO 1.00 未満	141 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
3496	IgM-HBc抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(－)	146 免疫 ③	2 5 3	
		血清 0.3							
4078	HBV-DNA定量 《TaqManPCR法》	血液 5	62	凍結 -20℃以下	ロシュ/リアルタイムPCR法	LogIU/mL 定量結果: 1.0 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず	279 微生物 ④	3 5 4	必ず指定容器使用 脚注参照*1,2 64頁参照
		血清 2.1							
3487	HBVプレコア/ コアプロモーター変異検出 *3	血液 2	62	凍結	PCR-ミニシーケンス法/特異プローブ法		450 微生物 ⑤⑥⑦	3 5 6	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1,4
		血清 0.5							

[ご注意]

*1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)

*2 : 血漿(容器番号 80)でも検査可。

*3 : [報告成分]

HBV-DNA検出, プレコア判定, プレコア変異型比率, コアプロモーター判定

*4 : 低ウイルス量(概ね2.5LogIU/mL未満)の検体では、試薬の特性上、安定した判定結果を得られない場合があります。

① : 「HA抗体」、「IgM-HA抗体」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。

② : 保険請求の際は、「HA抗体」とご記入下さい。

③ : 「HBc抗体」、「IgM-HBc抗体」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。

④ : 「HBcrAG」と「HBV-DNA定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定できます。

⑤ : B型肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に1回のみ算定できます。

⑥ : B型肝炎患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、かつ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できます。

⑦ : 本検査実施以降は[D013]肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査(抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く。)は、算定できません。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0419	HCV抗体-Ⅱ	血液 2	01	冷蔵 (2週)	CLIA 法	S/CO 1.00 未満 (－)	111 免疫	1 2	スクリーニング検査としてご利用下さい。 C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断下さい。
		血清 0.5							
3481	HCV抗体-Ⅲ	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LPIA 法	陰性(－)	111 免疫	2 3	
		血清 0.5							
3528	HCV群別 《グルーピング》	血液 1	01	冷蔵	CLEIA 法		233 免疫 ①②	2 3	
		血清 0.3							
3738	HCVコア抗原	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	fmol/L 3.0 未満	111 免疫 ③	2 3	本検査が“定量下限未満”でも、直ちにウイルスの存在は否定できません。
		血清 0.5							
3914	HCV-RNA定量 《TaqManPCR法》	血液 5	62	凍結 -20℃以下	ロシュ/リアルタイムRT-PCR法	LogIU/mL 定量結果: 1.2 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず	437 微生物 ④	3 4	必ず指定容器使用 脚注参照*1 64頁参照
		血清 2.1							

[ご注意]

「HCV-RNA関連検査」のご依頼にあたっては、他項目とは別に(RNA検査用の)専用検体としてご提出して下さい。

*1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)

- ① : 保険請求の際は「HCV血清群別判定」とご記入下さい。
- ② : C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。
- ③ : 保険請求の際は「HCVコア蛋白」とご記入下さい。
- ④ : 急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択および治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できます。

●「HCV-RNA 定量」(TaqManPCR 法による遺伝子増幅検査の結果の考え方)

	結 果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HCV 増幅反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	8.0 以上	検 出	HCV を検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.2 ~ 7.9	検 出	HCV を検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.2 未満	検 出	HCV を検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.2 未満	検出せず	HCV を検出しなかった

●「HBV-DNA 定量」(TaqManPCR 法による遺伝子増幅検査の結果の考え方)

	結 果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HBV 増幅反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	9.0 以上	検 出	HBV を検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.0 ~ 8.9	検 出	HBV を検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.0 未満	検 出	HBV を検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.0 未満	検出せず	HBV を検出しなかった

測定結果が定量下限未満であっても増幅反応シグナルが“検出”の場合は、ウイルス核酸が“検出された”とご判断ください。

●血清を用いた遺伝子増幅(PCR等)検査の留意点

《検体の取り扱い、および依頼方法》

- 1) 遺伝子増幅検査の検体採取・保存に際しては、核酸分解酵素の影響および検体相互の cross contamination を防ぐため、以下の点にご注意ください。
 - ① 専用の真空採血管(分離剤入り、容器番号62、79)を使用し、採血・ご提出ください。
 - ② 同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい(遺伝子検査専用検体)。
 - ③ 上記指定容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、常温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心機にかけ、そのまま凍結してご提出ください。なお、凍結融解をしないでください。
※未分離凍結検体、溶血検体では抽出効率の低下、遺伝子増幅阻害等によるデータへの影響が考えられます。
- 2) 遺伝子増幅検査につきましては、ヘパリンによる増幅反応の阻害があるため、透析患者等では検出されないことが考えられますので、ご注意ください。

●HIV 抗原・抗体検査の留意点

《検体の取り扱い、および依頼方法》

- 1) 必ず指定容器(容器番号62)で採血後、遠心機にかけ、そのまま冷蔵保存でご提出ください。
- 2) 同一検体で他項目との重複依頼は避けてください。(単独検体)
- 3) 患者名にはイニシャルまたはID番号のご使用をお勧め致します。
- 4) スクリーニング検査(CLIA法)で「陽性」を呈した場合は、原則としてウエスタンブロット法によるHIV-1抗体確認試験を実施致します。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
6411	T細胞・B細胞百分率	血液 各 3 EDTA加血液	13	常温	フローサイト メトリー法 [T細胞]CD2 [B細胞]CD20	67頁参照	204 免疫 ①	2 ↓ 3	受付曜日:月～土曜日(午前中) 67頁参照
5748	IgG-FcR ⁺ T細胞百分率				フローサイト メトリー法	5 ～ 20			
6401	リンパ球幼若化試験 《リンパ球分離培養法》	血液 各 5 保存液加血液	21	常温	³ H-サイミジン 取込能測定法	41,000 ～ 79,900 cpm コントロール 180 ～ 660	345 免疫	6 ↓ 8	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 白血球数が3,000/ μ L以下の場合 は、倍量採血し、ご提出下さい。 67頁参照
6404						34,400 ～ 62,300 cpm コントロール 180 ～ 660			
5761	B細胞表面免疫 グロブリン (Sm-Ig)	血液 3 EDTA加血液	13	常温	フローサイト メトリー法	6 ～ 15 % 74 ～ 352 / μ L	161 免疫	2 ↓ 3	受付曜日:月～土曜日(午前中) 67頁参照
5762						3 ～ 12 % 44 ～ 271 / μ L			
5763						3 ～ 9 % 35 ～ 205 / μ L			
5764						2 ～ 7 % 24 ～ 138 / μ L			
5765						1 ～ 6 % 1 ～ 145 / μ L			
5766						1 ～ 13 % 4 ～ 279 / μ L			
5767						1 ～ 10 % 8 ～ 204 / μ L			
6548	LAK活性	血液 6 保存液加血液	21	常温	⁵¹ Cr遊離法	10.0 以下 %	—	3 ↓ 5	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 白血球数が3,000/ μ L以下の場合 は、倍量採血し、ご提出下さい。
6547						%		8 ↓ 10	
6657	好中球貪食能	血液 2 ヘパリン加血液	10	常温	フローサイト メトリー法	70 ～ 87 %	—	2 ↓ 3	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 貪食能・殺菌能を同時に依頼 の場合は血液2mLにて検査可 能。
6658	好中球殺菌能	血液 2 ヘパリン加血液	10	常温	フローサイト メトリー法	93 ～ 97 %	—	2 ↓ 3	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 貪食能・殺菌能を同時に依頼 の場合は血液2mLにて検査可 能。

【ご注意】 土曜日受付可能な項目も日曜日、月曜日が連休となるときは受託できません。

① : 「T細胞・B細胞百分率」と同時に測定した場合、実施料は一連の算定となります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
5759	HLA型判定 (A, B Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-rSSO 法		—	3 5	容器番号 14(EDTA-2Na)でも 検査可。 67頁参照
5760	HLA型判定 (DR Locus)								
5751	HLA遺伝子型判定 (A Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT 法		—	5 8	容器番号 14(EDTA-2Na)でも 検査可。 67頁参照
5752	HLA遺伝子型判定 (B Locus)								
5753	HLA遺伝子型判定 (C Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT 法		—	5 8	容器番号 14(EDTA-2Na)でも 検査可。 67頁参照

●染色体検査

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
6584	Gバンド分染法 《先天性Gバンド分染法》	血液 各 3 ヘパリン加血液	10	冷蔵	分染法		2631 + 397 血液 ①	13 18	QバンドRバンドCバンド高精度 分染法は、最初にGバンド分染法 を実施し、さらに検査の必要な場 合に実施させていただきます。 判定にあたり精査が必要な場合、 さらに10日前後報告日数が延長 となります。 「全サブテロメア領域解析」と同 時に依頼された場合は、「全サブ テロメア領域解析」の結果判定 後にご報告致します。 脚注参照 * 1, 2
6586	Qバンド分染法								
6587	Rバンド分染法								
6585	Cバンド分染法							14 21	
6593	脆弱X染色体								
6588	高精度分染法 * 3								

【ご注意】 ご提出検体は常温(4～20℃)で保存して下さい(但し肺がんALKは常温)。

また、その他の材料でご提出の場合には、記載の所要日数以内で報告できない場合がございますのでご了承下さい。

* 1 : 検査に当たり、被検者への十分なお説明をいただき被検者ご自身の承諾が文書で得られた場合にのみ検査の受託をさせていただきます。

依頼書の被検者名はプライバシー保護のため匿名化をお願いします。また、検査前後の被検者への十分なカウンセリングを併せてお願い致します。

* 2 : ご依頼に際しては、『遺伝学的検査依頼書【先天異常 染色体検査】』をご利用下さい。

* 3 : 高精度分染法については、目的とする染色体領域が特定されている場合にのみ検査を受託致します。依頼書に標的染色体領域を明記して下さい。

① : 分染法を実施した場合は、397点の加算ができます。

細胞性免疫検査のご依頼について

【検査の予約と確認】

- 1) 月～金(午後)、土、日、祝日の検体は受託出来ませんので、必ず確認の上ご提出ください。
- 2) 検査項目によって検査実施日が異なることがありますので、必ず確認の上ご提出ください。
- 3) 組織等、血液以外の材料でご提出の場合は、予め営業担当者にご確認ください。
- 4) 受付曜日は、各項目の備考欄に記載してあります。受付可能日、締切り時刻等については営業担当者にご相談ください。

【依頼書】

- 1) 細胞性免疫検査ご依頼に際しては、専用依頼書を用意してありますので、ご使用下さい。
- 2) 依頼書所定事項中、採血年月日、時刻、疾患名を必ずご記入下さい。

検査項目	材 料	全 血	保存液入採血管
リンパ球関連検査全般 (細胞表面マーカー検査を除く)		—	24 時間以内
細胞表面マーカー検査		48 時間以内*	—
リンパ球混合培養 (MLC) 好中球貪食能・殺菌能		24 時間以内	—

★血液疾患が疑われる場合、または血液以外の材料による場合は 24 時間以内となります。

【採血】

- 1) 溶血、雑菌混入は絶対に避けて、無菌的に採血してください。
- 2) 必要量採血後、直ちに所定容器に移してください。
- 3) ヘパリン加血液、EDTA 加血液は、採血後、直ちに転倒混和し凝固を防止してください。
- 4) 提出検体は、常温で保存してください。
- 5) 白血球数が減少した患者検体において、所定の採血量でも検査不能となる場合があります。極端な白血球減少が予想される際にはできるだけ多めに採血してご提出ください。

【採血後、検査にとりかかるまでの保存可能時間】

- 1) 採血後、左表の条件を満たす時間内に検査を開始する必要があります。(弊社から委託先に検体を搬送する時間が必要となりますので、予め営業担当者にご確認ください。)
- 2) 保存液容器(7.5mL 容量)は当社にて用意致します。保存液容器をご使用になる場合、各検査項目の採血量が多くなりますのでご了承ください。

「リンパ球幼若化試験」の留意点

リンパ球幼若化試験用マイトジェンは、PHA、ConA、PWMのなかからご指定ください。なお、PWMは、実施料適用外となります。特にご指定のない場合は、PHA のみにて検査させていただきます。

●「T 細胞・B 細胞百分率」基準値

	陽性細胞百分率 (%)	陽性細胞絶対数 (/μL)
T 細胞	72 ~ 90	605 ~ 2,564
B 細胞	7 ~ 30	70 ~ 663

「HLA 型判定、遺伝子型判定検査」の留意点

- 1) 「HLA 型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互の cross contaminationを防ぐため、以下の点にご注意ください。
 - ①真空採血管を使用し、採血してください。
 - ②素手で採血管のゴムキャップに触れないでください。
 - ③同一検体で他の項目との同時依頼をしないでください。
 - ④キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ処理してください。
- 2) 複数項目を同時にご依頼の場合、HLA 型判定 A,B Locus および DR Locus は EDTA 加血液 2 mL、HLA 遺伝子型判定群では3項目までは同 2 mL、4項目以上は同 4 mL で検査可能です。ただし、DQA1 は単独で EDTA 加血液 3 mL が必要となります。
- 3) 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が 3,000/μL 以下の場合、所定量の2倍の血液をご提出ください。
- 4) 血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせください。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
(0601) 0602	[末梢血液一般] 白血球数	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	フローサイト メトリー法	$\times 10^2 / \mu\text{L}$ 40 ~ 80	21 血液 ①	1 ↓ 2	
(0601) 0603	[末梢血液一般] 赤血球数				シースフロー DC検出法	$\times 10^4 / \mu\text{L}$ M 420 ~ 540 F 380 ~ 480			
(0601) 0604	[末梢血液一般] ヘモグロビン				SLS (ヘモグロビン法)	g/dL M 12.4 ~ 17.6 F 11.0 ~ 15.2			
(0601) 0606	[末梢血液一般] ヘマトクリット				赤血球パルス波 高値検出法	% M 36.0 ~ 52.0 F 33.0 ~ 43.0			
(0601) 0611	[末梢血液一般] 血小板数				シースフロー DC検出法	$\times 10^4 / \mu\text{L}$ 14.0 ~ 34.0			
0651	網赤血球数				フローサイト メトリー法	‰ 8 ~ 22	12 血液	1 ↓ 2	
0654 0669	鼻汁好酸球	鼻汁	塗抹 標本	常温	鏡検法		15 血液	1 ↓ 2	
0631	末梢血液像(自動機械法) 《5分類》	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	フローサイト メトリー法	71頁参照	15 血液 ②	1 ↓ 2	
0612	末梢血液像(鏡検法) 《6分類》	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	鏡検法	71頁参照	25 血液 ②	1 ↓ 2	
3129	マラリア原虫	血液 2 EDTA加血液	13	凍結不可 冷蔵	ライト染色	(一)	40 血液	2 ↓ 3	塗抹標本でご提出の場合は、薄 層塗抹標本と濃塗抹標本をご提 出下さい。(標本冷蔵厳禁)
3205	プロテインC(抗原量)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.3	15 ↓ 02	凍結 (2週)	LPPIA 法	% 62 ~ 131	246 血液	2 ↓ 5	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*1
3239	プラスミノゲン活性 (PLG)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	合成基質法	% 71 ~ 128	100 血液	2 ↓ 3	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*1
3232	アンチトロンビンⅢ抗原 (ATⅢ)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	LPPIA 法	mg/dL 15.0 ~ 31.0	70 血液	2 ↓ 3	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*1
0678	アンチトロンビンⅢ活性 (ATⅢ)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結	合成基質法	% 80 ~ 130	70 血液	1 ↓ 2	血漿分離の上ご提出下さい。

*1 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。(遠心力の換算表71頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

① : 実施料は、「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。

② : 同一検体で「好酸球数」および「白血球像」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0671	PT時間 〈プロトロンビン時間〉	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結	凝固法	9.7 ~ 12.3 秒	18 血液 ①	1 ↓ 2	血漿分離の上ご提出下さい。
0673	APTT 〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉				凝固法	24.3 ~ 36.0 秒	29 血液	1 ↓ 2	
0675	フィブリノゲン				凝固法	200 ~ 400 mg/dL	23 血液	1 ↓ 2	
0676	トロンボテスト 〈複合因子T〉				凝固法	70 ~ 130 %	18 血液 ①	1 ↓ 2	
0684	Dダイマー				免疫比濁法	1.0 以下 $\mu\text{g/mL}$	137 血液	1 ↓ 2	
0683	(血中)FDP定量 〈フィブリン・フィブリノゲン分解産物〉				免疫比濁法	5.0 未満 $\mu\text{g/mL}$	80 血液	1 ↓ 2	
3193	(尿)FDP 〈フィブリン・フィブリノゲン分解産物〉	尿 2	18	冷蔵	LPIA 法	100 以下 ng/mL	72 尿便	2 ↓ 3	必ず指定容器使用
3236	TAT 〈トロンビン・アンチトロンビン複合体〉	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結	CLEIA 法	3.0 未満 ng/mL	186 血液 ②	2 ↓ 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 採血方法の不適により異常高値を 示すことがあります。(ツーンリンジ 採血法にてお願い致します。) 脚注参照*1
3231	アンチプラスミン(活性) 〈 $\alpha_2\text{PI}$ 〉 〈 α_2 プラスミンインヒビター〉	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	合成基質法	85 ~ 118 %	131 血液	2 ↓ 3	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*1
3245	PICテスト 〈 α_2 プラスミンインヒビター ・プラスミン複合体〉	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.3	15 ↓ 02	凍結	LPIA 法	0.8 未満 $\mu\text{g/mL}$	162 血液	2 ↓ 3	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*1
3201	PIVKA II 凝固	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.3	15 ↓ 02	凍結	CLEIA 法	1 未満 $\mu\text{g/mL}$	143 血液	2 ↓ 5	必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*1
3272	β -トロンボグロブリン 〈 β -TG〉	血液 4.5 乏血小板 血漿 0.5	19 ↓ 02	凍結 (4週)	EIA 法	60 以下 ng/mL	177 血液	3 ↓ 9	必ず指定容器使用 必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 71頁および脚注参照*2
3271	PF-4 〈血小板第4因子〉	血液 4.5 乏血小板 血漿 0.5	19 ↓ 02	凍結 (4週)	EIA 法	20 以下 ng/mL	178 血液	3 ↓ 9	必ず指定容器使用 必ず血漿分離の上ご提出下さ い。 脚注参照*2

*1 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい(遠心力の換算表71頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

*2 : 専用容器(テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール、他入り)は、予めご依頼下さい。なお、ジピリダモールは蛍光灯に48時間晒されると不活性化するため、使用時までは遮光保存をお願い致します。

① : 「プロトロンビン時間」、「トロンボテスト」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。

② : 「プロトロンビンフラグメントF1+2」、「TAT」および「SFMC」を同時に実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
3235	フォン・ウィルブランド因子定量 〈第Ⅳ因子様抗原〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	50 ~ 150	155 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3241	フォン・ウィルブランド因子活性 〈リストセチンコファクター〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.4	15 ↓ 02	凍結 (2週)	固定血小板 凝集法		136 血液	2 5	
3170	ループスアンチコアグラント	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	希釈ラッセル 蛇毒試験法 (dRVVT)	(cut-off値) T1/T2比 1.3 未満	281 免疫 ①	2 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3159	第Ⅱ因子活性 〈F2〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	74 ~ 146	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3160	第Ⅴ因子活性 〈F5〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	70 ~ 152	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3161	第Ⅶ因子活性 〈F7〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	63 ~ 143	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3162	第Ⅷ因子活性 〈F8〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	62 ~ 145	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3163	第Ⅸ因子活性 〈F9〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	74 ~ 149	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3164	第Ⅹ因子活性 〈F10〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	71 ~ 128	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3165	第Ⅺ因子活性 〈F11〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	73 ~ 136	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3166	第Ⅻ因子活性 〈F12〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	46 ~ 156	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3167	第ⅩⅢ因子定量 〈F13〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.4	15 ↓ 02	凍結 (2週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	70 以上	229 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3168	第Ⅷ因子インヒビター 〈F8INH〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	Bethesda 法	検出せず	152 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3169	第Ⅸ因子インヒビター 〈F9INH〉	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	Bethesda 法	検出せず	152 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1

*1 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい(遠心力の換算表71頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

① : 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定できます。

●「血液像」基準値

細胞の種類		構成比率 (%)
好中球	NEUT	37 ~ 70
杆状核球	ST	1 ~ 6
分節核球	SEG	35 ~ 68
好酸球	E	0 ~ 5
好塩基球	B	0 ~ 1
単球	MONO	2 ~ 8
リンパ球	L	24 ~ 53
芽球	BLA	0
前骨髄球	PROM	0
骨髄球	M	0
後骨髄球	MET	0
異型リンパ球	A-L	0
形質細胞	PLC	0
不明細胞	OTHER	0
異常細胞	ABNC	0
裸核細胞		0/100 WBC

- 1) 時間経過等により血球形態破壊が著しくなる場合があるため検査不能になることがあります。できるだけ早くご提出ください。
- 2) 塗抹標本でご提出の場合は、採血後直ちに作成してください。(標本冷蔵厳禁)
- 3) 血液塗抹標本は、患者氏名をご記入の上ケースに収納してご提出ください。ケースには、検査依頼書のバーコードラベルに患者氏名、施設名を明記してお貼りください。

「β-トロポグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)」の採血方法

操作を2分以内に行う

20ゲージ(19～23ゲージ)の針を用いたポリプロピレン注射器により、(組織から組織因子の混入を避けるため)2シリンジ法で初めの血液2mLを捨て、次の血液4.5mLを採取してください。真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、できれば止血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。

予めキャップを開け冷却しておいた専用容器に採取した血液4.5mLを移し、ゆっくり2～3回反転混合してください。指定のサンプリングチューブ以外は使用しないでください。サンプリングチューブは振とうさせないでください。

採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却してください。砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。

砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500×gで20分間、2～8℃で遠心分離してください。(右表に2,500×gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します)1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。

上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL検体容器へ採取してください。検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存してください。(1ヶ月安定)血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けてください。

遠心力の換算表

1,500×g	半径(cm)	回転数(r.p.m.)
	10	3,700
	12	3,300
	14	3,100
	16	2,900
	18	2,700
	20	2,600
	22	2,500
	24	2,400
	26	2,300
	28	2,200
	30	2,100

2,500×g	半径(cm)	回転数(r.p.m.)
	10	4,700
	12	4,300
	14	4,000
	16	3,700
	18	3,500
	20	3,300
	22	3,200
	24	3,100
	26	2,900
	28	2,800
	30	2,700

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0743	(蓄尿)尿蛋白	尿 10	25	冷蔵	ピロガロール レッド法	mg/day 20 ~ 120	7 尿便	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0744	(蓄尿)尿グルコース	尿 10	25	冷蔵 (当日中)	ヘキシナーゼ法	mg/day 40 ~ 85	9 尿便	1 ↓ 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0711	尿沈渣顕微鏡検査	尿 10	25	冷蔵	鏡検法		27 尿便 ①	1 ↓ 2	
0355 0356	便中Hb定性	糞便 (専用容器)	31	冷蔵	金コロイド比色法	(一)	37 尿便	1 ↓ 2	必ず指定容器を使用してください。
0866	虫卵(集卵法)	糞便 親指頭大	29	冷蔵	集卵法	(一)	15 尿便	2 ↓ 3	
0861	虫卵(塗抹法)	糞便 親指頭大	29	冷蔵	直接塗抹法	(一)	20 尿便 ②	2 ↓ 3	
6876	虫体鑑別	虫体	44	冷蔵	肉眼/鏡検法		23 尿便	2 ↓ 3	検体は乾燥させないでください。 検出される寄生虫の種類により、 さらに鑑別に日数を要する場合 があります。

●尿中一般物質定性半定量検査

0701	蛋白定性	尿 10	25	冷蔵	試験紙法	(一)		1 ↓ 2	当該保険医療機関内で実施した場合のみ算定可能。
	グルコース定性					(一)			
	ウロビリノゲン					(±)			
	ビリルビン					(一)			
	ケトン体					(一)			
	PH					4.5 ~ 7.5			
	潜血					(一)			
	比重					1.006 ~ 1.030			

●精液検査

0795	精液量	精液全量	各種	常温		mL 2 以上	70 尿便 ③	1 ↓ 2	避妊具での提出は不可。 74頁参照
	精子数	精液全量		常温	鏡検法	× 10 ⁶ /mL 40 以上			
	精子運動率	精液全量		常温	鏡検法	% 50 以上			

※ 尿検体の採取につき、その基本要領を74頁に記載しておりますのでご参照ください。

- ① : 尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣(鏡検法)を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間以内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。
- ② : 実施料は、「塗抹顕微鏡検査」として一連の算定となります。
- ③ : 実施料は、「精液一般検査」として一連の算定となります。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
-----------	---------	-------------	----	-------------	------	----------	------------	----------	-----

●髄液検査

0772	[髄液一般] ノンネアペルト	脊髄液 2.5	25	冷蔵	比濁法	(－)	62 尿便 ①	1 5 2	
0773	[髄液一般] パンディ				比濁法	(－) (±)			
0774	[髄液一般] 細胞数				鏡検法	0 ～ 5 / μL			
0779	[髄液一般] 比重				屈折計法	1.005 ～ 1.007			
0780	[髄液一般] トリプトファン				里見法	(－)			
0781	(髄液)総蛋白	脊髄液 0.5	25	冷蔵 (7日)	ピロガロール レッド法	10 ～ 40 mg/dL	11 生I	1 5 2	
0782	(髄液)グルコース	脊髄液 0.5		冷蔵 (当日中)	ヘキシキナーゼ法	50 ～ 75 mg/dL	11 生I	1 5 2	
0783	(髄液)クロール	脊髄液 0.5		冷蔵	イオン選択電極法	720 ～ 750 mg/dL	11 生I	1 5 2	

●穿刺液(腹水・胸水・関節液)

0752	比重	腹水 胸水 関節液 5	25		屈折計法		採取料 に含む	1 5 2	
0753	細胞数				鏡検法	/ μL			
0754	細胞種類				鏡検法	%			
0758	ムチン塊テスト				ムチン塊 形成試験法				
0760	(穿刺液)蛋白				屈折計法	g/dL	11 生I	1 5 2	
0761	(穿刺液)グルコース				ヘキシキナーゼ 法	mg/dL	11 生I	1 5 2	

① : 実施料は、「髄液一般検査」として一連の算定となります。

尿検体の採取方法

1) 普通尿の場合

新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。

2) 中間尿の場合

清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。

最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。

3) 無菌尿の場合

男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。

細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。

精液検体の採取方法

精液検査のご利用に際して、射精可能な場合の精液の採取は、以下の手順により行ってください。

- 1) 禁欲期間は2日以上、7日以内が理想的です。
氏名、禁欲期間、採取日時を記録してください。
- 2) 検査は2回行い、その間隔は7日以上、3か月以内とすることが推奨されます。これら2回の検査結果が著明に異なる場合には追加検査を行ってください。
- 3) 採取は(院内)検査室近くのプライバシーの保てる部屋で行うか、採取後1時間以内に持参させるようにしてください。
- 4) 精液はマスターベーションで採取します。
容器は滅菌した広口のガラス製のものを温めて(20～40℃)使用してください。プラスチック製のものは精子に対する毒性がないことを確かめてから用いる必要があります。潤滑剤は使用しないでください。
細菌学的検査を行う場合には、排尿後に手とペニスを洗浄、消毒してから滅菌した容器に採取してください。
- 5) 通常のコンドームは殺精子作用を示す可能性があるため、使用に適しません。マスターベーションで採取できない場合には、精液採取用コンドーム(SCD: seminal collection device, HDC Corporation, Mountain View, CA, USA)を利用する事が推奨されます。

[上掲の記述は、日本不妊学会編「新しい生殖医療技術のガイドライン」に準じたものです]

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0801	一般細菌塗抹	尿・喀痰 /その他	各種	冷蔵	グラム染色法		61 微生物 ①	2 5	「トリコモナス」は室温保存して下さい。
0806	MRSA簡易培養検査	尿・喀痰 /その他	各種	冷蔵			60 微生物	3 7	
0807	嫌気性培養	培養同定と同じ	各種	冷蔵			115 微生物 ②	3 10	※培養同定と併せて行った場合に加算する。
0811	細菌 培養同定検査	口腔気道	各種	冷蔵	使用培地は目的 菌検査材料により異なるが基本的には血液寒天・BTB(便の場合はSS)寒天・各種確認 培地診断用免疫血清を使用		160 微生物 ③④	3 7	淋菌培養は室温で保存のこと。
0812		消化管					180 微生物 ③④		
0813		泌尿器 生殖器					170 微生物 ③④	*1	
0814		血液 穿刺液					210 微生物 ③④⑤	5 10 *1	血液培養は室温で保存のこと。
0815		その他の 部位					160 微生物 ③④	3 10 *1	
0816	大腸菌抗原同定検査	消化器系材料 (便等)	各種	冷蔵	O抗原血清型別		180 免疫 ⑥⑦	3 7	
0825	細菌 薬剤感受性検査	1菌種	各種	冷蔵	微量液体希釈法 または ディスク拡散法		170 微生物 ⑧	4 10	
0826		2菌種					220 微生物 ⑧		
0827		3菌種 以上					280 微生物 ⑧		

注) : ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

*1 : 真菌培養(材料:尿の場合を除いて)の場合は7～14日前後を要します。

- ① : 染色の有無および方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。
- ② : 嫌気性培養のみを行った場合は、所定の部位の細菌培養同定検査の実施料のみを算定し、嫌気性培養の加算は算定できません。
- ③ : 同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、簡易培養検査は算定できません。
- ④ : 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、起因菌を検索する目的で異なった部位や同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主な部位または1か所のみの実施料の算定となります。
- ⑤ : 但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、「血液または穿刺液」を2回算定できます。この場合、「嫌気性培養加算」は2回算定できます。
- ⑥ : 保険請求の際は「大腸菌血清型別」とご記入下さい。培養の結果、大腸菌を確認し得ない場合、本実施料は算定できません。
- ⑦ : 当該点数が該当する場合、細菌培養同定検査の点数は算定できません。
- ⑧ : 培養の結果、菌が検出できず実施できなかった場合は算定できません。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
0832	抗酸菌塗抹	喀痰/その他	各種	冷蔵	集菌塗抹 (蛍光)法 *1		82 微生物 ①②	2 5	
0836	抗酸菌分離培養検査	喀痰/その他	各種	冷蔵	2%小川培地		204 微生物 ③④	4 8 週	通常培地を使用。
0853	抗酸菌同定DDH	喀痰・菌株 /その他	各種	冷蔵	DNA-DNA ハイブリダイゼー ション法		410 微生物	1 2 週	
0842	抗酸菌薬剤感受性検査	喀痰・菌株 /その他	各種	冷蔵	マイクロタイター 法 (一濃度比率法)		380 微生物 ⑤		
6742	結核菌群同定 (TaqManPCR法)	呼吸器系材料 /その他	55	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法		410 微生物 ④	2 3 *3	必ず指定容器使用 脚注参照*2
6740	MAC同定-DNA (TaqManPCR法)	呼吸器系材料 /その他	55	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法		421 微生物 ⑥	2 3 *3	必ず指定容器使用 脚注参照*2
0503	QFT-TB<第4世代>	血液 5	97	冷蔵 2~8℃	ELISA 法	(一)	630 免疫 ⑦	3 10	受託曜日:月~金曜日 (祝祭日前日を除く)
0871 0872	赤痢菌・サルモネラ菌	糞便/その他	各種	冷蔵	SS寒天培地	(一)		3 7	

*1 : 集菌塗抹(蛍光)法で陽性の場合はチール・ネルゼン法で確認致します

*2 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)

*3 : その他の材料および微生物検査を併せてお依頼の際は、所定の日数よりも1日延長する場合があります。

① : 蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの 50点

注 集菌塗抹を行った場合には集菌塗抹加算として32点を所定点数に加算する

② : 染色の有無及び方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。

③ : 検体の採取部位が異なる場合であっても、同時にまたは一連として検体を採取した場合は、1回のみ算定できます。

④ : 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できます。

⑤ : 4薬剤以上使用した場合に限り、算定できます。

⑥ : 他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できます。「抗酸菌同定」と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

⑦ : 診察または画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。

主要材料の採取保存方法

1) 口腔・気道・呼吸器系材料

●**喀痰** 口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2～3回うがいしてから喀出痰を採取します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにしてください。

●**咽頭液** 滅菌生理食塩水でうがいた後、滅菌綿棒(細菌検査用スワブ付属の綿棒)で病変部をよく擦って粘液を採取します。

2) 消化器系材料

●**糞便** 急性期の排出便を採取します。糞便の量は1g程度とし、細菌検査用採便容器(キャリーブレード培地入り)の深部に入れてください。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手がかりとなりますので、必ずご記入願います。

●**胆汁** 胆管内胆汁、胆嚢内胆汁、肝内胆汁のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁を培養します。滅菌スピッツ管に2～3mL採取します。

3) 泌尿器・生殖器系材料

●**尿** 患者自身が採取する場合はほとんどなため、採尿に際して適切な指示をしてください。

男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。

女性の場合は、膣等の常在菌汚染があるため、充分洗浄してから採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは1回毎に取り替えるように指示してください。尿は滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。

いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨て、中間尿を取ります。

●**生殖器分泌物** 男性の場合は、陰茎をしごき、分泌物を採取します。

女性の場合は、外陰部を消毒した後、膣鏡を用いて滅菌綿棒で後膣内蓋部より採取します。淋菌を疑われる場合は、菌死滅を防ぐために淋菌分離用培地(サイアマーチン培地)に綿棒(できれば白金耳を使用)で塗付けて炭酸ガス条件下に保持し、提出してください。トリコモナスを疑われる場合は、採取後の綿棒を専用培地(トリコモナス培地)に入れてください。いずれも孵卵器(35～37℃)で保管(止むを得ない場合は、常温)してください。

4) 血液・穿刺液

●**血液** 採血に当たり、穿刺部位を十分に消毒してください。消毒方法は、70%アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くよう拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。1分後に注射器で採血します。血液培養用ボトル(レズンボトル好気性菌用・嫌気性菌用)は、予めキャップを取り、ゴム上部を70%アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液採取量は3～10mLです。

採取後の培養用ボトルは速やかに提出してください。

●**髄液** 採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行ってください。

5) その他の部位

●**膿瘍・創傷** 皮下組織や粘膜下の閉鎖性膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツ管にいれてください。嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気培養用輸送容器(ケンキポーターまたはシードチューブ)のゴム栓に刺し、注入します。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清掃後、滅菌綿棒(細菌検査用スワブ付属綿棒)で膿性部を採取し、指定容器(細菌検査用スワブ)に入れます。

項目 コード	検 査 項 目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
6865 8101	病理組織検査 1臓器	10%ホルマリン 固定組織	44	常温	染色・鏡検		860 病理	6 ～ 12	検査内容には標本作製と病理医 による報告を含みます。 所要日数は、切り出し、脱灰、脱 脂、再固定、特殊染色等の必要 が生じた際は、さらに日数を要す る場合がありますので、予めご 了承下さい。また、報告がコンサル テーションとなった場合も同様 です。 脚注参照 * 1
6893 8102	病理組織検査 2臓器	10%ホルマリン 固定組織	44	常温	染色・鏡検		1720 病理	6 ～ 12	
6894 8103	病理組織検査 3臓器	10%ホルマリン 固定組織	44	常温	染色・鏡検		2580 病理	6 ～ 12	
6863 8001	細胞診 (婦人科材料等によるもの)	湿潤固定標本		常温	染色・鏡検		150 病理 ①	5 ～ 6	80頁参照
6864 8002	細胞診 (穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等に よるもの)			常温	染色・鏡検		190 病理 ①	5 ～ 6	79頁・80頁参照
6907 8191	HER2/neu 《IHC法》	パラフィンブロック (腫瘍組織)		常温	免疫組織化学 染色		690 病理	6 ～ 10	
6988	HER2/neu 《FISH法》	パラフィンブロック (腫瘍組織)		常温	FISH 法		2700 病理 ②③	9 ～ 13	
1864 8193	エストロゲンレセプター 《IHC法》 〈ER〉	パラフィンブロック (腫瘍組織)		常温	免疫組織化学 染色		720 病理 ④	6 ～ 10	
1844 8194	プロゲステロンレセプター 《IHC法》 〈PgR〉	パラフィンブロック (腫瘍組織)					690 病理 ④	6 ～ 10	

【ご注意】 細胞診検査におきましては、細胞診専門医の判定が必要な場合、通常日数よりご報告が遅れることがあります。

* 1 : 検査材料の種類・検索目的等により特殊染色が必要となった場合、追加検査として別途検査料金を申し受けますので、予めご了承下さい。

- ① : 同一または近接した部位より同時に数検体を採取して検査を行った場合であっても、1回としての算定となります。
- ② : 抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断するために遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。
- ③ : HER2タンパクの免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製を併せて行った場合には、3050点を算定できます。
- ④ : 「免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製」としてER720点、PgR690点を算定することができます。ER、PgRを同一月に算定した場合は、いずれかの主たる点数に180点加算のみ算定が可能です。

病理組織検査 材料の提出方法

病理組織検査をご依頼の際は、検査材料を10～20%ホルマリン又は中性緩衝ホルマリン(ホルマリン原液5～10倍希釈)固定組織、パラフィンブロック、未染色スライドなど、HER2/neuをご依頼の際は、10%中性緩衝ホルマリン固定組織にてご提出ください。

【10～20%ホルマリン固定組織】

- 1) 検体は採取後、自家融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定してください。
- 2) 検体の固定には充分量の10～20%ホルマリン液(推奨:10～20%中性緩衝ホルマリン液)をご使用ください。(組織の10～20倍量を目安としてください)
- 3) 複数個の内視鏡下生検材料等をご提出の際は、採取組織毎に個々の容器に入れ、必要事項を記入しご提出ください。
なお微細組織の場合は、濾紙に貼り付けた上、個々の容器にお入れください。
- 4) 手術材料等の大きい組織をご提出の際は、別掲表の点に注意し、固定液が十分に浸透するように固定してください。

【未染色スライド】

- 1) 患者名、検査番号等を明記し、切片が傷つかないようにしてご提出ください。
- 2) 染色時の剥離が充分考えられますので、数枚余分にご提出ください。
- 3) スライドガラスは、剥離防止コートスライドガラスのものを使用し、37℃にて一晩乾燥後、パラフィンを融解せずにご提出ください。
酵素抗体法染色用には、“陰性対象”が必要ですので、依頼項目枚数+陰性対照用1枚+予備切片をご用意ください。
※判定までご要望の場合、HE染色用の未染色標本1枚もご準備ください。

注1: ブロック作成までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

注2: 切片の厚さ、伸展条件、保存状態などにより検査不適となる場合があります。

病理組織固定(ホルマリン固定)法

組 織	固定法
胃・腸管・胆嚢 等	臓器を切開後、粘膜面を上にし、板に広げ、虫ピンで止めて10～20%ホルマリン液に入れます。
肺	気管支断端から10～20%ホルマリンを注入し、断面にガーゼを挟み、表面にも厚めのガーゼを掛け、10～20%ホルマリン液に入れます。
子宮	前面よりY字型に切開して10～20%ホルマリン液に入れます。
厚みのある臓器	予め割を入れてから10～20%ホルマリン液に入れます。
廓清リンパ節	部位番号あるいは部位名を明記し、別々の容器で固定後、ご提出ください。

【パラフィンブロック】

患者名、検査番号等を明記し、ご提出ください。

注: ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

病理組織検査 実施料の算定について

- 1) 「病理組織標本作成「1」組織切片によるもの(1臓器につき)」として1臓器につき860点を算定することができます。
但し、検査に当たって、3臓器以上の検査を行った場合は、3臓器が限度となります。
- 2) 次に掲げるものは、その区分毎に1臓器として算定します。

①気管支および肺	⑥上行結腸、横行結腸および下行結腸
②食道	⑦S字結腸
③胃および十二指腸	⑧直腸
④小腸	⑨子宮体部および子宮頸部
⑤盲腸	
- 3) リンパ節については、所属リンパ節毎に1臓器として数えます。
但し、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数えるものとします。
- 4) 検査に当たって、免疫抗体法(蛍光抗体法、酵素抗体法)を用い

た検査を行った場合は、400点を算定することができます。

悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)、悪性黒色腫、筋ジストロフィーまたは筋炎が疑われ、確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には1600点を加算できます。

- 5) 肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)が疑われる患者に対して4)の加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載する必要があります。なお、既にEGFR遺伝子変異解析、ROS1融合遺伝子または肺がんALK(FISH法)を算定している場合には、当該加算は算定できません。

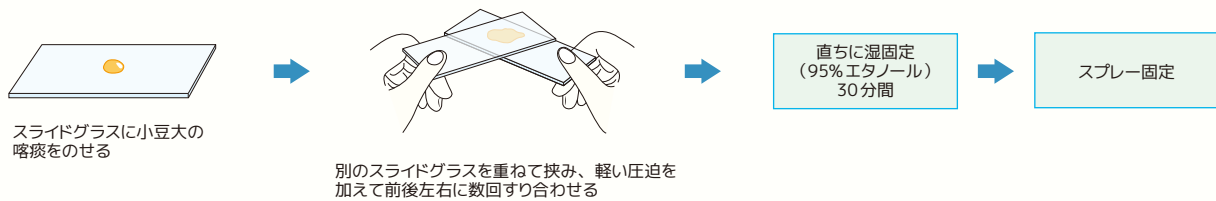
細胞診検査 材料の提出方法

原則として塗抹固定した未染標本スライドにてご提出ください。スライドガラスのフロスト部分に鉛筆で、患者名、材料名、湿固定・乾燥固定の別を明記してご提出ください。細菌検査および一般検査とは別にご提出ください。

【標本作製法】

喀痰

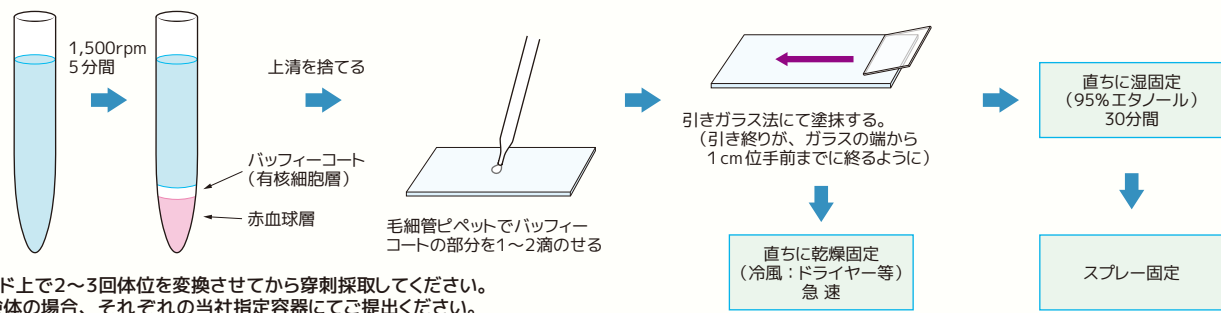
必要スライド枚数：湿固定2枚



*癌細胞は、血痰部・不透明白濁部・ゼリー状粘液部に多く含まれるため、性状をよく観察してから採取してください。
*生痰または蓄痰材料の場合、それぞれの当社指定容器にてご提出ください。

胸水・腹水

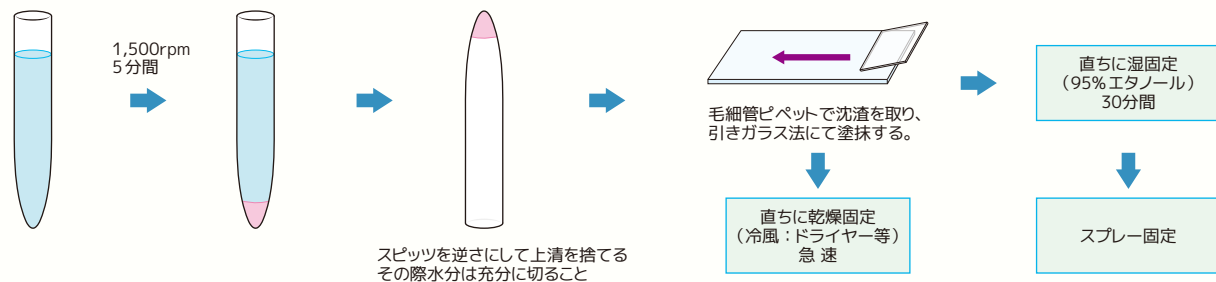
必要スライド枚数：湿固定3枚、乾燥固定1枚



*ベッド上で2〜3回体位を変換させてから穿刺採取してください。
*生検体の場合、それぞれの当社指定容器にてご提出ください。

尿

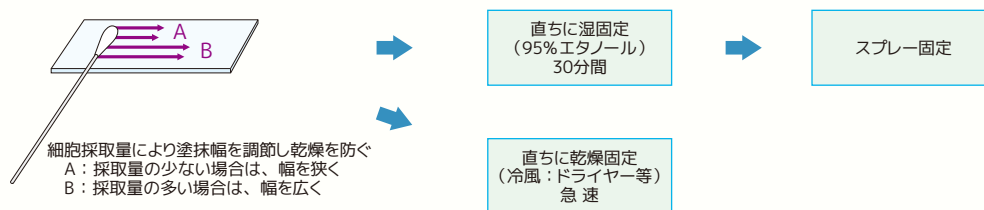
必要スライド枚数：湿固定2枚、乾燥固定1枚



*検尿カップに採取後30分から1時間静置、上清を静かに捨て、底部より10 mL 残し、混和後スピッツに移してご提出ください。

擦過標本

必要スライド枚数：湿固定1枚(婦人科検体)、湿固定2枚・乾燥固定1枚(その他検体)



*塗抹時の乾燥を防ぐため、標本作製は必ず採取現場で行い、塗抹後、瞬時に固定液に入れてください。
*婦人科頸部擦過スメアは、綿棒等を立てて塗抹してください。
*婦人科頸部内膜スメアは、綿棒等を寝かせて、回転させながら塗抹してください。

【固定操作】

- 1) 湿固定：塗抹後、直ちに95%エタノールにて固定(最低30分以上)後、スプレー固定剤をかけ、ご提出ください。(固定液がしたたるくらいに噴霧してください)
- 2) 乾燥固定：塗抹後、直ちに冷風(ドライヤー等)で急速に乾燥させてください。

注1：細胞診判定における一般的な染色はパピニコロウ染色であり湿固定での染色になりますので、湿固定標本は必ずご提出ください。

注2：特殊染色の必要が生じる場合がありますので、余分に塗抹、固定後、保存してください。

特定健診について

【検査を委託していただく上での注意事項】

1) 健診者への事前注意事項

検査前の食事については、健診前10時間以上は、水以外のすべての飲食物を摂取しないように指示して下さい。

2) 採血時

採血は適切に行って下さい。(JCCLSの標準採血法ガイドライン(GP4-A2)を参考)

3) 採血管の選択(巻末容器一覧参照)

- ・血清検査項目(TG、HDL-C、LDL-C、AST、ALT、γ-GT、CRE)の測定用には、原則として分離剤入りのプレイン管を使用して下さい。
- ・空腹時血糖測定用には、解糖阻止剤のフッ化ナトリウム(NaF)入りの採血管を使用して下さい。
- ・HbA1c測定用には、血糖測定用の採血管を使用して下さい。
- ・貧血検査測定用には、エチレンジアミン四酢酸(EDTA)入りの採血管を使用して下さい。

4) 採血した検体の取扱

◇血清

- ・採血後の採血管は、室温に静置後、12時間以内に遠心分離を行って、血清分離を行って下さい。
- ・血清は測定まで4～10℃下で保存して下さい。

◇全血

〈空腹時血糖・HbA1c〉

- ・採血後は採血管内のフッ化ナトリウム(NaF)を血液に速やかに溶かして下さい。
- ・全血は測定まで4～10℃下で保存して下さい。

〈貧血検査〉

- ・採血後は採血管内のエチレンジアミン四酢酸(EDTA)を血液に速やかに溶かして下さい。
- ・全血は測定まで室温で保存して下さい。

(注:例えば採血管をゆっくり転倒混和5回以上行つか、ローターに3分以上かける。)

◇尿

- ・採尿後4時間以内に試験紙法で検査を行うことが望ましいです。
 - ・困難な場合には、尿検体を専用の試験管に移して密栓し、4～10℃下で保存して下さい。
- (注:試験紙法の検査は、尿試験紙検査法JCCLS指針に従う)

5) 検体の搬送

検体の搬送は、4)の保存条件のもとに適切に行います。

6) 検査後の留意事項

検査結果については、報告書の記載内容の確認を行ってください。

【健診検査項目の判定値】

番号	項目名	保健指導判定値
1	血圧(収縮期)	130 以上
2	血圧(拡張期)	85 以上
3	中性脂肪	150 以上
4	HDL コレステロール	39 以上
5	LDL コレステロール	120 以上
6	non-HDL コレステロール	150 以上
7	空腹時血糖	100 以上
8	HbA1c(NGSP)	5.6 以上
9	随時血糖	100 以上
10	AST(GOT)	31 以上
11	ALT(GPT)	31 以上
12	γ-GT	51 以上
13	eGFR	60 未満
14	血色素量	13.0 以下(男性) 12.0 以下(女性)

【メタボリックシンドロームの診断基準】

- ① 肥満 …… 内臓脂肪蓄積(腹囲) 男性:85cm以上 女性:90cm以上 (内臓脂肪面積 男女ともに100cm²に相当)

+

下記2項目以上あてはまると「該当」となります

- ② 脂質 …… 高中性脂肪血症 150mg/dL 以上 または 低HDL コレステロール血症 40mg/dL 未満

- ③ 血圧 …… 収縮期血圧 130mmHg 以上 または 拡張期血圧 85mmHg 以上

- ④ 血糖 …… 空腹時血糖 110mg/dL 以上 または HbA1c(NGSP) 6.0% 以上

検査時の結果が上記を満たしていなくても、脂質異常症、高血圧症、糖尿病に対する薬を服用されている場合は、それぞれの項目に該当されます。

該 当	①にあてはまり、②、③、④のうち2つ以上あてはまる場合、メタボリックシンドローム該当
予 備 群	①にあてはまり、②、③、④のうち1つあてはまる場合、メタボリックシンドローム予備群
非 該 当	該当、予備群以外の場合、メタボリックシンドローム非該当
判定不能	①、②、③、④の検査項目のうち1つでも未実施の検査があり、判定が確定できない場合

●健診セット内容

セット番号	S-911		S-912		S-901		S-902		S-920	
検査項目	AST(GOT) ALT(GPT) γ-GT クレアチニン eGFRクレアチニン HDLコレステロール LDLコレステロール 中性脂肪 総コレステロール計算 赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット HbA1c(NGSP)		AST(GOT) ALT(GPT) γ-GT HDLコレステロール LDLコレステロール 中性脂肪 総コレステロール計算 HbA1c(NGSP)		HBs 抗原 定性 HCV 抗体/検診		HBs 抗原 定性 HCV 抗体/検診 HCV-RNA/検診*		HCV 抗体/ 検診 HCV-RNA/ 検診*	
採取容器	汎用容器	4mL	汎用容器	4mL	汎用容器	4mL	汎用容器	4mL	汎用容器	4mL
	血液学用	2mL	HbA1c 用	2mL			ウイルス遺伝子検査用	5mL	ウイルス遺伝子検査用	5mL
	HbA1c 用	2mL								

*「HCV-RNA/ 検診」は、「HCV 抗体」が 中・低力価の場合 に検査いたします。
※ご依頼の際は、[検診専用依頼書] をご使用ください。

【特定健診質問票】

【健康診査結果通知書】

健康診査結果通知書

氏名(カナ)ケンコウ ハナコ 様

生年月日昭和27年 2月27日

健診年月日2018年 6月 6日

性別/年齢女性 66 歳

受診番号

既往歴

喫煙歴あり

飲酒時々

項目

基準範囲

今年結果

前年結果

前々年結果

既往歴

身長

154.6

154.3

154.7

脳血管

体重

55.7

55.6

55.5

腎不全・人工透析

収縮期血圧

115.0

115.2

115.1

高血圧

拡張期血圧

75.0

75.0

75.0

高血圧

BMI

23.3

23.3

23.2

高脂質血症

収縮期血圧 (mmHg)

115.0

115.2

115.1

高血圧

拡張期血圧 (mmHg)

75.0

75.0

75.0

高血圧

中性脂肪 (mg/dL)

159.1

159.1

159.1

高脂質血症

HDLコレステロール (mg/dL)

60.0

60.0

60.0

高脂質血症

LDLコレステロール (mg/dL)

137.1

137.1

137.1

高脂質血症

AST (GOT) (U/L)

17.0

17.0

17.0

肝臓病

ALT (GPT) (U/L)

24.0

24.0

24.0

肝臓病

γ-GT (U/L)

31.0

31.0

31.0

肝臓病

血糖検査

空腹血糖 (mg/dL)

140.0

140.0

140.0

糖尿病

HbA1c (NGSP) (%)

6.2

6.2

6.2

糖尿病

尿検査

糖

(-) (±) (±) (±)

糖尿病

蛋白

(-) (±) (±) (±)

糖尿病

貧血検査

赤血球数 (万/μL)

437.0

437.0

437.0

貧血

血色素量 (g/L)

12.4

12.4

12.4

貧血

ヘマトクリット値 (%)

34.5

34.5

34.5

貧血

クレアチニン (mg/dL)

0.79

0.79

0.79

腎臓病

eGFR (mL/分/1.73m²)

55.7

55.7

55.7

腎臓病

その他の検査

基準範囲: 診療に用いる基準範囲であり、表面に記載の特定健診「保健指導判定値」とは異なります。

心電図検査

所見異常なし

心電図検査

所見異常なし

眼底検査

所見異常なし

メタボリックシンドローム判定

非該当

検査分野別判定

血圧に異常が認められます

血糖に異常が認められます

脂質に異常が認められます

腎臓に異常が認められます

医師の判断

血圧・血糖・脂質・腎臓: 当年度の結果及び診療に基づき異常なし

心電図検査: 当年度の結果及び診療に基づき異常なし

眼底検査: 当年度の結果及び診療に基づき異常なし

医師の氏名

特定 太郎

報告日

2018/4/6

四国中核 香川

990100

099

0000001

※「特定健診質問票」は二枚複写になっています。一枚目に「検診専用依頼書」のバーコードラベルを添付してご提出ください。二枚目は「控」とし、これをもって受領証明書に代えさせていただきます。

(縮小表示)

(縮小表示)

生化学検査		
総蛋白	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
A/G比	同上	
アルブミン	同上	
蛋白分画	同上	
ZTT	同上	
総ビリルビン	同上	
直接ビリルビン	同上	
間接ビリルビン	同上	
AST	同上	
ALT	同上	
LD	同上	
アルカリホスファターゼ	同上	
LAP	同上	
γ-GT	同上	
コリンエステラーゼ	同上	
CK	同上	
アルドラーゼ	宮原洋一: Med. Technol. 12, 157, 1984.	※03
アミラーゼ	加藤 隆則, 他: 日本臨床検査自動化学会 28(4) 353 2003	
(尿)アミラーゼ	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版医歯薬出版(2012) p 246-252	
グアナーゼ	杉山正康, 他: 臨床化学 12, 304, 1983.	※03→21
アデノシンデアミナーゼ	山田満廣, 大西将則: 日臨検自動化学誌 17, 135, 1992.	※03
(穿刺液)ADA	金井 正光, 他: 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
リゾチーム(血清)	仁科甫啓, 他: 臨床病理 21, 37, 1973.	※03
リゾチーム(尿)	同上	※03
トリプシン	河野幹彦, 櫻林郁之介: 医学と薬学 53(5), 635, 2005.	※03
	宮谷博幸, 他: 医学と薬学 56(5), 771, 2006.	
瞬ホスホリパーゼA2	上田 章, 他: 臨床病理 37, 561, 1989.	※03
ペプシノゲン	北内信太郎, 他: Prog.Med. 21, 2451, 2001.	※03
尿中NAG	杉田 収, 日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 141-143, 2004.	
MMP-3	氏家真二, 他: 医学と薬学 51, 503, 2004.	※03
LDアイソザイム	井出純子, 他: 日臨検自動化学誌 28, 364, 2003.	※03
ALPアイソザイム	同上	※03
CKアイソザイム	同上	※03
CK-MB(%)	庄司進一, 日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 340-343 2004.	
CK-MB定量		※03
P型アミラーゼ	日本臨床62巻 増刊号 11: 元雄良治, 日本臨床社(2004) p 387-389	
(尿)P型アミラーゼ	同上	
m-AST	岡部純明: 医学のあゆみ 146, 517, 1988.	※03
クレアチニン	河合 忠, 他: 異常値の出るメカニズム第6版 医学書院, 2013	
(蓄尿)クレアチニン	中原一彦, 他: 日本臨床62巻増刊号 11 第6版 日本臨床社(2004) p 579-583	
シスタチンC	斉藤恵祐: 検査と技術 vol. 34 no. 11, 医学書院 2006	
尿酸	河合 忠, 他: 異常値の出るメカニズム第6版 医学書院, 2013	
(蓄尿)尿酸	大久保 昭行, 他: 検査と技術 vol.20 no.6 増刊号 医学書院, 1992	
尿素窒素	金井 正光, 他: 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
(蓄尿)尿素窒素	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
アンモニア	中村郁夫, 日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 597~599, 2004	
アミノ酸分画(血漿)	植木真琴, 他: 臨床病理 28(補), 138, 1980.	※03
	大沢恵津子, 他: 臨床化学シンポジウム 20, 142, 1980.	
	Stein, W. H. and Moore, S.: J. Biol. Chem. 176, 337, 1948.	
アミノ酸分画(尿)	同上	※03
アミノ酸11分画(血漿)	小田 治, 他: 第24回液体クロマトグラフ研究会講演要旨集 22, 32, 1981.	※03
BTR	杉山正康, 他: 臨床病理 40, 673, 1992.	※03
グルコース	富永真琴, 日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 627-629, 2004.	
グリコアルブミン	日本糖尿病学会: 糖尿病治療ガイド2002-2003 7 2002	
HbA1C(NGSP)	河原玲子, 日本臨床62巻 増刊号11(通巻858号)第6版 日本臨床社 p 648-650, 2004.	
1,5AG	森脇貴美, 他: 機器・試薬 24, 139, 2001.	※03
ヒアルロン酸	島村 朗, 他: 医学と薬学 44, 1141, 2000.	※03
KL-6		※03
乳酸	浅沼和子, 他: 生物試料分析 8, 16, 1985.	※03
ビルビン酸	同上	※03
ケトン体分画(静脈血)	Harano, Y. et al.: Clin. Chim. Acta 134, 327, 1983.	※03
ケトン体分画(動脈血)	Ozawa, K. et al.: Am. J. Surg. 146, 299, 1983.	※03
	鈴木尚子, 他: Kameraden 25, 20, 1997.	
中性脂肪	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
総コレステロール	同上	
HDLコレステロール	同上	
LDLコレステロール	同上	
リン脂質	同上	

総胆汁酸	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
グリココール酸	石井勝己, 他: 小児科臨床 32(8), 1635, 1979.	※03
全脂質脂肪酸分画	芝原 章, 他: 油化学 27, 233, 1978. 内山 充: 臨床化学 1, 398, 1972. 金井 晃: ぶんせき 11, 774, 1978.	※03
βリポ蛋白	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
リポ蛋白分画	厚生労働省・日本医師会編: 高脂血症診断の手引き, 33, 日本医事新報社, 1991.	※03
リポ蛋白分画精密測定	Roche, D. et al.: Clin. Chem. 31, 1893, 1985.	※03→21
リパーゼ	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
リポ蛋白(a)		※03
レムナント様リポ蛋白コレステロール	滝野 豊, 他: 医学と薬学 56, 269, 2006.	※03
アポ蛋白	野間昭夫, 他: 動脈硬化 16, 832, 1988.	※03
β-カロチン	加美山茂利, 他: 臨床検査 31, 268, 1987.	※03→21
ビタミンA	Henry, R. et al.: Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd Ed., p. 1375, Harper & Row Publishers, 1974.	※03→21
ビタミンB 1	宮川秀則, 他: 生物試料分析 36(4), 327, 2013.	※03
ビタミンB 2	安田和人, 他: 臨床病理 29, 564, 1981.	※03
ビタミンB 1 2	河口行雄, 他: 医学と薬学 41, 145, 1999.	※03
葉酸	安田和人, 他: 機器・試薬 25, 441, 2002.	※03
カルニチン	市本景子, 他: 新薬と臨床 66(9), 1176, 2017. 松井朝義, 他: 生物試料分析 35(4), 271, 2012.	※03
ビタミンC	J. Lykkesfeldt, et al.: Analytical Biochemistry 229, 329, 1995.	※03→16
2 5 -OHビタミンD (Total)	大藺恵一: 診断と治療のABC 110(別冊), 218, 2016. 日本小児内分泌学会: ビタミンD 欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き, 2013.	※03
1α, 2 5 -(OH) 2 ビタミンD	鈴木正司, 他: 臨床透析 14, 371, 1998.	※03
ビタミンE	阿部皓一, 他: 栄養と食糧 28, 277, 1975.	※03→21
レチノール結合蛋白	三浦信樹, 他: 臨床病理 57(3), 195, 2009.	※03
ナトリウム	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
クロール	同上	
カリウム	同上	
カルシウム	同上	
マグネシウム	同上	
無機リン	同上	
鉄	同上	
U I B C	同上	
銅	長谷川浩子, 他: 機器・試薬 19, 814, 1996.	※03
(尿)銅	奥田 稔, 林 康之: 臨床病理(特集第17号), 84, 1970.	※03
亜鉛(血清)	松本武志, 金井 晃: 検査と技術 9, 478, 1981.	※03
亜鉛(尿)	同上	※03
アルミニウム	Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N.: Clin. Chim. Acta 147, 247, 1985.	※03
マンガン(血液)	加地 浩, 他: 日本災害医学会会誌 37, 195, 1989.	※03
マンガン(血清)	同上	※03
マンガン(尿)	同上	※03
ニッケル	Mikac-Devic, D. et al.: Clin. Chem. 23(6), 948, 1977.	※03
鉛	労働省労働基準局労働衛生課(監修): 鉛健康診断のすすめ方, p. 56, (社)全国労働衛生団体連合会事務局, 1990.	※03
クロム(血液)	田中俊行, 他: 医学と生物学 101, 277, 1980.	※03
クロム(血清)	同上	※03
クロム(尿)	同上	※03
カドミウム(血液)	Lagesson, V. and Andrasko, L.: Clin. Chem. 25, 1948, 1979.	※03
カドミウム(尿)	同上	※03
水銀(血液)	宮永昭一, 他: 食品衛生学雑誌 25, 30, 1984.	※03
6-アミノレブリン酸	岡山 明, 他: 医学のあゆみ 139, 845, 1986.	※03
尿中ポルフォビリノーゲン	垣下榮三: 日本臨牀. 53(増刊), 871, 1995.	※03→16
尿中ウロポルフィリン	Nuttall, K.L. et al.: Ann. Clin. Lab. Sci. 26, 313, 1996. 近藤雅雄: 日本臨牀 53, 1377, 1995.	※03
尿中コプロポルフィリン	Nuttall, K.L. et al.: Ann. Clin. Lab. Sci. 26, 313, 1996. 近藤雅雄: 日本臨牀 53, 1377, 1995.	※03
コプロポルフィリン定量	Salmi, M.: Clin. Chem, 26, 1832, 1980.	※03→18
エタノール	鈴木加奈子: 薬毒物分析実践ハンドブック, 118, じほう, 東京, 2002.	※03
血液浸透圧	長浜大輔: 検査と技術 14, 961, 1986.	※03
尿浸透圧	同上	※03
I C G 停滯率	金井正光, 他: 臨床検査法提要(改訂第34版) 金原出版株式会社 p 1441-1442, 2015.	
I C G 消失率	同上	
2 4 時間クレアチンクリアランス	中原一彦, 他: 日本臨床62巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 579-583, 2004.	
クレアチンクリアランス	同上	
結石鑑別	亀田治男: 医化学実験講座B, p. 525, 中山書店, 東京, 1973.	※03→21
馬尿酸	労働省労働基準局労働衛生課(監修): 有機溶剤健康診断のすすめ方, p. 135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局, 1990.	※03
メチル馬尿酸	同上	※03

主要参考文献

マンデル酸	労働省労働基準局労働衛生課(監修)：有機溶剤健康診断のすすめ方,p. 135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局, 1990.	※03
総三塩化物	同上	※03
トリクロル酢酸	同上	※03
N-メチルホルムアミド	同上	※03
2, 5ヘキサンジオン	同上	※03
尿中硫酸抱合型胆汁酸	Tazuke Y.,et al: 臨床化学 21、249-258, 1992 Matui A., et al:J.pediatr., 129, 306-308, 1996	
血液ガス分析	諏訪 邦夫：血液ガスABC 中外医学社, 1990	
薬物検査		
フェノバルビタール	川崎 博巳：日本臨床 62 巻増刊号 12 日本臨牀社, 2004	
プリミドン	Oellerich,M. :J. Clin.Chem.Clin.Biochem. 18, 197, 1980.	※03
フェニトイン	川崎 博巳：日本臨床 62 巻増刊号 12 日本臨牀社, 2004	
カルバマゼピン	同上	
バルプロ酸ナトリウム	同上	
エトサクシミド		※03
トリメタジオン		※03
クロナゼパム		※03
ニトラゼパム		※03
ジアゼパム		※03
ゾニサミド	熊谷 昇, 他：臨床医薬 5, 843, 1989.	※03
ガバペンチン		※03
クロバザム		※03
レベチラセタム	赤松直樹, 他：Epilepsy 4 (2), 129, 2010.	※03
ラモトリギン	小嶺幸弘：沖縄医報 45 (9), 51, 2009.	※03
トピラマート	小嶺幸弘：沖縄医報 45 (9), 51, 2009. 金澤 治：こころの科学 (157), 45, 2011.	※03
スチリペントール	Fisher J.L. :Epilepsia 52 (Suppl. 2), 76, 2011.	※03
ルフィナミド	山内俊雄, 他：臨床医薬 15, (8), 1341, 1999. Perucca E, et al. :Epilepsia 49 (7), 1123, 2008.	※03
クロチアゼパム		※03
フルニトラゼパム		※03
ミダゾラム		※03
アルプラゾラム		※03
プロチゾラム		※03
リチウム	Pybus, J. and Bowers Jr.,J. :Clin.Chem. 16, 139, 1970.	※03
ハロペリドール	上野 哲, 他：日臨検自動化会誌 29, 360, 2004.	※03
クロルプロマジン		※03
フロムペリドール	上野 哲, 他：日臨検自動化会誌 29, 360, 2004.	※03
アミトリプチリン	奈女良昭, 屋敷幹雄：薬毒物分析実践ハンドブック,p. 222, じほう, 東京, 2002.	※03
イミプラミン・デシプラミン	同上	※03
キニジン	Kessler K.M. et al, :New Eng.J.Med. 290, 706, 1974.	※03
プロカインアミド	Jolley.M.E. et al. :Clin.Chem. 27, 1575, 1981.	※03
ジソピラミド		※03
リドカイン	Cobb.M.E. et al. :Clin.Chem. 23, 1161, 1977.	※03
アブリンジン		※03
塩酸ピルジカイニド		※03
プロパフェノン		※03
メキシレチン		※03
アミオダロン		※03
ビルメノール		※03
コハク酸シベンゾリン		※03
フレカイニド		※03
ベプリジル	鎌倉 令, 他：心電図 31 (2), 150, 2011.	※03
ソタロール	Tagawa M.et al. :Jpn Circ J. 65 (Sup1-A), 386, 2001.	※03
ジゴキシン	山本 康次郎：日本臨床 62 巻増刊号 12 日本臨牀社, 2004	
テオフィリン	西原 カズヨ：日本臨床 62 巻増刊号 12 日本臨牀社, 2004	
ゲンタマイシン	Jolley.M.E. et al. :Clin.Chem. 27, 1575, 1981.	※03
トブラマイシン	Anhalt J.P. :Interpretation of antimicrobial concentrations in serum.American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program,April, 1981.	※03
アミカシン	同上	※03
アルベカシン	Jolley.M.E. et al. :Clin.Chem. 27, 1575, 1981.	※03
バンコマイシン	伊賀立二, 他：薬剤師・薬学生のための実践TDMマニュアル, じほう, 東京, 2004.	※03
テイコプラニン	諸岡美里, 他：日本臨床検査自動化学会会誌 38 (1), 79, 2013.	※03
ポリコナゾール		※03

アセトアミノフェン	Rumack BH : Arch Intern Med. 141, 380, 1981.	※03
サリチル酸	野口佳男, 他 : 基礎と臨床 21, 511, 1987.	※03
メトトレキサート	中原佑香里, 他 : 医学と薬学 72(4), 761, 2015.	※03
イマチニブ	Picard S. et al. : Blood 109(8), 3496, 2007.	※03
L-ドーパ	Felice, L. J. et al. : J. Neurochem. 31, 1461, 1978.	※03
	Hegstrand, L. R. and Eichelman, B. : J. Chromatogr. 222, 107, 1981.	
シクロスポリン	古屋 実, 他 : 医学と薬学 70(5・6), 961, 2013.	※03
タクロリムス	同上	※03
腫瘍関連検査		
A F P	金井 正光, 他 : 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
A F P レクチン分画	Shimizu, K. et al. : Clin. Chim. Acta 214, 3, 1993.	※03
C E A	金井 正光, 他 : 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
C A 1 9 - 9	同上	
C A 1 2 5	Blackburn G. F. et al : Clin Chem 37 1534-1539 1991	
B F P	石井 勝, 他 : 癌と化療 15, 2107, 1988.	※03
S P a n - 1 抗原	梅山 馨, 他 : 脾臓 3, 528, 1988.	※03
D U P A N - 2	竹森康弘, 他 : 癌と化療 14, 119, 1987.	※03
エラスターゼ1	大出勝也, 沢井時男 : 臨床病理 50, 376, 2002.	※03
S L X	井村裕夫, 他 : 癌と化療 14, 1322, 1987.	※03
N C C - S T - 4 3 9	大倉久直, 他 : 癌と化療 14, 1901, 1987.	※03
B C A 2 2 5	小林美耶子, 他 : 医学と薬学 72(7), 1249, 2015.	※03
C A 1 5 - 3	梅木尚子, 他 : 日臨検自動化会誌 26, 143, 2001.	※03
N S E	堀田多恵子, 他 : 生物試料分析 34(5), 345, 2011.	※03
P r o G R P	宮越静代, 他 : 医学と薬学 63, 809, 2010.	※03
	Yoshimura T. et al. : Tumor Biol. 29, 224, 2008.	
S C C 抗原	高木 康, 他 : 医学と薬学 52, 413, 2004.	※03
シフラ		※03
前立腺酸性フォスファターゼ	地曳和子, 他 : ホルモンと臨床 29, 1547, 1981.	※03
γ-S m	佐藤達郎, 他 : 医学と薬学 43, 97, 2000.	※03
P S A	武田 悟, 他 : Progress in Medicine 21(9) 149-153 2001	
P S A - A C T	新井京子, 他 : 泌尿器外科 17, 399, 2004.	※03
C A 6 0 2	野澤志朗, 他 : 癌と化療 19, 2085, 1992.	※03
S T N	井村裕夫, 他 : 癌と化療 16, 3213, 1989.	※03
C A 7 2 - 4	青山 昭, 他 : 医学と薬学 49, 127, 2003.	※03
s i l - 2 R	伏見美津恵, 他 : 医学と薬学 73(7), 875, 2016	※03
	古川亜紀, 他 : 医療と検査機器・試薬 39(3), 263, 2016.	
H E 4	木村英三 : 産婦人科の実験 64(8), 1055, 2015.	※03
	竹内 聡, 他 : Biotherapy 23(2), 136, 2009.	
遊離 H C G - β (血清)	菅原由人, 他 : 機器・試薬 14, 467, 1991.	※03
遊離 H C G - β (尿)		※03
I 型 C T P	清原 剛, 他 : ホルモンと臨床 42, 1189, 1994.	※03
[腫瘍関連]デオキシピリジノリン	畠 啓視, 他 : ホルモンと臨床 42, 659, 1994.	※03
[腫瘍関連] N T x	高見 博, 他 : ホルモンと臨床 43, 655, 1995.	※03
H E R 2 蛋白定量	Luftner D, et al : Int. J. of Biol. Markers 19, 1, 2004.	※03
内分泌学検査		
G H	小山沙世, 他 : 医学と薬学 68 : 899, 2012.	※03
L H	坂倉 啓一, 他 : ホルモンと臨床 53(5), 123-129 2005	
F S H	同上	
A C T H	阿部正樹, 他 : 医学と薬学 57, 239, 2007.	※03
プロラクチン	高加 国夫, 他 : 医学と薬学 56(4), 577-586 2006	
A V P (A D H)	田中誠仁, 他 : 医学と薬学 72(8), 1379, 2015	※03
ソマトメジン C	Isojima T, et al. : Endocrine J. 59(9), 771, 2012.	※03
T S H	楚南 盛正, 他 : 医学と薬学 46(5) 759-771 2001	
T 3	同上	
T 4	同上	
F T 3	同上	
F T 4	同上	
サイログロブリン	北川 亘, 他 : 医学と薬学 71(9), 1655-1666 2014	
サイロイドテスト	西野道夫, 日本臨床 63 巻増刊号 8(通巻 876 号) 第 6 版 日本臨床社 p 280-283, 2005.	
マイクロゾームテスト	同上	
抗サイログロブリン抗体	森田 新二, 他 : 医学と薬学 55(5), 775-782 2006	
抗 T P O 抗体	同上	

主要参考文献

T S Hレセプター抗体	吉村 弘, 他: 医学と薬学 59: 1111, 2008.	※03
T S A b	上条桂一, 他: 医学と薬学 71(5), 903, 2014.	※03
T B G	伴 良男, 他: ホルモンと臨床 27, 1287, 1979.	※03
カルシトニン	北川 亘, 他: 医学と薬学 72: 97, 2015.	※03
ホール P T H	森山和重, 他: 医学と薬学 70(4): 829, 2013.	※03
P T Hインタクト	猪俣 啓子, 他: オステオポロシス ジャパン12(3) 449-456 2004	
P T H r Pインタクト	福本誠二, 他: ホルモンと臨床 40, 1309, 1992.	※03
オステオカルシン(血清)	戸来 孝, 他: 日本臨床検査自動化学会会誌 40(1): 52, 2015.	※03
骨型 A L P	倉澤健太郎, 他: 医学と薬学 55, 279, 2006.	※03
T O T A L P 1 N P	日高好博: 医学と薬学 70(2), 357, 2013.	※03
[骨粗鬆症] N T x (血清)	日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12, 191, 2004.	※03
[骨粗鬆症] N T x (尿)	同上	※03
T R A C P - 5 b	三木隆巳, 他: 医学と薬学 55, 443, 2006.	※03
[骨粗鬆症]デオキシピリジノリン	日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12, 191, 2004.	※03
カテコールアミン3分画(血漿)	辻 潮, 他: 機器・試薬 11, 635, 1988.	※03
カテコールアミン3分画(尿)	守 和子: 第47, 48回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座, 高速液体クロマトグラフィー セミナー要旨集, p, 6-8, 1977. Anderson, G.M. et al.: Clin. Chem. 27, 2060, 1981.	※03
遊離カテコールアミン3分画	同上	※03
メタネフリン2分画	守 和子: 第47, 48回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座, 高速液体クロマトグラフィー セミナー要旨集, p, 6-8, 1977.	※03
V M A (定量)	Flood, J. G. et al.: Clin. Chem. 25, 1234, 1979.	※03
H V A (尿)	Rosano, T. G. et al.: Clin. Chem. 27, 228, 1981.	※03
ドーパミン・総	Hansson, C. et al.: J. Chromatogr. 162, 7, 1979.	※03
セロトニン(血液)	石田淳一, 他: Jasco Report 39(1, 7), 7, 1997.	※03
セロトニン(血漿)	同上	※03
5 - H I A A (尿)	Rosano, T. G. et al.: Clin. Chem. 28, 207, 1982.	※03
血漿レニン活性	宇津貴央, 他: 医学と薬学 73(3), 311, 2016.	※03
レニン濃度	土屋ますみ, 他: 医学と薬学 32, 529, 1994.	※03
アルドステロン(血漿)	塩之入洋, 他: 医学と薬学 21, 293, 1989.	※03
アルドステロン(尿)	同上	※03
A C E	Kasahara, Y. et al.: Clin. Chem. 27, 1922. 1981.	※03
D O C	栃木武一, 他: ホルモンと臨床 24, 1151, 1976.	※03→11
コルチコステロン	Nabors, C. J. et al.: Steroids 23, 363, 1974.	※03→11
コルチゾール		※03
遊離コルチゾール	福島靖恵, 他: 機器・試薬 22, 509, 1999.	※03
コルチゾン	遠藤 伸, 他: ホルモンと臨床 45, 707, 1997.	※03→11
アンドロステンジオン	吉田孝雄, 他: ホルモンと臨床 22(5), 671, 1974.	※03→11
アンドロステロン	Youssefnejadian, E.: Steroids 22, 63, 1973.	※03→11
1 7 - K G S	神戸川明: ホルモンと臨床 22, 1311, 1974.	※03→11
1 7 - K G S分画	同上	※03→11
1 7 - K S分画(3分画)	Suzuki, T. et al.: Endocrine J. 50, 571, 2003.	※03
1 7 - K S分画(7分画)	同上	※03
ステロイド10分画	同上	※03
D H E A - S	市原清志: 日本臨床検査自動化学会会誌 37(Suppl1), 36, 2012 増戸梨恵, 他: 医学と薬学 56(3), 443, 2006.	※03
プレグナンジオール	Suzuki, T. et al.: Endocrine J. 50, 571, 2003.	※03
プレグナントリオール	同上	※03
テストステロン	木内 理世, 他: 医学と薬学 64(1), 87-93 2010	
5 α -D H T	穂坂正彦, 他: 日内分泌会誌 49, 1391, 1973.	※03→11
プロジェステロン	岩佐 武, 他: 産科と婦人科 73(1), 133, 2006.	※03
総エストロジェン・非妊婦	高見和子, 他: 日内分泌会誌 59, 10, 1983.	※03→11
E 2	松崎 利也, 他: 医学と薬学 72(5), 931-941 2015	
E 3		※03→11
H C G	河合 忠, 他: 異常値の出るメカニズム第6版 医学書院, 2013	
H C G (尿)	同上	
H C G (尿)定性	櫻木郁之介, 他: 検査項辞苑第2版 大塚製薬株式会社 大塚アッセイ研究所発行 p530, 1999.	
癌胎児性 F N	一條元彦, 他: 産婦人科治療 67, 212, 1993.	※03
インスリン	青山 昭, 他: 医学と薬学 45(3) 467-472 2001	
インスリン抗体	村山 寛, 他: 医学と薬学 60, 289, 2008.	※03
抗 G A D抗体	及川洋一, 他: 医学と薬学 72(9), 1551, 2015.	※03
抗 I A - 2抗体	松浦信夫, 他: プラクティス 16, 567, 1999.	※03
C - ペプチド(血清)		※03
C - ペプチド(尿)		※03
ガストリン	竹田昌弘, 他: ホルモンと臨床 31, 1123, 1983.	※03
B N P	薦本 尚慶, 齊藤 能彦編: 新BNPと日常臨床第2版, 南江堂, 2006	
N T - p r o B N P	金井 正光, 他: 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
H A N P	横田智佳, 他: 検査機器・試薬 36(5), 699, 2013.	※03

エリスロポエチン	増田詩織, 他: 医学と薬学 67(2)297, 2012.	※03
肝細胞増殖因子	市原清志: 日本臨床検査自動化学会誌 37(suppl.1): 15, 2012.	※03
C-AMP(血漿)	武藤泰敏, 他: 肝胆臓 25, 541, 1992.	※03
	Honma, M. et al.: Biochem. Med. 18, 257, 1977.	※03
免疫血清学検査		
ASK価	加野象次郎, 日本臨床63巻 増刊号6版 日本臨床社, p 127-135 2005.	
ASO価	金井 正光, 他: 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
RPR 定性	櫻木郁之介, 他: 検査項辞苑第2版 大塚製薬 p 727	
RPR	同上	
TPHA 定性	西井久枝, 松本哲郎 日本臨床63巻増刊号7 第6版 日本臨床社 p 140-141, 2005.	
TPHA	同上	
FTA-ABS 定性	金井正光(編著): 臨床検査法提要(改訂第34版), p. 917, 金原出版, 東京, 2015.	※03
マイコプラズマ抗体(PA)	福島和子, 日本臨床63巻増刊号7 第6版 日本臨床社 p 227-230 2005.	
マイコプラズマ抗体	富山哲雄: 臨床検査 19, 1240, 1975.	※03
マイコプラズマ抗体	同上	※03
マイコプラズマ抗体 IgM	同上	
マイコプラズマLAMP法	山口恵三, 他: 医学と薬学 58(4), 565-571, 2007.	
寒冷凝集反応	窪田哲朗, 臨床検査講座第2版 免疫検査学 医歯薬出版 p 120, 198-199 2015.	
百日咳菌抗体	岡田賢司: 医学と薬学 65(4), 531, 2011.	※03
	岡田賢司: 臨床検査 56(4), 412, 2012.	
トキソプラズマ IgG	田畑宏道, 高橋亜紀: 医学と薬学 71(1), 145, 2014.	※03
トキソプラズマ IgM	同上	※03
エンドトキシン定量	石原美弥子, 他: 検査と技術 30, 739, 2003.	※03
透析液エンドトキシン	秋葉 隆, 他: 透析液水質基準と血液浄化器性能評価基準 2008(透析会誌41(3)) 日本透析医学会, 2008	
β-D-グルカン	吉田耕一郎, 他: 医学と薬学 67, 895, 2012.	※03
	大林民典: 臨床病理 44, 528, 1996.	
ツツガムシ抗原 IgG	山本正悟: 臨床とウイルス 12, 270, 1984.	※03→17
ツツガムシ抗原 IgM	同上	※03→17
ツツガムシカトー IgG	同上	※03→17
ツツガムシカトー IgM	同上	※03→17
ツツガムシカーブ IgG	同上	※03→17
ツツガムシカーブ IgM	同上	※03→17
オーム病抗体	厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査(第2版), p. 73, (財)日本公衆衛生協会, 東京, 1978. ⑧03 Uyeda, C. T. et al.: J. Clin. Microbiol. 20, 948, 1984. Friis, B. et al.: Microbiol. Immunol. Scand. Sect. B 92, 139, 1984.	
カンジダ抗原	小笠原仁, 他: 機器・試薬 10, 1183, 1987.	※03
アスペルギルス抗原	見手倉久治, 他: 医学と薬学 42, 207, 1999.	※03
アスペルギルス抗体	Walter, J. S. et al.: Dis. Chest 53, 729, 1968.	※03
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgA・IgG	岸本寿男, 他: 感染症学雑誌 70, 821, 1996.	※03→24
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgM	同上	※03→24
クラミジア・トラコーマチス同定DNA	熊本悦明, 他: 医学と薬学 66(6), 1007, 2011.	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA	同上	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(うがい液)	同上	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(SDA法)	澤田直登: 臨床微生物迅速診断研究会 14, 31, 2003.	※03
淋菌同定DNA(TaqMan PCR法)	熊本悦明, 他: 医学と薬学 66(6), 1007, 2011.	※03
淋菌同定DNA(SDA法)	澤田直登: 臨床微生物迅速診断研究会誌 14, 31, 2003.	※03
ヘリコバクター・ピロリ抗体 IgG	井上和彦, 他: 医学と薬学 72, 331, 2015.	※03
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	神谷 茂, 他: 感染症誌 76, 378, 2002.	※03
尿素呼吸試験	金井正光(監修): 臨床検査法提要(改訂第34版) p 1399-1400 金原出版, 2015. 6. 30	
ブレアルブミン	河合 忠, 他: 臨床病理 44(5), 429, 1996.	※03
尿中マイクロアルブミン	熊坂一成, 他: 日本臨床62巻 増刊号11 第6版 日本臨床社 p 88-90 2004.	
α1マイクログロブリン	徳山昌司郎: 医学と薬学 39(4), 835, 1998.	※03
	伊藤喜久: 検査と技術 16(7), 658, 1988	
	伊藤喜久: 臨床検査 32(8), 863, 1988	
β2-m	金井 正光, 他: 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
(尿)β2-m	同上	
フェリチン	同上	
ハプトグロビン(Hp)型判定	河合 忠, 他: 臨床病理(特集第101号), 207, 1996.	※03
α2マクログロブリン	飯村康夫, 他: 日本臨床 42(春季臨増), 1209, 1984.	※03
α1アンチトリプシン	山下順香, 他: 医学と薬学 29, 1239, 1993.	※03
CRP	浦山 修, 他: 臨床化学検査学第3版 医歯薬出版, 2010	
アミロイドA	香坂隆夫, 他: 医学と薬学 31, 1191, 1994.	※03
セルロプラスミン	飯村康夫, 他: 日本臨床 42(春季臨増), 1209, 1984.	※03
C3	金井正光, 他: 臨床検査法提要(改訂第34版) 金原出版 p 791~796, 2015	
C4	同上	
CH50	同上	

主要参考文献

ニューモシスチス・カリニーDNA同定	Kitada, K. et al. : J. Clin. Microbiol. 29, 1985, 1991.	※03
トランスフェリン	島 英明, 他: 医学と薬学 32, 145, 1994.	※03
尿中トランスフェリン	齋藤良一, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 25(5), 687, 2000.	※03
クリオグロブリン	Okazaki, T. et al. Clin. Chem. 44(7), 1558, 1998.	※03
ミオグロビン(血清)		※03
ミオグロビン(尿)	吉川文雄, 他: 医学と薬学 37, 1255, 1997.	※03
ミオシン軽鎖 I	宮崎修一, 他: 医学と薬学 52, 443, 2004.	※03
高感度心筋トロポニン I	Ricchiuti V, et al. : Clin Chem 45(12), 2129, 1999.	※03
	Buiten MS et al. : PLoS One 10(8), e013245, 2015.	
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白	奥田優子, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 35(3), 283, 2010.	※03
プロコラーゲンⅢペプチド	上野隆登, 他: 医学と薬学 24, 675, 1990.	※03
Ⅳ型コラーゲン	重村雅彦, 他: 日臨検自動化誌 28, 513, 2003.	※03
尿中Ⅳ型コラーゲン	東野 勲, 他: Lab. Clin. Pract. 19, 8, 2001.	※03
M2BPG i	柴田 宏, 他: 臨床病理 63, 72, 2015.	※03
TARC	石田俊雄, 他: 医学と薬学 58, 901, 2007.	※03
	藤澤隆夫, 他: 日本小児アレルギー学会誌 19, 744, 2005.	
	玉置邦彦, 他: 日本皮膚科学会雑誌 116, 27, 2006.	
	Sugawara N, et al. : Allergy 57, 180, 2002.	
肺サーファクタントプロテインD	田中誠仁, 他: 医学と薬学 59, 439, 2008.	※03
免疫電気泳動(IEP)	Richie, R.F. et al. : Clin. Chem. 22, 497, 1976.	※03
	広瀬美子, 他: 臨床検査機器・試薬 16, 253, 1993.	
尿中免疫電気泳動	長縄謹子: 検査と技術 12, 401, 1984.	※03
IgG インデックス	中島一郎: Animus 8, 38, 2003.	※03
抗アクアポリン4抗体	高橋利幸, 他: 医学と薬学 73(10), 1297, 2016.	※03
	「多発性硬化症治療ガイドライン」作成委員会: 多発性硬化症治療ガイドライン2010, 2010.	
オリゴクローナルバンド	中島一郎: Animus 8, 38, 2003.	※03
IgG	河合 忠, 他: 臨床病理 特集第101号 207～209 1996	
IgA	同上	
IgM	同上	
IgE(非特異的IgE)	金井 正光, 他: 臨床検査法提要改訂第34版 金原出版, 2015	
アトピー鑑別試験	同上	
RAST-16	同上	
Viewアレルギー39	鈴木義徳, 他: 臨床病理 60(7), 621, 2012.	※03
RF定量	吉野谷 定美: 日本臨牀増刊号3(通巻第753号)第5版 日本臨牀社 386～389 1999	
IgG-RF		※03→21
抗ガラクトース欠損IgG抗体	山田雄二, 他: 基礎と臨床 31, 81, 1997.	※03→37
抗CCP抗体		※03
抗核抗体	柴崎光衛, 他: 医学と薬学 36, 319, 1996.	※03
抗DNA抗体(RIA)	宮脇昌二, 他: 日臨免疫会誌 17, 164, 1994.	※03
抗dsDNA抗体IgG	西山 進, 他: 医学と薬学 69(4), 689, 2013.	※03
	磯田健太郎, 他: 医学と薬学 70(1), 119, 2013.	
抗dsDNA抗体IgM		※03
抗ssDNA抗体IgG	西山 進, 他: 医学と薬学 69(4), 689, 2013.	※03
	磯田健太郎, 他: 医学と薬学 70(1), 119, 2013.	
抗RNP抗体(免疫拡散法)	石川英一, 竹内裕子: 臨床免疫 17, 221, 1985.	※03
抗RNP抗体(CLEIA)	西山 進, 他: 医学と薬学 68(2), 345, 2012.	※03
抗Sm抗体(免疫拡散法)	石川英一, 竹内裕子: 臨床免疫 17, 221, 1985.	※03
抗Sm抗体(CLEIA)	西山 進, 他: 医学と薬学 68(2), 345, 2012.	※03
抗SS-A抗体(免疫拡散法)	宮脇昌二, 小豆沢秀夫: 臨床免疫 14, 127, 1982.	※03
抗SS-A抗体(CLEIA)	西山 進, 他: 医学と薬学 68(2), 345, 2012.	※03
抗SS-B抗体(免疫拡散法)	宮脇昌二, 小豆沢秀夫: 臨床免疫 14, 127, 1982.	※03
抗SS-B抗体(CLEIA)	西山 進, 他: 医学と薬学 68(2), 345, 2012.	※03
抗Scl-70抗体(免疫拡散法)	Douvas, S. A. et al. : J. Biol. Chem. 254, 10514, 1979.	※03
抗Scl-70抗体(CLEIA)	小島和夫, 他: 医学と薬学 69(4), 677, 2013.	※03
抗Jo-1抗体	西海正彦: 機器・試薬 13, 835, 1990.	※03
抗ARS抗体	吉藤 元: 医学のあゆみ 239(1), 71, 2011.	※03
抗セントロメア抗体	小島和夫, 他: 医学と薬学 69(4), 677, 2013.	※03
抗ミトコンドリア抗体	長島秀夫, 小出典男: 日本臨牀 42(春季臨増), 1416, 1984.	※03
抗ミトコンドリアM2抗体	丹野 瑞木, 他: 医学と薬学 67(3), 485, 2012.	※03
抗平滑筋抗体	長島秀夫, 他: 日本臨牀 42(春季臨増), 1430, 1984.	※03
抗LKM-1抗体	宮川 浩, 他: 医学と薬学 44, 121, 2000.	※03
抗好中球細胞質抗体	平田寛之, 他: 医学と薬学 66(6), 1099, 2011.	※03
	宮原涼馬, 他: 医学と薬学 73(1), 91, 2016.	
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体	同上	※03
抗糸球体基底膜抗体	平田寛之, 他: 医学と薬学 66(6), 1099, 2011.	※03
抗胃壁細胞抗体	Jeffries, G. H. et al. : J. Clin. Invest. 44, 2021, 1965.	※03→18
抗CLB2GPI抗体	小池隆夫, 他: 医学と薬学 26, 535, 1991.	※03
抗CLリピン抗体(IgG)	岡田 純, 他: 医学と薬学 36, 1389, 1996.	※03
抗アセチルコリンレセプター結合抗体	太田光熙, 他: ホルモンと臨床 48, 89, 2000.	※03

抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	本村政勝，他：医学と薬学 70(2)，421，2013. Hoch,W et al. :Nature Medicine 7(3), 365, 2001.	※03
ミエリンバシク蛋白	Mitsuhiro O.et al. :Clin.Chem. 46(9), 1326, 2000.	※03
免疫複合体	上田 章，他：医学と薬学 24，115，1990.	※03
抗血小板抗体	坂本久治 :Med. Technol. 11，724，1983.	※03
PA-IgG	倉田義之，他：臨床検査 32，641，1988.	※03
ABO血液型	小崎繁昭，新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 29-30，2009.	
Rh(D)血液型	小崎繁昭，新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 32-34，2009.	
Rh-Hr式血液型	山崎順啓 :Med. Technol. 11，631，1983.	※03
直接クームス試験	小崎繁昭，新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 58-59，2009.	
間接クームス試験	小崎繁昭，新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 38，2009.	
間接クームス試験 定量	小崎繁昭，新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 132，2009.	
不規則性抗体	小崎繁昭，新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 43-54，2009.	
ウイルス学検査		
単純ヘルペス	井上 栄：臨床検査 17，838，1973. 厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リッチケア検査(第3版)第ⅢⅢ分冊，日本公衆衛生協会，東京，1987. 国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版),p. 133-135，丸善，東京，1982.	※03
水痘・帯状ヘルペス	同上	※03
サイトメガロ	同上	※03
アデノ	同上	※03
インフルエンザA型	同上	※03
インフルエンザB型	同上	※03
RS	同上	※03
ムンプス	同上	※03
日本脳炎	同上	※03
コクサッキーA群	同上	※03
コクサッキーB群1型	同上	※03
コクサッキーB群2型	同上	※03
コクサッキーB群3型	同上	※03
コクサッキーB群4型	同上	※03
コクサッキーB群5型	同上	※03
コクサッキーB群6型	同上	※03
インフルエンザ	臨床ウイルス談話会(編)：ウイルス実験室診断法,p. 76-86，101-105，日本栄養化学，東京，1964. 芦原義守：臨床とウイルス 別冊，77，1975. 国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版),p. 133-135，丸善，東京，1982. 厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査(第3版)第ⅢⅢ分冊，日本公衆衛生協会，東京，1987.	※03 ※03 ※03 ※03
パラインフルエンザ1型	同上	
パラインフルエンザ2型	同上	
パラインフルエンザ3型	同上	
ムンプス	同上	※03
麻疹	同上	※03
風疹	同上	※03
エコー3型	同上	※03
エコー7型	同上	※03
エコー11型	同上	※03
エコー12型	同上	※03
日本脳炎	同上	※03
風疹抗体価(LA)	金井正光：臨床検査法提要(改訂第34版) p 1127	※03
単純ヘルペス1型	石井慶蔵：免疫血清検査(臨床検査技術全書4),p. 235-262，医学書院，東京，1973. 国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版),p. 52，72-73，132-139，丸善，東京，1982.	※03 ※03→16
単純ヘルペス2型	同上	
アデノ1型	同上	※03
アデノ2型	同上	
アデノ3型	同上	※03
アデノ4型	同上	※03
アデノ5型	同上	※03
アデノ6型	同上	※03
アデノ7型	同上	※03
アデノ8型	同上	※03
アデノ11型	同上	※03
アデノ19型	同上	※03
アデノ37型	同上	※03
RS	同上	※03
		※03
		※03→16
		※03

主要参考文献

ムンプス	石井慶蔵：免疫血清検査(臨床検査技術全書4), p. 235-262, 医学書院, 東京, 1973.	※03
	国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版), p. 52, 72-73, 132-139, 丸善, 東京, 1982.	
麻疹	同上	※03
ポリオ1型	同上	※03→17
ポリオ2型	同上	※03→17
ポリオ3型	同上	※03→17
コクサッキーA群2型	同上	※03→16
コクサッキーA群3型	同上	※03→16
コクサッキーA群4型	同上	※03
コクサッキーA群5型	同上	※03→16
コクサッキーA群6型	同上	※03
コクサッキーA群7型	同上	※03
コクサッキーA群9型	同上	※03
コクサッキーA群10型	同上	※03
コクサッキーA群16型	同上	※03
コクサッキーB群1型	同上	※03
コクサッキーB群2型	同上	※03
コクサッキーB群3型	同上	※03
コクサッキーB群4型	同上	※03
コクサッキーB群5型	同上	※03
コクサッキーB群6型	同上	※03
エコー1型	同上	※03
エコー3型	同上	※03
エコー4型	同上	※03
エコー5型	同上	※03
エコー6型	同上	※03
エコー7型	同上	※03
エコー9型	同上	※03
エコー11型	同上	※03
エコー12型	同上	※03
エコー13型	同上	※03
エコー14型	同上	※03
エコー16型	同上	※03
エコー17型	同上	※03
エコー18型	同上	※03
エコー19型	同上	※03
エコー21型	同上	※03
エコー22型	同上	※03
エコー24型	同上	※03
エコー25型	同上	※03
エコー30型	同上	※03
エンテロ70型	同上	※03
エンテロ71型	同上	※03
EBV VCA IgG	日沼頼夫, 他：臨床病理(特集第35号), 179, 1978.	※03
EBV VCA IgM	同上	※03
EBV VCA IgA	同上	※03
EBV EA-DR IgG	同上	※03
EBV EA-DR IgA	同上	※03
EBV EBNA	同上	※03
水痘・帯状ヘルペス定量IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査(第3版第1分冊), p. 48-61, 日本公衆衛生協会, 東京, 1987.	※03
水痘・帯状ヘルペス定量IgM	同上	※03
風疹IgG	同上	※03
風疹IgM	同上	※03
麻疹IgG	同上	※03
麻疹IgM	同上	※03
単純ヘルペスIgG	同上	※03
単純ヘルペスIgM	同上	※03
サイトメガロIgG	同上	※03
サイトメガロIgM	同上	※03
ムンプスIgG	同上	※03
ムンプスIgM	同上	※03
パルボウイルスB19IgG	要藤裕孝, 他：感染症誌 69, 1135, 1995.	※03
パルボウイルスB19IgM	同上	※03
HTLV-I抗体価	山口一成, 日本臨床 63 巻増刊号 7(通巻874号) 第6版 日本臨床社 p430-433 2005.	
HIV抗原・抗体	武田 悟, 他：Prog.Med. 27, 425, 2007.	※03
HIV-1抗体	Garofalo, R. et al. :New Engl. J.Med. 312, 265, 1985.	※03
HIV-2抗体	菱田 靖, 他：医学と薬学 27, 959, 1992.	※03
単純ヘルペスウイルス特異抗原	Espy, M. J. et al. :J.Clin.Microbiol. 26, 22, 1988.	※03
サイトメガロウイルス抗原	浅井隆善, 他：今日の移植 7, 553, 1994.	※03

[illegible]

血液学検査

白血球数	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 18-23, 56-57 2012. 4. 15	
赤血球数	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 11-18, 52-56 2012. 4. 15	
ヘモグロビン	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 11-18, 45-47 2012. 4. 15	
ヘマトクリット	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 47-50 2012. 4. 15	
血小板数	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 23-26, 35, 57-59 2012. 4. 15	
網赤血球数	日本臨牀 62 巻 増刊号(通巻 860 号)第 6 版 p 558-560.	
鼻汁好酸球	三村邦裕, 他: 臨床検査学講座 第 3 版 臨床検査総論 p 158 2013. 1. 10	
末梢血液像(自動機械法)	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 5-23, 63-66, 200-224 2012. 4. 15	
末梢血液像(鏡検法)	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 5-23, 200-224 2012. 4. 15	
マラリア原虫	金井正光(編著): 臨床検査法提要(改訂第 29 版), p. 313, 金原出版, 東京, 1983.	※03
プロテインC(定量)	有村国明, 木村典子: 機器・試薬 15, 159, 1992.	※03
プラスミノゲン活性	板東史郎, 他: 機器・試薬 8, 811, 1985.	※03
アンチトロンビンⅢ抗原	伊藤忠一: 検査と技術 16, 593, 1988.	※03
アンチトロンビンⅢ活性	検査と技術 増刊号 第 28 巻 第 7 号 p879-881 2000. 6. 15	
P T 時間	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学第一版第一刷 p 153-155 2012. 4. 15	
A P T T	金井正光(監修)臨床検査法提要 改訂第 34 版 p 392-395 金原出版 2015. 6. 30	
フィブリノゲン	金井正光(監修)臨床検査法提要 改訂第 34 版 p 402 金原出版 2015. 6. 30	
トロンボテスト	日本臨牀 62 巻 増刊号 12(通巻 860 号)第 6 版 p 594-596 2004. 12. 28	
D タイマー	Medical Technology Vol 35 No2 p132-139 2007. 2. 15	
(血中)F D P 定量	同上	
(尿)F D P	堀内伸純, 他: 機器・試薬 14, 267, 1991.	※03
T A T	木村真波, 他: 機器・試薬 33, 525, 2010.	※03
アンチプラスミン(活性)	坂東史郎, 他: 機器・試薬 8, 811, 1985.	※03
P I C テスト	徐 吉夫, 他: 機器・試薬 16, 1107, 1993.	※03
P I V K A Ⅱ 凝固	草野正芳, 他: 医療と検査機器・試薬 35(1), 87, 2012.	※03
β- トロンボグロブリン	高橋芳右, 他: 血液と脈管 18, 326, 1987.	※03
P F - 4	同上	※03
フォン・ウィルブラント因子定量	Peltier, J. Y. et al. : Proceeding of XVI th Congress of the ISTH, 513, 1997.	※03
フォン・ウィルブラント因子活性	杉原卓郎: 機器・試薬 6, 321, 1983.	※03
ループスアンチコアグランド	佐藤久美子, 他: 臨床病理 43, 263, 1995.	※03
第Ⅱ因子活性	安達真二, 他 : Med. Technol. 24, 629, 1996.	※03
第Ⅴ因子活性	同上	※03
第Ⅶ因子活性	同上	※03
第Ⅷ因子活性	同上	※03
第Ⅸ因子活性	同上	※03
第Ⅹ因子活性	同上	※03
第Ⅺ因子活性	同上	※03
第Ⅻ因子活性	同上	※03
第Ⅻ因子定量	Fikenscher. K. et al. : Thromb. Haemost. 65, 535, 1991.	※03
第Ⅷ因子インヒビター	高松純樹: 日本臨牀 57(増刊 広範囲血液・尿化学検査・免疫学の検査 2), 604, 1999.	※03
第Ⅸ因子インヒビター	日笠 聡: 日本臨牀 57(増刊 広範囲血液・尿化学検査・免疫学の検査 2), 611, 1999.	※03

一般臨床検査

尿一般検査	金井正光(監修): 臨床検査法提要(改訂第 34 版)金原出版, 2015. 6. 30	
(蓄尿)尿蛋白	大野岩男, 日本臨牀 62 巻 増刊号 11 第 6 版 日本臨牀社 p 84-87, 2004.	
(蓄尿)尿グルコース	河原玲子, 日本臨牀 62 巻 増刊号 11 第 6 版 日本臨牀社 p 91 ~ 94, 2004.	
尿沈渣顕微鏡検査	社団法人 日本臨床衛生検査技師会 尿沈渣検査法 2000	
	社団法人 日本臨床衛生検査技師会 尿沈渣検査法 2010	
	金井正光(監修): 臨床検査法提要(改訂第 34 版) p 165-167 金原出版, 2015. 6. 30	
便中 H b 定性	金井正光(監修): 臨床検査法提要(改訂第 34 版) p 193-195 金原出版, 2015. 6. 30	
虫卵(集卵法)	金井正光(監修): 臨床検査法提要(改訂第 33 版) p 1047-1056 金原出版, 2010. 4. 1	
虫卵(塗抹法)	同上	
虫体鑑別	横川 定, 他: 人体寄生虫学提要, 菊屋書房, 東京, 1974.	※03

病理学検査

病理組織検査

- 三友喜夫：病理学(臨床検査講座)，医歯薬出版，東京，1982. ※04,07
渡辺恒彦，福島範子，他(編)：病理技術マニュアル(日本病理学会 編)，医歯薬出版，東京，1986.
佐野 豊：組織学検査法，南山堂，東京，1976.
影山圭三(編)：病理組織標本の作り方，医学書院，東京，1975.
平山 章：病理組織標本染色法，清至書院，東京，1982.
飯島宗一(編)：組織病理アトラス，文光堂，東京，1984.
石川栄世(編)：外科病理学，文光堂，東京，1984.
齋藤 脩，他：整形外科病理，HBJ出版局，東京，1987.
笹井陽一郎：皮膚病理組織学，金原出版，東京，1986.
檜澤一夫，他(編)：筋病理学，文光堂，東京，1989.
島峰徹郎(編)：骨髄組織病理アトラス，文光堂，東京，1984.
宮地 徹，他：耳鼻咽喉科領域の病理，杏林書院，東京，1992.
渡辺慶一，他(編)：酵素抗体法，学際企画，東京，1992.
渡辺慶一，他(編)：免疫組織化学(病理と臨床 臨時増刊)，文光堂，東京，1989.

細胞診

- 石束嘉男：細胞診の実践，医学書院，東京，1977. ※04,07
Koss, L. G.：細胞診断学—その病理組織学的基礎(太田邦夫，石束嘉男 訳)，医学書院，東京，1964.
服部正次：細胞診断，医歯薬出版，東京，1977.
田中 昇(編)：細胞診教本，宇宙堂八木書店，東京，1981.
小島 端(編)：細胞診とその技術(日本病理学会 編)，医歯薬出版，東京，1981.
矢谷隆一，他：細胞診を学ぶ人のために，医学書院，東京，1992.
坂本穆彦，他：臨床細胞診断学アトラス，文光堂，東京，1993.
沢田勤也：肺癌の細胞診，医学書院，東京，1985.
蔵元博行：カラーアトラス 子宮体癌検診，医学書院，東京，1989.
栗田宗次，他：悪性リンパ腫細胞診アトラス，名古屋大学出版，愛知，1994.

HER2/neu(IHC法)

- Jacobs, T. W. et al. : J. Clin. Oncol. 17, 1983, 1999. ※03,04

HER2/neu(FISH法)

- Espinoza, F. and Anguiano, A. : J. Clin. Oncol. 17, 2293, 1999. ※03

エストロゲンレセプター

- Persons, D. L. et al. : Ann. Clin. Lab. Sci. 30, 41, 2000. ※03,04

プロジェステロンレセプター

- ※03,04

微生物学検査

一般細菌塗抹

- 小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック，2011.
永田邦昭：感染症診断に役立つグラム染色 2006，守殿貞天・荒川創一(監修)ひとめでわかる微生物検査3トラス 2000

簡易培養検査

- 小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック，2011.
堀井俊伸(監修)：微生物検査ナビ(第2版) 2016.
山口英世(著)：病原真菌と真菌症 1999.

嫌気性培養

- 宮治 誠，西村和子(編著) 医真菌学辞典(第2版) 1993.

細菌培養同定検査

- 小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック，2011.
山中喜代治，他：カラーアトラス微生物検査，1996.
坂崎利一(監修)：医学細菌同定の手びき，1993.

大腸菌抗原同定検査

- 小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック，2011.

細菌薬剤感受性検査

抗酸菌塗抹

- 財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 33-38

抗酸菌分離培養検査

- 財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 39-45

抗酸菌同定DDH

- 財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 47-66

抗酸菌薬剤感受性検査

- 財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2016, p 87-97

結核菌群同定

- 渡邊あゆみ，他：医学と薬学 58, 331, 2007. ※03

MAC同定-DNA

- 田口直子，他：医学と薬学 62, 121, 2009. ※03

QFT-TB(第3世代)

- 森 享：現場で役に立つ IGRA使用の手引き，公益財団法人結核予防会，2015.

01汎用容器（分離剤入り）  <table><tr><td>容量</td><td>8.5 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>—</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr></table>	容量	8.5 mL	添加剤	—	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目		02汎用容器  <table><tr><td>容量</td><td>4 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>—</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td></td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>血清、血漿提出用</td></tr></table>	容量	4 mL	添加剤	—	保管方法	常温	有効期間		主な検査項目	血清、血漿提出用	03汎用容器（分離剤なし）  <table><tr><td>容量</td><td>5 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>—</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>クームス試験等</td></tr></table>	容量	5 mL	添加剤	—	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	クームス試験等
容量	8.5 mL																															
添加剤	—																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器および箱表示																															
主な検査項目																																
容量	4 mL																															
添加剤	—																															
保管方法	常温																															
有効期間																																
主な検査項目	血清、血漿提出用																															
容量	5 mL																															
添加剤	—																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器および箱表示																															
主な検査項目	クームス試験等																															
04グルコース・HbA1c 用容器  <table><tr><td>採取量</td><td>2 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>NaF EDTA-2Na</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>グルコース HbA1c</td></tr></table>	採取量	2 mL	添加剤	NaF EDTA-2Na	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	グルコース HbA1c	05アンモニア用容器  <table><tr><td>採取量</td><td>1 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>除蛋白液 4mL</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>外袋および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>血中アンモニア</td></tr></table>	採取量	1 mL	添加剤	除蛋白液 4mL	保管方法	常温	有効期間	外袋および箱表示	主な検査項目	血中アンモニア	06乳酸・ピルビン酸用容器   (前処理用) (提出用) <table><tr><td>採取量</td><td>1 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>除蛋白液 1 mL (0.8N 過塩素酸)</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>冷蔵</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>乳酸 ピルビン酸</td></tr></table>	採取量	1 mL	添加剤	除蛋白液 1 mL (0.8N 過塩素酸)	保管方法	冷蔵	有効期間	容器表示	主な検査項目	乳酸 ピルビン酸
採取量	2 mL																															
添加剤	NaF EDTA-2Na																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器および箱表示																															
主な検査項目	グルコース HbA1c																															
採取量	1 mL																															
添加剤	除蛋白液 4mL																															
保管方法	常温																															
有効期間	外袋および箱表示																															
主な検査項目	血中アンモニア																															
採取量	1 mL																															
添加剤	除蛋白液 1 mL (0.8N 過塩素酸)																															
保管方法	冷蔵																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	乳酸 ピルビン酸																															
07免疫抑制剤用容器  <table><tr><td>採取量</td><td>5 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>シクロスポリン タクロリムス エベロリムス</td></tr></table>	採取量	5 mL	添加剤	EDTA-2Na	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	シクロスポリン タクロリムス エベロリムス	08アプロチニン容器  <table><tr><td>採取量</td><td>2 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na アプロチニン</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>hANP</td></tr></table>	採取量	2 mL	添加剤	EDTA-2Na アプロチニン	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	hANP	09クラミジア・淋菌(SDA)用容器(ぬぐい液用)   (男性用) (女性用) <table><tr><td>採取量</td><td>—</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>保存液</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》</td></tr></table>	採取量	—	添加剤	保存液	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》
採取量	5 mL																															
添加剤	EDTA-2Na																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器および箱表示																															
主な検査項目	シクロスポリン タクロリムス エベロリムス																															
採取量	2 mL																															
添加剤	EDTA-2Na アプロチニン																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器および箱表示																															
主な検査項目	hANP																															
採取量	—																															
添加剤	保存液																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》																															
10ヘパリン容器   <table><tr><td>容量</td><td>4 mL・9 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>ヘパリン Na</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>アミノ酸分析 微量金属 染色体 その他</td></tr></table>	容量	4 mL・9 mL	添加剤	ヘパリン Na	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	アミノ酸分析 微量金属 染色体 その他	11 <table><tr><td>採取量</td><td>—</td></tr><tr><td>添加剤</td><td></td></tr><tr><td>保管方法</td><td></td></tr><tr><td>有効期間</td><td></td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td></td></tr></table>	採取量	—	添加剤		保管方法		有効期間		主な検査項目		12クラミジア・淋菌(SDA)用容器(尿用)  <table><tr><td>採取量</td><td>3 mL</td></tr><tr><td>添加剤</td><td>NAP Guard</td></tr><tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr><tr><td>有効期間</td><td>容器表示</td></tr><tr><td>主な検査項目</td><td>クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》</td></tr></table>	採取量	3 mL	添加剤	NAP Guard	保管方法	常温	有効期間	容器表示	主な検査項目	クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》
容量	4 mL・9 mL																															
添加剤	ヘパリン Na																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器および箱表示																															
主な検査項目	アミノ酸分析 微量金属 染色体 その他																															
採取量	—																															
添加剤																																
保管方法																																
有効期間																																
主な検査項目																																
採取量	3 mL																															
添加剤	NAP Guard																															
保管方法	常温																															
有効期間	容器表示																															
主な検査項目	クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》																															

・有効期間は包装開封前のものです。
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

13 血液学容器	 <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>2 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2K</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>末梢血液一般検査 血液像 その他</td></tr> </table>	採取量	2 mL	添加剤	EDTA-2K	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	末梢血液一般検査 血液像 その他
採取量	2 mL										
添加剤	EDTA-2K										
保管方法	常温										
有効期間	容器および箱表示										
主な検査項目	末梢血液一般検査 血液像 その他										
14 内分泌学用容器	 <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>5.5 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器および箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>レニン アンジオテンシン サイクリック AMP 遺伝子検査 その他</td></tr> </table>	容量	5.5 mL	添加剤	EDTA-2Na	保管方法	常温	有効期間	容器および箱表示	主な検査項目	レニン アンジオテンシン サイクリック AMP 遺伝子検査 その他
容量	5.5 mL										
添加剤	EDTA-2Na										
保管方法	常温										
有効期間	容器および箱表示										
主な検査項目	レニン アンジオテンシン サイクリック AMP 遺伝子検査 その他										
15 血液凝固検査用容器	 <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>1.8 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>3.2%クエン酸Na 0.2mL</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外袋および箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>凝固因子活性 PT, APTT, FIB AT, 血中 FDP その他</td></tr> </table>	採取量	1.8 mL	添加剤	3.2%クエン酸Na 0.2mL	保管方法	常温	有効期間	外袋および箱表示	主な検査項目	凝固因子活性 PT, APTT, FIB AT, 血中 FDP その他
採取量	1.8 mL										
添加剤	3.2%クエン酸Na 0.2mL										
保管方法	常温										
有効期間	外袋および箱表示										
主な検査項目	凝固因子活性 PT, APTT, FIB AT, 血中 FDP その他										
16 尿中C-ペプチド用容器	 <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>10 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>全尿保存の場合は必ず 専用保存剤を添加してください</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外箱表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>尿中 C-ペプチド</td></tr> </table>	採取量	10 mL	添加剤	全尿保存の場合は必ず 専用保存剤を添加してください	保管方法	常温	有効期間	外箱表示	主な検査項目	尿中 C-ペプチド
採取量	10 mL										
添加剤	全尿保存の場合は必ず 専用保存剤を添加してください										
保管方法	常温										
有効期間	外箱表示										
主な検査項目	尿中 C-ペプチド										
18 尿中FDP用容器	 <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>2 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>抗プラスミン剤</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外袋表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>尿中 FDP</td></tr> </table>	採取量	2 mL	添加剤	抗プラスミン剤	保管方法	常温	有効期間	外袋表示	主な検査項目	尿中 FDP
採取量	2 mL										
添加剤	抗プラスミン剤										
保管方法	常温										
有効期間	外袋表示										
主な検査項目	尿中 FDP										
19 β-TG, PF-4 用容器	 <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>4.5 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>テオフィリン, アデノシン, ジピリダモール, クエン酸, クエン酸 Na</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>冷蔵・避光</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器および外袋表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>β-トロンボグロブリン 血小板第4因子</td></tr> </table>	採取量	4.5 mL	添加剤	テオフィリン, アデノシン, ジピリダモール, クエン酸, クエン酸 Na	保管方法	冷蔵・避光	有効期間	容器および外袋表示	主な検査項目	β-トロンボグロブリン 血小板第4因子
採取量	4.5 mL										
添加剤	テオフィリン, アデノシン, ジピリダモール, クエン酸, クエン酸 Na										
保管方法	冷蔵・避光										
有効期間	容器および外袋表示										
主な検査項目	β-トロンボグロブリン 血小板第4因子										
20 プレパレート	 <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>—</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>—</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>—</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>血液像 鼻汁好酸球 細胞診</td></tr> </table>	容量	—	添加剤	—	保管方法	常温	有効期間	—	主な検査項目	血液像 鼻汁好酸球 細胞診
容量	—										
添加剤	—										
保管方法	常温										
有効期間	—										
主な検査項目	血液像 鼻汁好酸球 細胞診										
21 リンパ球保存容器	 <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>7.5 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>CPD</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>容器および外袋表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>細胞性免疫</td></tr> </table>	容量	7.5 mL	添加剤	CPD	保管方法	常温	有効期間	容器および外袋表示	主な検査項目	細胞性免疫
容量	7.5 mL										
添加剤	CPD										
保管方法	常温										
有効期間	容器および外袋表示										
主な検査項目	細胞性免疫										
22 骨髓液保存容器	 <table border="1"> <tr><td>採取量</td><td>0.5 mL</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>保存液</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>冷蔵</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>外袋表示</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>染色体検査</td></tr> </table>	採取量	0.5 mL	添加剤	保存液	保管方法	冷蔵	有効期間	外袋表示	主な検査項目	染色体検査
採取量	0.5 mL										
添加剤	保存液										
保管方法	冷蔵										
有効期間	外袋表示										
主な検査項目	染色体検査										
23 結石用容器	 <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>—</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>—</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>—</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>結石鑑別</td></tr> </table>	容量	—	添加剤	—	保管方法	常温	有効期間	—	主な検査項目	結石鑑別
容量	—										
添加剤	—										
保管方法	常温										
有効期間	—										
主な検査項目	結石鑑別										
24 組織提出用容器	 <table border="1"> <tr><td>容量</td><td>—</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>—</td></tr> <tr><td>保管方法</td><td>常温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>—</td></tr> <tr><td>主な検査項目</td><td>—</td></tr> </table>	容量	—	添加剤	—	保管方法	常温	有効期間	—	主な検査項目	—
容量	—										
添加剤	—										
保管方法	常温										
有効期間	—										
主な検査項目	—										

・有効期間は包装開封前のものです。
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

25 尿一般容器	
	容量 10 mL
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間
	主な検査項目 尿一般検査

26 褐色ポリ瓶	
	容量 50 mL・100 mL
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間
	主な検査項目

27 滅菌スピッツ管	
	容量 10 mL
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間
	主な検査項目 尿細菌検査

28 滅菌採水ボトル	
	容量 500 mL
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間
	主な検査項目 微生物学検査 レジオネラ定量培養

29 採便容器	
	採取量 3～5 g
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間
	主な検査項目 糞便検査

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

31 便中ヘモグロビン採便管	
	採取量 約0.5 g
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 便中ヘモグロビン

32 呼気採取バッグ	
	採取量 各250 mL
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間 —
	主な検査項目 尿素呼気試験

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

34 嫌気培養用輸送容器(ケンキポーター)	
	容量 —
	培地 レザズリン寒天
	保管方法 常温
	有効期間 外箱表示
	主な検査項目 微生物学検査 (嫌気性菌)

35 嫌気培養用輸送容器	
	容量 —
	培地 メチレンブルー寒天
	保管方法 常温
	有効期間 外箱表示
	主な検査項目 微生物学検査 (嫌気性菌)

36 トリコモナス培地	
	容量 —
	培地 トリコモナス
	保管方法 冷蔵
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 微生物学検査 (トリコモナス)

・有効期間は包装開封前のものです。
 ・検査でご利用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

37 レズンボトル  容量 各 30 mL 培地 保管方法 常温 有効期間 容器表示 主な検査項目 微生物学検査 (好気用) (嫌気用)	38 細菌検査用採便容器  容量 — 培地 Cary-Blair 保管方法 常温 有効期間 外箱表示 主な検査項目 微生物学検査	39 細菌検査用スワブ(一般細菌用)  採取量 — 培地 変法アミーズ培地 保管方法 常温 有効期間 容器表示 主な検査項目 微生物学検査
40 細菌検査用スワブ(耳鼻咽喉頭用)  採取量 — 培地 変法アミーズ培地 保管方法 常温 有効期間 容器表示 主な検査項目 微生物学検査 (耳, 目, 鼻咽腔, 男性 尿道等からの材料)	41 滅菌綿棒  採取量 — 添加剤 — 保管方法 常温 有効期間 外袋および外箱表示 主な検査項目	容量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目
44 組織片容器  容量 添加剤 10% 中性緩衝ホルマリン液 保管方法 常温 有効期間 容器表示 主な検査項目 病理組織検査	45 HP 培地  培地 チオグリコール酸 (その他 選択剤、発育支持剤) 保管方法 冷蔵 有効期間 外箱表示 主な検査項目 ヘリコバクター・ピロリ	容量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目
51 血中エンドトキシン・β-D-グルカン用容器  採取量 3 mL 添加剤 ヘパリン Na 保管方法 常温 有効期間 容器および箱表示 主な検査項目 エンドトキシン (1→3)-β-D-グルカン	52 PA-IgG用容器  容量 8 mL 添加剤 保存液 保管方法 常温 有効期間 容器および外袋表示 主な検査項目 PA-IgG	容量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目

・有効期間は包装開封前のものです。
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

	採取量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目

55	感染症遺伝子増幅検査用容器
	容量 — 添加剤 — 保管方法 常温 有効期間 主な検査項目 結核菌群同定 MAC 同定 - DNA

56	HSV 抗原容器
	容量 — 添加剤 — 保管方法 常温 有効期間 主な検査項目 単純ヘルペスウイルス特異抗原

	容量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目

58	ビタミンC 用容器
  (前処理用) (提出用)	採取量 0.5 mL 添加剤 0.8N 過塩素酸 保管方法 冷蔵 有効期間 容器表示 主な検査項目 ビタミンC

59	金属分析用容器 (尿)
	容量 — 添加剤 — 保管方法 常温 有効期間 容器表示 主な検査項目 尿中銅, 亜鉛, マンガン, クロム, 水銀

	採取量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目

61	HPV 容器 (ハイブリッドキャプチャー法)
  (検診用) (妊婦用)	採取量 — 添加剤 保存液 保管方法 常温 有効期間 容器表示 主な検査項目 HPV-DNA 同定 《ハイブリッドキャプチャー法》

62	ウイルス遺伝子検査用容器 (5mL管)
	採取量 5 mL 添加剤 — 保管方法 常温 有効期間 容器および箱表示 主な検査項目 HBV-DNA 定量 HCV-RNA 定量 《TaqManPCR 法》 HIV-抗原・抗体

	容量 添加剤 保管方法 有効期間 主な検査項目

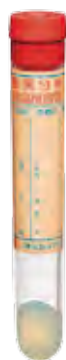
64	遮光容器 (血液)
	容量 5 mL 添加剤 ヘパリン Na 保管方法 常温 有効期間 容器および箱表示 主な検査項目 コプロポルフィリン

65	遮光容器 (血清)
	容量 10 mL 添加剤 — 保管方法 常温 有効期間 主な検査項目 β-カロチン ビタミン A, E

・有効期間は包装開封前のものです。
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

66 遮光容器（尿）		
	容量	10 mL
	添加剤	—
	保管方法	常温
	有効期間	
	主な検査項目	ポルフィリン関連

	容量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	

68 金属分析用容器（血清）		
	採取量	3 mL
	添加剤	凝固促進剤（トロンビン等）
	保管方法	常温
	有効期間	容器および箱表示
	主な検査項目	亜鉛，アルミニウム，マンガン，ニッケル，クロム

69 採痰管		
	容量	—
	添加剤	—
	保管方法	常温
	有効期間	
	主な検査項目	微生物学検査（喀痰） 細胞診検査（喀痰）

70 透析液エンドトキシン用容器		
	採取量	4 mL
	添加剤	0.64% トリエタノールアミン 0.16% ポリエチレングリコール 0.01M クエン酸三ナトリウム
	保管方法	冷蔵
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	透析液中エンドトキシン

	採取量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	

	採取量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	

73 尿中ミオグロビン用容器		
	採取量	6 mL
	添加剤	安定化剤
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	尿中ミオグロビン

	容量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	

75 尿中Ⅳ型コラーゲン用容器		
	採取量	5 mL
	添加剤	1.5M Tris-HCl
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	尿中Ⅳ型コラーゲン

76 便中H.ピロリ抗原用採便管		
	採取量	—
	添加剤	安定化剤
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	便中 H.ピロリ抗原

	容量	
	添加剤	
	保管方法	
	有効期間	
	主な検査項目	

・有効期間は包装開封前のものです。
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

79 ウイルス遺伝子検査用容器 (8mL管)	
	採取量 8 mL
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間 容器および箱表示
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

81 HPV 型別用容器 (ThinPrep)	
	採取量 —
	添加剤 固定液
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 HPV 型別

82 液状細胞診 (LBC) 婦人科用 (SurePath)	
	採取量 —
	添加剤 固定液
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 LBC 婦人科

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

84 ビタミン B ₁ , B ₂ 用容器	
	容量 4 mL
	添加剤 EDTA-2Na
	保管方法 常温
	有効期間 容器および箱表示
	主な検査項目 ビタミン B ₁ ビタミン B ₂

85 クラミジア・淋菌 (TaqManPCR) 用 (ぬぐい液用)	
	採取量 —
	添加剤 塩酸グアニジン
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 クラミジア-DNA 淋菌-DNA 《TaqManPCR 法》

86 クラミジア・淋菌 (TaqManPCR) 用 (尿・うがい液用)	
	採取量 4.5 mL
	添加剤 塩酸グアニジン
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 クラミジア-DNA 淋菌-DNA 《TaqManPCR 法》

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

90 癌胎児性フィブロネクチン用容器	
	容量 —
	添加剤 抽出液
	保管方法 常温
	有効期間 外袋表示
	主な検査項目 頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン

※体外診断用医薬品

・有効期間は包装開封前のものです。
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

94	
	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

95 血液型用容器	
	容量 2 mL
	添加剤 EDTA-2K
	保管方法 常温
	有効期間 容器および箱表示
	主な検査項目 ABO 血液型 Rh(D)血液型

96 BNP用容器	
	採取量 2 mL
	添加剤 EDTA-2K
	保管方法 常温
	有効期間 容器および箱表示
	主な検査項目 BNP

97 QFT-TB (クオンティフェロン)用容器	
	採取量 5mL
	添加剤 ヘパリンリチウム
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 QFT-TB (第3世代)

98 不規則性抗体用容器	
	採取量 7ml
	添加剤 EDTA-2Na
	保管方法 常温
	有効期間 容器および箱表示
	主な検査項目 不規則性抗体

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量 2 mL
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

・有効期間は包装開封前のものです。
 ・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。



A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, providing a guide for writing.



Lined area for writing, consisting of multiple horizontal dotted lines.

登録衛生検査所一覧

CENTRAL BIO LABORATORY

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先
香川 検査所	微 免 血 生 尿	〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田3322	TEL(087)877-0111
天神前 検査所	免 血 生	〒760-0018 香川県高松市天神前5番地5	TEL(087)862-0070
高知 検査所	微 免 血 生 尿	〒781-8125 高知県高知市五台山タナスカ4987-1	TEL(088)883-5535
松山 検査所	微 免 血 生 尿	〒791-1102 愛媛県松山市来住町1339番地1	TEL(089)955-7600
徳島 検査所	微 免 血 生 尿	〒771-0132 徳島県徳島市川内町平石夷野224	TEL(088)665-3125

登録業務

微 微生物学的検査

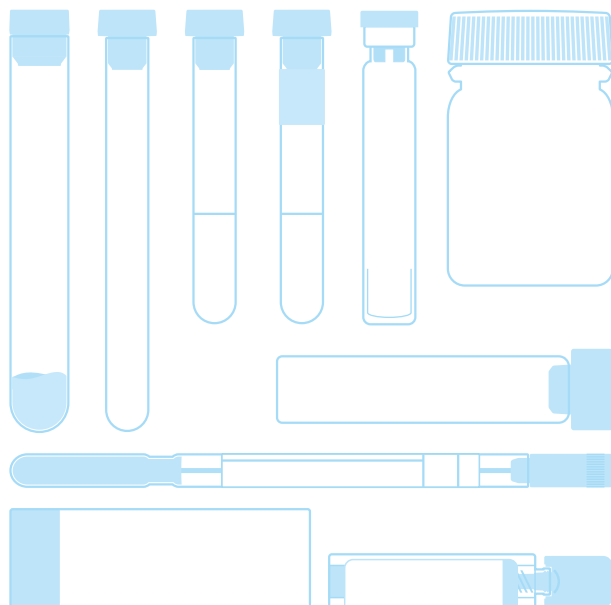
免 免疫学的検査

血 血液学的検査

生 生化学的検査

尿 尿・糞便等一般検査





本 部 / 〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田 3322 TEL(087)877-0111

<http://www.s-cyuken.co.jp/>

検 査 所 一 覧

香 川 検 査 所 / 〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田 3322	TEL(087)877-0111
天神前検査所 / 〒760-0018 香川県高松市天神前 5 番地 5	TEL(087)862-0070
高 知 検 査 所 / 〒781-8125 高知県高知市五台山タナスカ 4987-1	TEL(088)883-5535
松 山 検 査 所 / 〒791-1102 愛媛県松山市来住町 1339 番地 1	TEL(089)955-7600
徳 島 検 査 所 / 〒771-0132 徳島県徳島市川内町平石夷野 224	TEL(088)665-3125

貴院担当